



* 0057088000 *

0057088-000

特 263-305

工兵全書

尚兵館

昭和 13

AJF

見出附
工兵全書
ポッケト入

東京・尚兵館

特 263
305

附出見・トツケホ

工兵全書

⑥ 瓦斯防護教範草案	⑤ 野戰築城教育規定	④ 野戰築城教範	③ 作戰要務令 及綱領、總則 第一部 第二部	② 小銃、輕機 關銃、拳銃 射擊教範	① 工兵操典
------------	------------	----------	---------------------------------	--------------------------	--------

⑫ 陸軍軍隊符號	⑪ 陸軍懲罰令	⑩ 陸軍刑法	⑨ 陸軍禮式 附錄	⑧ 衛戍勤務令	⑦ 軍隊內務書
----------	---------	--------	--------------	---------	---------

行發・館兵尚・京東

凡例

- 一、本書ハ陸軍典範令ノ原本ニ依リ精密ニ之ヲ翻刻シタルモノナレハ全ク典範令ト同様ナリ
- 二、本書ハ各條ノ頭ニ其條ニ相當スル見出ヲ掲ケアレハ所要ノ條項ヲ發見スルニ頗ル便ナリ
- 三、見出ノ傍ニ略字及數字ヲ記シアルハ其條項ト數字ノ條項ト關係アルモノナレハ所要ニ應シ最モ迅速ニ關係事項ヲ索出スルニ便ナリ
- 四、上欄()外ノ數字ハ頁數ヲ示シ()内ノ數字ハ其頁内ニアル條番號ヲ示スモノナレハ條番號ヲ索出スルニ便ナリ
- 五、右ノ如ク親切綿密ニ編輯シタルモノニシテ典範令合本中ノ最高級品タルコトヲ確信ス

勅語

朕多年ノ經驗殊ニ最近軍事ノ進運ニ鑑ミ技ニ工兵操典ヲ改訂ス益々研鑽應用其宜シキヲ得以テ改正ノ本色ヲ發揮セムコトヲ勉ムヘシ

朕工兵操典ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス

御名御璽

昭和八年四月四日

陸軍大臣 荒木貞夫

軍令陸第一號

工兵操典

工兵

工兵操典 目次

綱領	一
總則	四
第一篇 徒手及執銃教練	九
通則	九
第一章 各個教練	九
要則	九
第一節 徒手、執銃	一〇
第一款 徒手	一〇
不動ノ姿勢	一〇
右(左)向、半右(左)向及後向	一〇
行進	一一
第二款 執銃	一一
不動ノ姿勢	一一
右(左)向、半右(左)向及後向	一一
擔銃及立銃	一五
著劍及脫劍	一六

彈藥ノ裝填及抽出	一七
射擊	一八
行進	二一
突擊	二三
第二節 戰鬪	二三
要旨	二三
第一款 射擊	二三
第二款 運動及運動下射擊	二三
連繫	二四
第三款 突擊	二五
夜間ノ動作	二五
第四節 戰鬪間兵一般ノ心得	二六
第二章 中隊教練	二七
要則	二七
第一節 密集	二八
要旨	二八
第一款 編成及隊形	二九
第二款 密集ノ諸動作	二九
整頓	三一
射擊及彈藥ノ裝填、抽出	三一

右(左)向及後向	三三
行進	三四
方向變換	三六
隊形變換	三七
途步	三八
又銃及解銃	三八
解散及集合	四〇
第二節 疎開戰鬪	四〇
要旨	四〇
第一款 分隊	四一
其 一 攻擊	四一
戰鬪ノ爲ノ前進	四一
散開ノ方法	四二
運動及射擊	四三
突擊	四三
其 二 防禦	四九
其 三 集合及併合	五一
第二款 小隊	五一
其 一 攻擊	五一
戰鬪ノ爲ノ前進	五一

火線ノ構成	五三
火線ノ運動及射擊	五四
援隊	五五
突擊	五六
其 二 防禦	五六
第三款 中隊	五九
第三節 夜間ノ行動	六二
第三章 大隊教練	六四
第二篇 作業教練	六五
通則	六五
第一章 基礎教練	六八
要旨	六八
第一節 土工	七〇
第二節 漕舟	七〇
第三節 連結	七一
第四節 木工	七二
第五節 植杭	七二
第六節 重材料ノ取扱	七二
第七節 爆破	七三
第二章 班教練	七四

要則	七四
第一節 築城	七六
第一款 陣地ノ設備	七六
第二款 突擊作業及掃蕩作業	七九
第二節 渡河	八二
第一款 漕渡	八二
第二款 架橋	八四
第三款 交通	八五
第四節 坑道	八七
第三章 中隊教練	八九
要則	八九
第一節 築城	九四
要旨	九四
第一款 陣地ノ設備	九四
第二款 突擊作業及掃蕩作業	九七
第二節 渡河	一〇〇
要旨	一〇〇
第一款 漕渡	一〇〇
第二款 架橋	一〇五
第三款 交通	一〇八

第四節 坑道	一一一
要旨	一一一
第一款 攻擊坑道	一一一
第二款 防禦坑道	一一二
第四章 大隊教練	一一八
附錄	一二
其 一 敬禮及觀兵ノ制式並刀及喇叭ノ取扱法	一二
要則	一二
捧銃	一二
頭右(左)	一二
觀兵ノ制式	一三
刀及喇叭ノ取扱法	一三
其 二 拳銃ノ取扱法	一四
其 三 手榴彈投擲法	一五
要則	一六
基本投擲	一六
應用投擲	一七
附圖	一七
第一 閱兵式ノ隊形(工兵大隊)	一七

第二 分列式ノ隊形(同右)
第三 閱兵式ノ隊形(鐵道、電信聯隊)
第四 分列式ノ隊形(同右)

工兵操典 目次終

1 [1-5] 綱 網

獨斷專行	軍紀	念必勝ノ信	戰捷ノ要	戰ノ目的	軍ノ主眼
第五 凡ソ兵戰ノ事タル獨斷ヲ要スルモノ頗ル多シ然レトモ獨斷ハ其精神ニ	第四 軍紀ハ軍隊ノ命脈ナリ戰線幾十里ニ互リ到ル處境遇チ異ニシ且諸種ノ	第三 培養シ卓越ナル指揮統帥ヲ以テ之ヲ充實ス	第二 集中發揮セシムルニ在リ	第一 軍ノ主トスルトコロハ戰闘ナリ故ニ百事皆戰闘ヲ以テ基準トスヘシ而	第一 戰闘ノ一般ノ目的ハ敵ヲ壓倒滅シテ迅速ニ戰捷ヲ獲得スルニ在リ
以テ第二ノ天性ト成サシムルヲ要ス	任務ヲ有スル幾萬ノ軍隊チシテ上將帥ヨリ下一兵ニ至ルマテ脈絡一貫ク一	之ヲ培養シ卓越ナル指揮統帥ヲ以テ之ヲ充實ス	訓練精到ニシテ必勝ノ信念堅ク軍紀至嚴ニシテ攻撃精神充溢セル軍隊ハ能ク	シテ戰闘ノ一般ノ目的ハ敵ヲ壓倒滅シテ迅速ニ戰捷ヲ獲得スルニ在リ	戰捷ノ要
ノ要素ハ服從ニ在リ全軍ノ將兵チシテ至誠上長ニ服從シ其命令ヲ確守スルヲ	定ノ方針ニ從ヒ衆心一致ノ行動ニ就カシメ得ルモノ即チ軍紀ナリ而シテ軍紀	赫々タル傳統ヲ有スル國軍ハ愈々忠君愛國ノ精神ヲ砥礪シ益々訓練ノ精熟ヲ	物質的威力ヲ凌駕シテ戰捷ヲ完ウシ得ルモノトス	第二 戰捷ノ要ハ有形無形上ノ各種戰闘要素ヲ綜合シテ敵ニ優ル威力ヲ要點	戰ノ目的
テ要素ハ服從ニ在リ全軍ノ將兵チシテ至誠上長ニ服從シ其命令ヲ確守スルヲ	任務ヲ有スル幾萬ノ軍隊チシテ上將帥ヨリ下一兵ニ至ルマテ脈絡一貫ク一	赫々タル傳統ヲ有スル國軍ハ愈々忠君愛國ノ精神ヲ砥礪シ益々訓練ノ精熟ヲ	訓練精到ニシテ必勝ノ信念堅ク軍紀至嚴ニシテ攻撃精神充溢セル軍隊ハ能ク	第二 戰捷ノ要ハ有形無形上ノ各種戰闘要素ヲ綜合シテ敵ニ優ル威力ヲ要點	戰ノ目的

工兵操典

攻撃精神

協同一致

克難

敵ノ意表

於テハ決シテ服從ト相反スルモノニアラス常ニ上官ノ意圖ヲ明察シ大局ヲ判
 斷シテ狀況ノ變化ニ應ジ自ラ其目的ヲ達シ得ヘキ最良ノ方法ヲ選ビ以テ機宜
 ナ制セサルヘカラス
 第六 軍隊ハ常ニ攻撃精神充溢シ志氣旺盛ナラサルヘカラス
 攻撃精神ハ忠君愛國ノ至誠ヨリ發スル軍人精神ノ精華ニシテ鞏固ナル軍隊志
 氣ノ表徴ナリ武技之ニ依リテ精ヲ致シ教練之ニ依リテ光ヲ放チ戰鬪之ニ依リ
 テ捷ヲ奏ス蓋シ勝敗ノ數ハ必スシモ兵力ノ多寡ニ依ラス精練ニシテ且攻撃精
 神ニ富メル軍隊ハ克ク寡ヲ以テ衆ヲ破ルコトヲ得ルモノナレハナリ
 第七 協同一致ハ戰鬪ノ目的ヲ達スル爲極メテ重要ナリ兵種ヲ論セス上下ナ
 間ハス戮力協心全軍一體ノ實ヲ舉ケ始メテ戰鬪ノ成果ヲ期シ得ヘク全般ノ情
 勢ヲ考察シ各々其職責ヲ重シ一意任務ノ遂行ニ努力スルハ即チ協同一致ノ
 趣旨ニ合スルモノナリ而シテ諸兵種ノ協同ハ歩兵ヲシテ其目的ヲ達成セシム
 ルチ主眼トシ之ヲ行フチ本義トス
 第八 戰鬪ハ輒近著シク複雑艱強ノ性質ヲ帶ヒ且資材ノ充實、補給ノ圓滑ハ
 必スシモ常ニ之ヲ望ムヘカラス故ニ軍隊ハ堅忍不拔克ク困苦缺乏ニ堪ヘ難局
 ナ打開シ戰捷ノ一途ニ邁進スルヲ要ス
 第九 敵ノ意表ニ出ツルハ機ヲ制シ勝ヲ得ルノ要道ナリ故ニ旺盛ナル企圖心
 ト追隨チ許ササル創意ト神速ナル機動トヲ以テ敵ニ臨ミ常ニ主動ノ位置ニ立
 チ全軍相戒メテ嚴ニ我方軍ノ企圖ヲ秘匿シ疾風迅雷敵ヲシテ之ニ對應スルノ
 策無カラシムルコトヲ緊要ナリ

指揮官

工兵ノ本

運用ノ妙

第十 指揮官ハ軍隊指揮ノ中樞ニシテ又其團結ノ核心ナリ故ニ常時部下ト苦
 樂ヲ俱ニシ率先躬行軍隊ノ儀表トシテ其尊信ヲ受ケ劍電彈雨ノ間ニ立チ勇猛
 沈著部下ヲシテ仰キテ富嶽ノ重キヲ感セシメサルヘカラス
 爲ササルト遲疑スルトハ指揮官ノ最モ戒ムヘキトコロトス是此兩者ノ軍隊ヲ
 危殆ニ陥ラシムルモノ一其方法ヲ誤ルヨリモ更ニ甚シキモノアレハナリ
 第十一 工兵ノ本領ハ作戰經過ノ全局ニ互リ其特有ノ技術的能力ヲ發揮シテ
 天然ヲ制シ人爲ニ克チ以テ全軍戰捷ノ途ヲ拓クニ在リ之方爲交通ヲ開設シテ
 軍ノ機動ヲ便易ニシ之ヲ遮斷シテ敵ノ作戦ヲ阻碍シ特ニ敵前渡河ニ方リテハ
 友軍ノ攻撃ヲ神速容易ナラシメ堅固ナル敵陣地ニ對シテハ地上若ハ地下ヨリ
 之ニ近迫シ其組織ヲ破碎シテ歩兵ノ爲ニ肉薄突撃ノ自由ヲ與ヘ或ハ陣地ノ骨
 幹ヲ構成シテ軍ノ防禦威力ヲ増大スル等至難ナル各種作業ニ任セサルヘカラ
 ス故ニ工兵ハ各種技術ニ精熟スルノミナラス耐忍ニシテ剛膽機敏常ニ身ヲ挺
 シテ全軍戰捷ノ犠牲タルノ氣魄ナカルヘカラス
 器具、材料ハ工兵ノ任務達成上重要ナル要素ナリ故ニ銃器ト共ニ居常之ヲ尊
 重愛護シテ其機能ヲ保全スルヲ要ス
 第十二 戰鬪ニ於テハ百事簡單ニシテ且精練ナルモノ能ク成功ヲ期シ得ヘシ
 典令ハ此趣旨ニ基キ軍隊訓練上主要ナル原則、法則及制式ヲ示スモノニシテ
 之ヲ運用ノ妙ハ人ニ存ス固ヨリ妄ニ典則ニ乖クヘカラス又之ニ拘泥スルコト
 ナク常ニ工夫ヲ積ミ創意ニ勉メ以テ其實效ヲ揚ケサルヘカラス

的教練ノ目

第一 教練ノ目的ハ指揮官及兵ヲ訓練シテ諸制式及諸法則ニ習熟セシムルト同時ニ軍紀嚴正ニシテ精神鞏固ナル軍隊ヲ練成シ以テ戰時百般ノ要求ニ適應セシムルニ在リ

動作ノ熟達、技術ノ巧妙固ヨリ可ナリト雖精神充實セサルトキハ實戰ニ於テ其眞價ヲ發揮シ難シ故ニ教練ヲ實施スルニ方リテハ常ニ思チ實戰ニ致シ能ク軍人ノ本分ヲ自覺シ服從ノ本義ニ基キ誠意奮勵スルコト緊要ナリ

作業ハ工兵ノ爲最モ重要ナルモノナリ故ニ特ニ力ヲ用ヒ之カ熟練ヲ期セサルヘカラス

第二 中隊長以上ノ諸隊長ハ操典ヲ遵守シテ部下ヲ教育シ教練ノ目的ヲ達スヘキ責任ヲ有ス故ニ自ラ適切ナル教育ノ手段、方法ヲ選定スヘシ然レトモ妄ニ細密ナル事項ヲ規定シ制式、法則ノ内容ヲ複雜ナラシムルヲ許サス

上官ハ絶エス部下ノ教練ノ實施ヲ監督シテ其進歩ヲ圖ルヘシ之カ爲唯外形ノミニ著意スルコトナク深ク其内容ヲ審ニスルコト緊要ナリ

第三 操典ノ制式及法則ニハ戰時ノ要求ニ從ヒ訓練ノ目的ニ應ジ輕重アルノ別シ各隊本然ノ特性ニ鑑ミ課目ノ選擇及訓練ノ度ヲ適當ニ定メ以テ其本末ヲ誤ラサルコトニ留意セサルヘカラス

第四 工兵ハ特ニ夜間ノ作業及行動ニ熟達セサルヘカラス故ニ屢々、演練ヲ重ネ各指揮官ヲシテ適切ニ計畫部署スルコトニ慣レシムルト共ニ軍隊ヲシテ晝

總 則

敵前作業

間ニ於ケルカ如ク整齊確實且靜肅ニ豫期ノ作業及行動ヲ實行シ得シムルヲ要ス

第五 敵前作業ハ工兵ノ爲最モ重要ニシテ而モ至難ノ作業ナリ面シテ其成否ハ戰鬪ノ勝敗ヲ左右スルモノトス

第六 敵前作業ノ教練ハ屢々、他兵種就中歩兵ト連合シテ之ヲ行ヒ以テ協同動作ノ演練ニ勉ムルヲ要ス

第七 命令、通報及報告ノ迅速確實ナル傳達ハ軍隊指揮及部隊ノ協同動作ノ爲必須ノ要件ナリ故ニ各指揮官ハ絶エス連絡ニ深甚ナル注意ヲ拂ヒ困難ナル狀況ニ於テモ諸種ノ手段ヲ盡シテ其實施ヲ敏活且確實ナラシムル如ク演練スルヲ必要トス

第八 戰場ニ在リテハ上空及地上ノ敵ニ對シ我カ企圖及行動ヲ秘匿スルコト極メテ緊要ナリ故ニ教練ノ實施ニ方リテハ蔭影ヲ利用スル遮蔽、偽裝若ハ偽行動等ニ依リ其目的ヲ達スル如ク訓練スルヲ必要トス

第九 工兵ハ敵ノ瓦斯攻撃ヲ受ケ或ハ撒毒地域ニ遭遇スルモ戰機ヲ逸スルコトナク作業及戰鬪ヲ遂行シ得サルヘカラス之カ爲瓦斯ニ對スル搜索、警戒、防護並消毒ノ動作ヲ演練スルコト必要ナリ

第十 教練ト共ニ補助ノ諸演習ヲ併セ行ヒ兵ヲシテ武技ニ習熟セシムルト同

補助諸演

瓦斯ニ對スル動作

對空處置

命令通報

報告ノ傳達連絡

協同

歩兵トノ

敵前作業

協同

歩兵トノ

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

協同

習 第十一 體力ト自信力トヲ増進セシムルヲ必要トス。激刺タル意氣ヲ以テシ且些末ノ事項ト雖モ軍紀ニ關スルモノハ決シテ之ヲ等閑ニ附スヘカラス。

紀 第十二 教練ハ順序ヲ逐ヒ簡ヨリ繁ニ入り易ヨリ難ニ及シ其經過ヲ急遽ナラシムヘカラス又其手段方法ハ兵力及體力ニ適應セシムルヲ要ス之ヲ爲教練ノ進度、課目ノ配合、實施ノ方法ヲ定ムルニ方リテハ特ニ之ニ留意スルコト必要ナリ。

第十三 教練ヲ行フニハ常ニ計畫ヲ定メ其準備ヲ周到ナラシムルヲ要ス殊ニ教練ノ目的ヲ確立シ著眼ヲ定メ實施ヲシテ之ニ副ハシムルコト緊要ナリ而シテ其目的基本ノ動作ヲ演練スル場合ノ外ハ通常狀況ヲ設ケ其動作ヲ實戰的ナラシムルト同時ニ絶エス旺盛ナル企圖心ノ養成ニ留意スルヲ要ス。

想定 第十四 狀況ヲ設ケテ行フ教練ニ在リテハ爲シ得ル限り異ナリタル土地ヲ選定シ以テ地形、地質、天候、氣象等ノ變化ニ應スル各種ノ作業ヲ演練スルヲ可トス然レトモ實際ニ在リテハ諸種ノ制限ヲ受クルコト多キヲ以テ此等ノ利用ヲ巧ニシ能ク教練ノ目的ヲ達スルコトニ留意セサルヘカラス。

同教練ノ實施法 第十五 狀況ヲ設ケテ行フ教練ニ在リテハ實戰ノ光景及感想ヲ現スコトニ勉ムヘシ又演習ノ經過ヲ過早ニシ或ハ實戰ニアルヘカラス。

同實施上ノ注意 第十六 狀況ヲ設ケテ行フ教練ニ在リテハ人員、器材、時間、地域及危害豫防ノ關係上作業若ハ戰鬪ノ全經過ヲ演練スル能ハサルコト屢ナリ此場合ニ於テハ時期ノ區分及經過ノ轉移等ヲ適當ナラシムルコトニ深ク注意スルヲ要ス。

教練ノ復行 第十七 狀況ヲ設ケテ行フ教練ニ方リ若動作ノ適當ナラサルモノアラハ單ニ注意ヲ與フルニ止ムルコトナク爲シ得レハ之ヲ復行スル等各種ノ手段ヲ盡シ以テ其成果ヲ收メサルヘカラス。

率先躬行 第十八 幹部ハ特ニ其態度、服裝ヲ正シクシ常ニ自ラ活潑嚴正ナル動作ノ模範ヲ示スヘシ是幹部ノ率先躬行ハ兵ニ精神上多大ノ感響ヲ與フルモノナレハナリ。

指揮官ノ姿勢 第十九 指揮官ハ教練ニ於テモ實戰ニ在リテ取ルヘキ姿勢ト位置トヲ選ヒテ幹部ノ說明ニハ勉メテ平易ナル詞ヲ用フルコト必要ナリ。

平時ノ顧慮 第二十 教練ニ際シ平時ノ顧慮上時トシテ實際ト異ナル處置、動作ヲ爲サシメサルヲ得サルコトアリ此場合ニ於テハ指揮官ハ要スレハ部下ニ其理由ヲ説

號令命令

明スヘシ又作業ヲ實施シ得サルトキト雖其計畫ヲ立案シ部署及準備ハ勉メテ之ヲ實行スヘシ

第二十一 指揮官ノ意圖ハ號令若クハ命令ニ依リ告達ス

號令及命令ハ能ク部下ヲ驅リテ水火ヲモ敢テ辭セサラシムヘキモノナルヲ以テ堅確ノ決意、嚴肅ノ態度ヲ以テ下スヘシ而シテ號令ハ明快ノ音調ヲ以テ發唱シ命令ハ簡明確切ニシテ下達迅速ナルヲ要ス之カ爲ニハ勉メテ號令詞ヲ用フルヲ便トス

號令ヲ豫令及動令ニ分ツヘキ場合ニ於テハ豫令ハ明瞭ニ長ク動令ハ活潑ニ短ク發唱シ其間ニ適當ノ時間ヲ存スヘシ操典中豫令ハ行書シテ區別ス

第二十二 指揮官ハ狀況ニ依リ記號若ハ號音ヲ以テ號令及命令ニ代ヘ又一般ニ連絡ノ爲記號ヲ用フルコト多シ

記號ハ左ノ如ク行ヒ必要ニ應シ之ヲ反復ス

前進 片手ヲ高ク舉ケ次テ之ヲ其進ムヘキ方向ニ伸ハス

停止 片手ヲ高ク舉ケ直ニ下ロス

駈歩 前進ノ記號ヲ迅速ニ數回連續ス

散開 兩手ヲ左右ニ肩ノ高サニ舉ケ

射擊中止 片手ヲ前方ニ伸ハシ數回左右ニ振ル

武器其他ヲ以テ行フ場合モ亦右ニ準ス

其他所要ニ應シ適宜ノ記號ヲ定ムルモノトス又狀況ニ依リテハ旗、火光、信號彈及音響等ニ依ル記號ヲ用フルヲ便トス

記號號音

將校ハ已ムヲ得サル場合ニ限り部下ノ注意ヲ喚起スル爲小笛ヲ用フルコトアリ

第一篇 徒手及執銃教練

通則

第二十三 徒手及執銃教練ノ目的ハ指揮官及兵ヲ訓練シテ規定ノ動作ヲ修得シ戰闘ヲ遂行シ得シムルニ在リ

第一章 各個教練

要則

第二十四 各個教練ノ目的ハ兵ヲ訓練シテ諸制式及諸法則ヲ修得セシムルト同時ニ軍人精神ヲ鍛ヒ軍紀ヲ練リ部隊教練ノ確乎タル基礎ヲ作ルニ在リ

第二十五 各個教練ヲ行フニ際シテハ兵ニ其目的及精神ヲ説明シ其心得ヘキ要點ヲ會得セシメ之ヲ實施ノ上ニ現サシムルコト緊要ナリ否スンハ教練ハ形式ニ陥リ終ニ戰闘ニ適セサルニ至ルヘシ

第二十六 各個教練ニ於テ生シタル弊習ハ常ニ固著シテ之ヲ除去スルコト難ク各個教練ノ不完全ハ部隊教練ニ於テ之ヲ補フコトモ亦難シ故ニ各個教練ハ綿密嚴格ニ實施スルヲ要ス

第二十七 兵ノ教育ハ其能力ト體力トニ依リ手段ヲ異ニスヘキコト勿論ナリト雖要ハ巧妙ニアラスシテ熟練ニ在リ而シテ熟練ハ教育ノ懇篤適切ナルト複習ヲ厭ハサルトニ依リテ得ラルルモノナリ故ニ各個教練ハ教育ノ各期ヲ通シ

通則

目的

目的精神

弊習

熟練

第二十七 兵ノ教育ハ其能力ト體力トニ依リ手段ヲ異ニスヘキコト勿論ナリト雖要ハ巧妙ニアラスシテ熟練ニ在リ而シテ熟練ハ教育ノ懇篤適切ナルト複習ヲ厭ハサルトニ依リテ得ラルルモノナリ故ニ各個教練ハ教育ノ各期ヲ通シ

勢不動ノ姿
四三

テ之ヲ行フヲ必要トス
第一節 徒手、執銃
第一款 徒手
第二十八 不動ノ姿勢ハ軍人基本ノ姿勢ナリ故ニ常ニ軍人精神内ニ充溢シ外
嚴肅端正ナラサルヘカラス
不動ノ姿勢ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
氣ヲ著ケ

休メ
四

兩踵ヲ一線上ニ揃ヘラ之ヲ著ケ兩足ハ約六十度ニ開キテ齊シク外ニ向ケ兩膝
ハ凝ラスシテ之ヲ伸ハシ上體ハ正シク腰ノ上ニ落チ著ケ脊ヲ伸ハシ且少シク
前ニ傾ケ兩肩ヲ稍、後ロニ引キ一様ニ之ヲ下ケ兩臂ハ自然ニ垂レ掌ヲ股ニ接
シ指ハ輕ク伸ハシテ之ヲ竝ヘ中指ヲ概ネ袴ノ縫目ニ當テ頸及頭ヲ眞直ニ保チ
口ヲ閉チ兩眼ハ正シク之ヲ開キ前ノ方ヲ直視ス
第二十九 休憩ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
休メ

右(左)向
三

先ツ左足ヲ出シ爾後片足ヲ舊ノ所ニ置キ其場ニ立チテ休憩ス
休憩中ト雖許可ナク話スコトヲ禁ス
右(左)向、半右(左)向及後向
第三十 右(左)向或ハ半右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

後向
四

或ハ
右(左)向け 右(左)
半右(左)向け 右(左)
第三十一 後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
廻はれ 右
右足ヲ其方向ニ引キ足尖ヲ僅ニ左踵ヨリ離シ兩足尖ヲ少シク上ケ兩踵ニテ後
ロニ廻ハリ次ニ右踵ヲ左踵ニ引キ著ク

行進
六

第三十二 行進ハ勇往邁進ノ氣概アルヲ要ス
第三十三 速歩ノ一歩ノ長サハ踵ヨリ踵マテ七十五糎ヲ、其速度ハ一分時間
二百十四歩ヲ基準トス
速歩行進ヲ起サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
前へ進メ

左股ヲ少シク上ケ脚ヲ前ニ出シ右足ヨリ七十五糎ノ所ニ脚ヲ伸ハシツツ踏ミ
著ケ同時ニ概ネ脚ヲ伸ハシ全ク體ノ重ミヲ之ニ移ス左足ヲ踏ミ著ケルト同時
ニ右足ヲ地ヨリ離シ左脚ニ就キテ示セル如ク右脚ヲ前ニ出シテ踏ミ著ケ行進

停止 六

右(左)向 前

斜行進

廻れ右前

チ續ケ頭チ眞直ニ保チ兩臂チ自然ニ振ル
第三十四 停止セシムルニハ左ノ號令チ下ス

後ノ足チ一步前ニ踏ミ出シ次ノ足チ引キ著ケテ止ル
第三十五 行進間右(左)向チ爲サシムルニハ左ノ號令チ下ス

左(右)足チ約半歩前ニ足尖チ内ニシテ踏ミ著ケ體チ右(左)方ニ向ケ右(左)足ヨリ新方向ニ行進ス
第三十六 行進間斜行進チ爲サシムルニハ左ノ號令チ下ス

左(右)足チ約半歩前ニ足尖チ内ニシテ踏ミ著ケ體チ半ハ右(左)方ニ向ケ右(左)足ヨリ新方向ニ行進ス
斜行進チ爲スト同法チ以テ直行進ニ復ス
第三十七 行進間後向チ爲サシムルニハ左ノ號令チ下ス

左足チ約半歩前ニ足尖チ内ニシテ踏ミ出シ兩足尖ニテ百八十度右方ニ旋回シ續キテ行進ス
廻れ右前ニ進メ

步調止メ

步調取レ

折敷 六

起テ

六三

第三十八 速步行進間行進チ容易ナラシムルニハ左ノ號令チ下ス
步調止メ

正規ノ歩法チ守ルコトナク速歩ノ歩長ト速度トニテ姿勢チ崩スコトナク行進ス
再ヒ正規ノ歩法チ取ラシムルニハ左ノ號令チ下ス
第三十九 折敷(伏臥)チ爲サシムルニハ左ノ號令チ下ス

折敷(伏セ)
行進間ニ在リテ折敷チ爲スニハ右足チ踏ミ著ケ左足チ約半歩右足尖ノ前ニ足尖チ僅ニ内ニシテ踏ミ出スト同時ニ上體チ半ハ右ニ向ケ左手チ以テ劍鞘チ前ニ拂ヒ右脚チ曲ケ其股チ地ニ著ケ臀チ右足ノ後方ニ於テ地ニ著ケ左脚チ立テ兩手チ握リ右手チ右股ノ上ニ、左前臂チ左膝ノ上ニ置ク伏臥チ爲スニハ左足

ナ折敷ノトキニ於ケル如ク踏ミ出スト同時ニ上體チ半ハ右ニ向ケ右膝チ地ニ著ケ次テ左膝チ地ニ著ケ左手チ體ノ前ニ出シ地ニ著ケ伏臥シ兩手チ握リ右前臂チ左前臂ニ載ス
停止間ニ在リテモ亦之ニ準ス
第四十 折敷(伏臥)ニ於テ要スレハ其姿勢ノ儘休憩セシムルコトチ得

起テ
折敷(伏臥)ニ在ルトキ起立セシムルニハ左ノ號令チ下ス

駢歩

駢歩諸動作

折敷ニ在ルトキハ上體ヲ上ケ右脚ヲ立テ右足ヲ左足ニ引キ著ケ伏臥セルトキハ右脚ヲ曲ケ兩膝ヲ地ニ著ケタル儘左手ニテ上體ヲ起シ左足ヲ約一步前ニ踏ミ出シテ起チ右足ヲ左足ニ引キ著ケク
第四十一 駢歩ハ一步ノ長サヲ踵ヨリ踵マテ約八十五糎トシ其速度ハ一分時間ニ約百七十歩トス
駢歩行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
豫令ニテ右手ヲ握リ腰ノ高サニ上ケ肘ヲ後ロニスルト共ニ左手ニテ劍韠ヲ握ル

豫令ニテ右手ヲ握リ腰ノ高サニ上ケ肘ヲ後ロニスルト共ニ左手ニテ劍韠ヲ握ル
動令ニテ左脚ヲ前ニ出ス其法兩脚ヲ少シク屈メテ僅ニ左股ヲ上ケ右足ヨリ約八十五糎ノ所ニ踏ミ著ケ次ニ左脚ト同法ヲ以テ右脚ヲ前ニ出シ常ニ體ノ重ミヲ踏ミツケタル足ニ移シ兩臂ヲ自然ニ振り續キテ行進ス
「分隊 止レ」ノ號令ニテ二歩前進シタル後後ノ足ヲ一步前ニ踏ミ出シ次ノ足ヲ引キ著ケテ止リ右手ヲ下ロスト共ニ劍韠ヲ放ツ
駢歩行進ヨリ速歩行進ニ移ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
速歩 進メ
二歩前進シタル後速歩ニ移リ右手ヲ下ロスト共ニ劍韠ヲ放チ續キテ行進ス
第四十二 駢歩行進間ノ諸動 速歩行進間ニ於ケル要領ニ準シテ行フ但速歩ニ於ケルヨリモ二歩多ク前進シタル後動作スルモノトス

第二款 執銃

不動ノ姿 勢 二六

休メ 二九

右(左)向 後向 三〇、三二

擔銃

第四十三 不動ノ姿勢ハ第二十八ニ同シ但右手ヲ以テ確實ニ銃ヲ握ル其法腕關節ヲ稍、前ニ出シ銃身ヲ拇指ト食指トノ間ニ置キ其他ノ指ハ食指ト共ニ閉チ輕ク屈メテ銃床ニ添フ銃口ハ右臂ヨリ一握程(約十糎)ヲ隔テ銃身ヲ後ロニシ床尾踵ヲ右足尖ノ傍ニ置キ銃身ヲ概ネ垂直ニ保ツ
〔三八式騎銃(以下騎銃ト略稱ス)ニ在リテハ、銃口ハ右臂ヨリ一握程(約十糎)ヲ隔テ除ク〕
第四十四 休憩ハ第二十九ニ同シ但照星ヲ擦ラサル如ク銃ヲ保ツ
〔騎銃ニ在リテハ但書ヲ除ク〕
右(左)向、半右(左)向及後向
第四十五 右(左)向、半右(左)向及後向ハ第三十、第三十一ニ同シ但右手ヲ以テ少シク銃ヲ上ケ腰ニ支ヘ動作終ハハ靜カニ之ヲ下ロス
擔銃及立銃
第四十六 擔銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
擔銃
右手ヲ以テ銃ヲ上ケ概ネ銃身ヲ右ニ且之ヲ垂直ニシ拳ヲ略、肩ノ高サニスルト同時ニ左手ヲ以テ照尺ノ下ヲ握リ銃身ヲ半ハ前ノ方ニ向ケ少シク銃ヲ上クルト同時ニ右手ヲ伸ハシテ食指ト中指トノ間ニ床尾踵ヲ置ク如ク床尾ヲ握リ

立銃

要旨

著劍

タル後右手ヲ以テ銃ヲ右肩ニ擔ヒ銃身ヲ上ニスルト同時ニ左手ヲ遊底ノ上ニ置キ右上膊ヲ輕ク體ニ接シ床尾ノ銀ヲ體ヨリ一握程離シ銃ハ上衣ノ釦ノ線ト平行セシメ槓桿ノ高サヲ概ネ其第一、第二釦ノ中央ニシ左手ヲ下口ス

〔騎銃ニ在リテハ用心鐵ト床嘴トノ中央ヲ體ヨリ一握程離シ槓桿ノ高サハ概ネ上衣ノ第一釦ト同高ニス〕

第四十七 擔銃ヨリ立銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

立テ銃

右手ヲ伸ハシテ銃ヲ下ケ銃身ヲ半ハ右ノ方ニ向ケ概ネ之ヲ垂直ニスルト同時ニ左手ヲ以テ照尺ノ下ヲ握リ銃ヲ下ケ銃身ヲ右ニスルト同時ニ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リ其拳ヲ略々肩ノ高サニシ銃身ヲ後口ニシ之ヲ下ケ腰ニ支ヘ同時ニ左手ヲ下口シテ靜ニ銃ヲ地ニ著ク

著劍及脱劍

第四十八 著劍及脱劍ハ停止 行進間如何ナル姿勢ト場合トヲ問ハス之ヲ行

著劍及脱劍ハ注目シテ之ヲ行フモノトス

第四十九 著劍ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

著ケ劍

不動ノ姿勢ニ在ルトキハ右手ヲ以テ銃ヲ左ニ傾ケ銃身ヲ少シク右ニシ銃口ヲ概ネ體ノ中央ニシ左手ヲ以テ逆ニ銃劍ノ柄ヲ握リ銃劍ヲ抜キテ確ニ銃口ノ所

脱劍

要旨

裝填

ニ著ケ兩手ヲ以テ銃ヲ起シ不動ノ姿勢ニ復ス

第五十 脱劍ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

脱レ劍

不動ノ姿勢ニ在ルトキハ右手ヲ以テ著劍ニ於ケル如ク銃ヲ左ニ傾ケ左手ニテ銃劍ノ柄ヲ握リ右手ヲ上ケ其拇指ニテ駐筈ヲ押シ左手ニテ銃劍ヲ脱シ之ヲ右ノ方ニ倒シテ劍尖ヲ下ニシ右手ノ食指、中指ト拇指トニテ双ヲ挟ミ持チ其餘ノ指ニテ銃ヲ保チ左手ヲ翻シテ柄ヲ握リ銃劍ヲ全ク鞞ニ納メ左手ヲ以テ右手ノ下ヲ握リ右手ヲ下ケテ木被ノ所ヲ握リ兩手ヲ以テ銃ヲ起シ不動ノ姿勢ニ復ス

彈藥ノ裝填及抽出

第五十一 裝填ハ通常停止間ニ於テ行フモノトス兵ハ如何ナル姿勢ト場合ト

第五十二 裝填ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

彈藥ヲ込メ

不動ノ姿勢ニ在ルトキハ頭ヲ正面ニ保チタル儘銃口ヲ左前上方ニスル如ク右手ヲ以テ銃ヲ概ネ體ノ中央前ニ上ケ左手ヲ以テ概ネ銃ノ重點ノ所ヲ握リ其臂ヲ體ニ著ケ指ハ銃床ノ溝ニ置キ床鼻ヲ右乳ノ右下方ニ在ル如ク床尾ヲ體ニ接ス

抽彈

〔騎銃ニ在リテハ左手ヲ以テ概ネ銃ノ重點ノ所ヲ握リ其前臂ヲ概ネ垂直ニシ
床鼻ヲ第三、第四釘ノ中間ノ高サニ在ル如ク床尾ヲ輕ク體ニ接ス〕
注目シテ右手ヲ以テ下ヨリ槓桿ヲ握リ之ヲ起シツツ十分後ロニ引キ彈藥盒ノ
蓋ノ留革ヲ脱シ其蓋ヲ開キ彈藥ヲ撮ミ出シ彈頭ヲ前ニシ挿彈子溝ニ嵌メ拇指
ノ頭ヲ彈藥ノ後部ニ當テ彈倉内ニ押シ入レ次ニ槓桿ヲ握リ遊底ヲ閉チ右掌ヲ
以テ擊莖駐脚ヲ押シ右ニ廻ハシ銃ヲ安全裝置ニシ彈藥盒ノ蓋ヲ閉チ留革ヲ掛
ケタル後前ノ方ヲ直視シ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リ不動ノ姿勢ニ復ス

第五十三

彈藥ヲ抽キ出サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

第五十四

射擊ハ兵ノ戰鬥動作中重要ナルモノナリ故ニ執銃ノ射擊ニ於テ綿

第五十五

良好ナル射擊姿勢ハ命中ノ状態ニ在ルヲ要ス

第五十六

射擊ノ姿勢ヲ取ラシムルニハ目標ヲ示シタル後左ノ號令ヲ下ス

第五十七

立射(據射)ノ構ヘ銃

第五十八

不動ノ姿勢ニ在ルトキ立射ノ姿勢ヲ取ルニハ先ツ示サレタル目標ニ正對シ頭

第五十九

其方向ニ保チタル儘右足ヲ以テ半ハ右ニ向キツツ左足ヲ約半歩左前ニ踏

第六十

ミ出シ同時ニ右手ヲ以テ銃ヲ上ケツツ前ニ倒シ左手ヲ以テ概ネ銃ノ重點ノ所

第六十一

ヲ握リ少シク下ニシ床尾ヲ體ニ接シ裝填シタル後右手ヲ以テ概ネ右側面ヨリ

第六十二

銃把ヲ握リ目標ニ注目ス

第六十三

不動ノ姿勢ニ在ルトキ立射ノ姿勢ヲ取ルニハ先ツ示サレタル目標ニ正對シ頭

第六十四

其方向ニ保チタル儘右足ヲ以テ半ハ右ニ向キツツ左足ヲ約半歩左前ニ踏

第六十五

ミ出シ同時ニ右手ヲ以テ銃ヲ上ケツツ前ニ倒シ左手ヲ以テ概ネ銃ノ重點ノ所

第六十六

ヲ握リ少シク下ニシ床尾ヲ體ニ接シ裝填シタル後右手ヲ以テ概ネ右側面ヨリ

第六十七

銃把ヲ握リ目標ニ注目ス

第六十八

不動ノ姿勢ニ在ルトキ立射ノ姿勢ヲ取ルニハ先ツ示サレタル目標ニ正對シ頭

第六十九

其方向ニ保チタル儘右足ヲ以テ半ハ右ニ向キツツ左足ヲ約半歩左前ニ踏

第七十

ミ出シ同時ニ右手ヲ以テ銃ヲ上ケツツ前ニ倒シ左手ヲ以テ概ネ銃ノ重點ノ所

第七十一

ヲ握リ少シク下ニシ床尾ヲ體ニ接シ裝填シタル後右手ヲ以テ概ネ右側面ヨリ

第七十二

銃把ヲ握リ目標ニ注目ス

第七十三

不動ノ姿勢ニ在ルトキ立射ノ姿勢ヲ取ルニハ先ツ示サレタル目標ニ正對シ頭

第七十四

其方向ニ保チタル儘右足ヲ以テ半ハ右ニ向キツツ左足ヲ約半歩左前ニ踏

第七十五

ミ出シ同時ニ右手ヲ以テ銃ヲ上ケツツ前ニ倒シ左手ヲ以テ概ネ銃ノ重點ノ所

第七十六

ヲ握リ少シク下ニシ床尾ヲ體ニ接シ裝填シタル後右手ヲ以テ概ネ右側面ヨリ

第七十七

銃把ヲ握リ目標ニ注目ス

第七十八

不動ノ姿勢ニ在ルトキ立射ノ姿勢ヲ取ルニハ先ツ示サレタル目標ニ正對シ頭

第七十九

其方向ニ保チタル儘右足ヲ以テ半ハ右ニ向キツツ左足ヲ約半歩左前ニ踏

第八十

ミ出シ同時ニ右手ヲ以テ銃ヲ上ケツツ前ニ倒シ左手ヲ以テ概ネ銃ノ重點ノ所

第八十一

ヲ握リ少シク下ニシ床尾ヲ體ニ接シ裝填シタル後右手ヲ以テ概ネ右側面ヨリ

第八十二

銃把ヲ握リ目標ニ注目ス

第八十三

不動ノ姿勢ニ在ルトキ立射ノ姿勢ヲ取ルニハ先ツ示サレタル目標ニ正對シ頭

第八十四

其方向ニ保チタル儘右足ヲ以テ半ハ右ニ向キツツ左足ヲ約半歩左前ニ踏

第八十五

ミ出シ同時ニ右手ヲ以テ銃ヲ上ケツツ前ニ倒シ左手ヲ以テ概ネ銃ノ重點ノ所

第八十六

ヲ握リ少シク下ニシ床尾ヲ體ニ接シ裝填シタル後右手ヲ以テ概ネ右側面ヨリ

第八十七

銃把ヲ握リ目標ニ注目ス

第八十八

不動ノ姿勢ニ在ルトキ立射ノ姿勢ヲ取ルニハ先ツ示サレタル目標ニ正對シ頭

第八十九

其方向ニ保チタル儘右足ヲ以テ半ハ右ニ向キツツ左足ヲ約半歩左前ニ踏

第九十

ミ出シ同時ニ右手ヲ以テ銃ヲ上ケツツ前ニ倒シ左手ヲ以テ概ネ銃ノ重點ノ所

第九十一

ヲ握リ少シク下ニシ床尾ヲ體ニ接シ裝填シタル後右手ヲ以テ概ネ右側面ヨリ

第九十二

銃把ヲ握リ目標ニ注目ス

第九十三

不動ノ姿勢ニ在ルトキ立射ノ姿勢ヲ取ルニハ先ツ示サレタル目標ニ正對シ頭

第九十四

其方向ニ保チタル儘右足ヲ以テ半ハ右ニ向キツツ左足ヲ約半歩左前ニ踏

第九十五

ミ出シ同時ニ右手ヲ以テ銃ヲ上ケツツ前ニ倒シ左手ヲ以テ概ネ銃ノ重點ノ所

第九十六

ヲ握リ少シク下ニシ床尾ヲ體ニ接シ裝填シタル後右手ヲ以テ概ネ右側面ヨリ

第九十七

銃把ヲ握リ目標ニ注目ス

第九十八

不動ノ姿勢ニ在ルトキ立射ノ姿勢ヲ取ルニハ先ツ示サレタル目標ニ正對シ頭

射擊姿勢 六五

立射

膝射

伏射

密周到ニ教育シ以テ戰鬥ノ射擊ノ爲確乎タル基礎ヲ作ルコト必要ナリ
第五十五 良好ナル射擊姿勢ハ命中ノ状態ニ在ルヲ要ス
射擊ノ姿勢ヲ取ラシムルニハ目標ヲ示シタル後左ノ號令ヲ下ス

立射(據射)ノ構ヘ銃
不動ノ姿勢ニ在ルトキ立射ノ姿勢ヲ取ルニハ先ツ示サレタル目標ニ正對シ頭

其方向ニ保チタル儘右足ヲ以テ半ハ右ニ向キツツ左足ヲ約半歩左前ニ踏

ミ出シ同時ニ右手ヲ以テ銃ヲ上ケツツ前ニ倒シ左手ヲ以テ概ネ銃ノ重點ノ所

ヲ握リ少シク下ニシ床尾ヲ體ニ接シ裝填シタル後右手ヲ以テ概ネ右側面ヨリ

銃把ヲ握リ目標ニ注目ス

不動ノ姿勢ニ在ルトキ立射ノ姿勢ヲ取ルニハ先ツ示サレタル目標ニ正對シ頭

其方向ニ保チタル儘右足ヲ以テ半ハ右ニ向キツツ左足ヲ約半歩左前ニ踏

ミ出シ同時ニ右手ヲ以テ銃ヲ上ケツツ前ニ倒シ左手ヲ以テ概ネ銃ノ重點ノ所

ヲ握リ少シク下ニシ床尾ヲ體ニ接シ裝填シタル後右手ヲ以テ概ネ右側面ヨリ

銃把ヲ握リ目標ニ注目ス

不動ノ姿勢ニ在ルトキ立射ノ姿勢ヲ取ルニハ先ツ示サレタル目標ニ正對シ頭

其方向ニ保チタル儘右足ヲ以テ半ハ右ニ向キツツ左足ヲ約半歩左前ニ踏

ミ出シ同時ニ右手ヲ以テ銃ヲ上ケツツ前ニ倒シ左手ヲ以テ概ネ銃ノ重點ノ所

ヲ握リ少シク下ニシ床尾ヲ體ニ接シ裝填シタル後右手ヲ以テ概ネ右側面ヨリ

銃把ヲ握リ目標ニ注目ス

不動ノ姿勢ニ在ルトキ立射ノ姿勢ヲ取ルニハ先ツ示サレタル目標ニ正對シ頭

其方向ニ保チタル儘右足ヲ以テ半ハ右ニ向キツツ左足ヲ約半歩左前ニ踏

射教五乃
至六
擊テ

ク踏ミ出スト同時ニ上體ヲ半ハ右ニ向ケ右膝ヨリ逐次ニ地ニ著ケ左手ヲ體ノ前ニ出シ地ニ著ケ體ヲ射擊方向ニ對シ約三十度ニシテ伏臥シ左手ヲ以テ立射ノ如ク銃ヲ保チ裝填シタル後右手ヲ以テ稍、下方ヨリ銃把ヲ握リ目標ニ注目シ銃把ヲ腮ノ稍、前ニ在ル如クシ兩肘ヲ地ニ支フ
射擊ノ姿勢ヲ取リタルトキハ何レノ姿勢ニ在リテモ銃口ヲ概ネ目ノ高サニシテ右手ノ食指ヲ用心鐵ノ内ニ入レテ伸ハシ豫メ裝填シアルトキハ銃ヲ擊發裝置ニスルモノトス
射擊姿勢ヲ取リタル後不具合ヲ感スルトキハ其姿勢ノ儘速ニ修正シ膝射ノ姿勢ニ在リテハ體格ニ依リ臂ヲ右足ノ上ニ載スルトコトヲ得
第五十六 据銃、照準、擊發及照尺ノ用法ハ小銃、輕機關銃、拳銃射擊教範ニ據ルヘシ
第五十七 射擊ヲ爲サシムルニハ照尺ヲ示シタル後左ノ號令ヲ下ス
據銃、照準及擊發ヲ爲シ要スレハ彈藥ヲ裝填シ爾後之ヲ連續ス而シテ彈藥ヲ裝填スル毎ニ彈藥盒ノ蓋ヲ閉チ留革ヲ掛ケ置クモノトス
第五十八 射擊ヲ中止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
撃方待テ
撃方待テ
銃ヲ構ヘ次發ノ用意ヲ爲ス
第五十九 射擊ヲ止メシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

撃方止メ

撃方止メ

撃方止メ

注目シテ銃ヲ安全裝置ニシ照尺ヲ舊位ニ復シ頭ヲ目標ノ方向ニ立射ニ在リテハ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リ左踵ニテ舊方ニ向キツツ右足ヲ左足ニ引キ著ケ膝射ニ在リテハ臂ヲ地ヨリ離シ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リテ起チ目標ノ方向ニ向キツツ右足ヲ左足ニ引キ著ケ伏射ニ在リテハ其姿勢ヲ取リタルトキト概ネ反對ノ順序ヲ以テ上體ヲ起シ左足ヲ約一步前ニ踏ミ出シテ起チ右足ヲ左足ニ引キ著ケ不動ノ姿勢ニ復ス

行進

前進停止

第六十 執銃ノ行進ハ豫令ニテ擔銃ヲ爲シ動令ニテ發進ヲ起スモノトス但駢歩行進ニ在リテハ擔銃ヲ爲シタル後劍韋ヲ握ル
「止」レノ動令ニテ停止シ立銃ヲ爲ス
銃ヲ擔フコトナク行進スル場合ニハ右手ヲ以テ少シク銃ヲ上ケ腰ニ支ヘ駢歩ヲ行フトキトハ劍韋ヲ握ル停止セハ直ニ不動ノ姿勢ヲ取ル

折敷伏セ

三九、四〇

第六十一 行進間ニ在リテ折敷(伏臥)ヲ爲スニハ「折敷」ノ號令ニテ第三十九號令ニテ第三十九號令ニテ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リ左前臂ヲ左膝ノ上ニ置ク「伏セ」ノ姿勢ヲ取リ立銃ノトキニ於ケル如ク銃ヲ下ロシ之ヲ右膝ノ前ニ立テ銃ヲ體ノ前ニ出シ地ニ著ケ伏臥シ木被ノ所ニ就キ銃ヲ左前臂ニ載セ槓桿ヲ上ニ

停止間ニ在リテモ亦之ニ準ス

起テ

四〇

第六十二 折敷(伏臥)ニ在ルトキ「起テ」ノ號令ニテ第四十二準シテ起テ不動ノ姿勢ヲ取ル

突撃

第六十三 突撃ハ猛烈果敢ニシテ敵ヲ壓倒スルノ氣勢充溢セサルヘカラス

突撃

突撃ニテ右手ヲ以テ木被ノ所ニ就キ銃ヲ確實ニ握リ銃口ヲ上ニシテ提ケ動令ニテ駈歩ト同要領ニテ前進シ次テ「突込メ」ノ號令ニテ喊聲ヲ發シ敵ニ向ヒテ突入シ格闘ス但突入ノ稍、前ニ於テ兩手ヲ以テ銃ヲ保持シテ刺突ノ準備ヲ爲ス

突撃

射撃シアルトキハ豫令ニテ銃ヲ安全裝置ニシ動令ニテ前項ニ從ヒ動作スルモノトス

突撃

突撃ニ於テハ劍鞘ヲ握ラサルモ妨ナシ

突撃

演習ニ在リテハ格闘ニ先タチ「止レ」ノ號令ヲ下ス然ルトキハ停止シ敵ヲ刺突スルノ構ヲ爲ス

突撃

第六十四 戰闘ノ各個教練ハ兵ヲシテ散兵ノ動作ニ必要ナル基礎ヲ得シムルヲ目的トス之カ爲常ニ敵情ニ注意シ地形ヲ利用シテ行進シ停止シ射撃シ突撃スルコトヲ修得セシムルヲ要ス但隣兵トノ連繫協同ニ關スル動作ハ分隊教練

要旨

第二節 戰闘 要旨

射撃教育

四一

ニ於テ演練スルモノトス

照準點

第六十五 射撃ノ教育ハ正確ヲ主トスヘシ之カ爲目標ヲ確認シ照尺ノ裝置ヲ正シクシ据銃ヲ確實ニシ精密ニ照準シ常ニ沈著シテ能ク正確ナル射撃ヲ行ヒ得ル如ク訓練スルコト肝要ナリ

地形地物

第六十六 照準點ハ通常目標ノ下際トス

利用

第六十七 射撃ノ爲地形、地物ヲ利用スル要旨ハ銃ノ最大威力ヲ現ス主トシ次ニ遮蔽ノ效用ヲ顧慮スルニ在リ而シテ地形、地物ノ利用ニ方リ射撃姿勢ハ兵ノ體格ニ最モ能ク適應セシムルコト緊要ナリ

小地物及

第六十八 地物ハ土塊等ヲ利用シテ射撃姿勢ヲ堅確ナラシメ若ハ銃ヲ地物ニ依テスルハ射撃效力ヲ發揚スルニ價値アルモノトス

依托

第六十九 胸壁ニ據ル射撃ハ身體ノ左側又ハ前部ヲ内斜面ニ接シ左肘或ハ兩肘ヲ臂坐ニ置キ銃ヲ胸壁ニ托ス此場合ニ於テハ左手ヲ以テ床尾ヲ握リ拇指ヲ内側ニ當テ他ノ四指ヲ外側ニ當テ銃ヲ肩ニ引キ著ク右手ヲ以テ強ク銃把ヲ握リ射撃スルヲ可トス

射物地形、地

第七十 射物地形、地物ヲ利用スル膝射ノ姿勢ニ在リテハ右足尖ヲ立テ膝ヲ右踵ノ上ニ載セ或ハ臂ヲ地若ハ右足(右踵)ヨリ上ケ或ハ兩膝ヲ開キテ地ニ著ケ或ハ兩脚ヲ前ニ出シ或ハ兩膝ヲ立テテ兩肘ヲ其上ニ置キ臂ヲ地ニ著ケ又左手

射物地形、地

或ハ兩脚ヲ前ニ出シ或ハ兩膝ヲ立テテ兩肘ヲ其上ニ置キ臂ヲ地ニ著ケ又左手

伏射

ノ掌ヲ用心鐵ニ接シテ之ヲ内ニ向ケ或ハ左肘ヲ膝ヨリ離シテ立射ノ如クスル
コトアリ
敵ニ對シ左右ニ傾斜セル土地ニ於ケル伏射ノ姿勢ニ在リテハ射撃方向ニ對ス
ル體ノ角度ヲ増減シ又ハ片肘ヲ閉閉シ或ハ脚ヲ曲クル等ノ手段ニ依リ姿勢ノ
安定ト据銃ノ確實トニ注意スルコト必要ナリ

運動教育

第二款 運動及運動ト射撃トノ連繫

運動法

第七十 運動ノ教育ニ在リテハ發進及停止ノ動作ヲ機敏ニシ敵ヲシテ有利ナ
ル目標ヲ捕捉シ難カラシムル如ク訓練スルヲ要ス

前進

第七十一 兵ハ第六十三ニ準シ銃ヲ提ケ示サレタル歩度ニ從ヒ適宜ノ歩法ヲ
以テ運動ス
第七十二 射撃中ノ兵ヲ駈歩(早駈)ニテ前方(斜前方)ニ前進セシムルニハ左
ノ號令ヲ下ス

駈歩(早駈)

前へ(斜ニ右(左)へ)

「駈歩」(「早駈」)ノ號令ニテ兵ハ銃ヲ安全裝置ニシ表尺ヲ倒シ右手ヲ以テ木被
ノ所ヲ握リ迅速ニ前進準備ヲ整へ「前」(「斜ニ右(左)へ」)ノ號令ニテ直ニ駈
歩(早駈)ニテ前進ス此際準備ノ爲著シク姿勢ヲ變化シ敵ノ注意ヲ喚起シ無益
ノ損害ヲ受ケサルコト必要ナリ
駈歩若ハ早駈ヲ爲ス場合ニ於テハ劍韋ヲ握ラサルモ妨ナシ
速歩ニテ前方(斜前方)ニ前進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

停止

前へ(斜ニ右(左)へ)
速ニ銃ヲ安全裝置ニシ表尺ヲ倒シ速歩ニテ前進ス
射撃シアラサルトキノ發進ハ前諸項ニ準シテ行フモノトス
行進間斜行進(斜行進間直行進)ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
斜ニ右(左)へ(斜ニ左(右)へ)

第七十三

射撃ノ爲兵ヲ停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

兵ハ射撃ノ爲利用セントスル地形、地物ヲ選擇シ之ニ適應スル射撃姿勢ヲ取
リ速ニ射撃ノ準備ヲ完了ス此際地形、地物ノ選擇利用ノ爲躊躇スルコトアル
ヘカラス

射撃ノ目的ヲ有セスシテ兵ヲ停止セシムルニハ「伏せ」(「折敷」)ノ號令ヲ下ス
兵ハ敏活ニ地形、地物ヲ利用シテ伏臥(折敷)ヲ爲シ敵ノ目視ヲ避クルヲ必要
トス

伏臥ニ方リテハ照星及銃口ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

第三款 突撃

著劍

第七十四 兵ハ敵ニ近接シテ突撃ノ顧慮アルニ至レハ自ら著劍スヘシ

突撃

第七十五 突撃ノ爲ニハ第六十三ヲ準用ス但狀況ニ依リ適宜歩度ヲ伸暢ス

第七十六

兵ハ夜暗ニ慣レ特ニ耳目ヲ活動シテ大膽且沈靜ニ動作シ得サルヘ
カラス

地形地物
方向方位

靜肅

射擊

突擊

兵ノ覺悟

指揮官ノ
死傷ト兵

第七十七 兵ニハ晝夜ニ於ケル地形、地物ノ價值ノ變化ヲ體驗セシメ又著明ナル目標又ハ晝間記憶セル地形、地物等ニ依リ行進方向ヲ維持スルコトニ慣レシムルヲ要ス又夜間ニ於ケル簡單ナル方位判定ノ能力ヲ附與スルコトニ必要ナリ

第七十八 夜間敵ノ認識ヲ避ケ我カ企圖ヲ秘匿スル爲ニハ敵ニ察知セラレサル如ク靜肅ニ行進スル方法、著裝及兵器等ノ取扱ニ於テ音響發生ヲ防止スル處置、記號ニ應スル行動並照明ヲ受ケタル場合ノ動作等ニ習熟セシメ又妄ニ音聲ヲ發セサル習慣ヲ養成スルコト必要ナリ

第七十九 夜間射擊ニ在リテハ豫メ射擊セントスル地點ニ對シ標定設備ヲ行ヒ或ハ銃ヲ地面ト平行ニシ且正確ナル据銃ニ依リ最近距離ノ目標ニ對シ效力ヲ收メ得ルヲ必要トス

第八十 夜間ノ突擊ニ在リテハ喊聲ヲ發セサルモノトス

第八十一 兵ハ敵ノ火力熾ニシテ死傷極メテ多キト雖自己ノ責任ヲ自覺シ從容自若トシテ事ニ當リ決シテ遠巡スヘカラス若彈藥ヲ射盡シ又ハ敵ノ重圍ニ陥リタルトキハ自己ノ銃劍ニ信賴シ最後ノ勝利ヲ求ムルコトニ勉ムヘシ

第八十二 指揮官ノ死傷多キハ實ニ戰場ニ於ケル常態ナリ故ニ兵ハ縱ヒ指揮官ヲ失フニ至ルモ志氣ヲ阻喪スルカ如キコトナク益々勇奮率先範ヲ示シ自ラ他ヲ率キルノ概ヲ以テ戰闘スルヲ要ス此際戰勝ノ榮譽ヲ獲得シ得ルト否トハ一ニ懸リテ殘存セル者ノ雙肩ニ在ルコトヲ銘肝スヘシ

負傷

他兵種ニ
對スル戰

瓦斯

所屬部隊

第八十三 兵ハ戰線ニ於テ負傷スルモ百方手段ヲ盡シテ戰闘ヲ繼續スヘシ而シテ遂ニ戰闘ニ堪ヘサルニ至レハ指揮官ノ命ニ依リ彈藥ヲ戰友ニ交付シテ徐ロニ戰線ヲ退クモノトス

第八十四 軍紀嚴正ニシテ沈著セル工兵ハ射擊ニ依リ優勢ナル騎兵ノ襲擊或ハ飛行機ノ地上戰闘參加ヲ擊退シ或ハ砲兵ノ猛射ヲ受クルモ其間斷ヲ利用シ行動ヲ繼續シ得ルモノトス又優勢ナル戰車ノ攻撃ヲ受クルモ毅然トシテ克ク自己ノ任務ニ向ヒテ邁進シ得サルヘカラス

第八十五 瓦斯攻撃ヲ受クルカ或ハ之カ警報ヲ聞クカ若ハ撤毒シアルヲ豫察シタルトキハ直ニ比隣相傳ヘ別命ヲ待タス各自迅速確實ニ防毒面ヲ裝著スヘシ

防毒面ノ離脱ハ小隊長以上ノ指揮官ノ命令ニ依ルヲ本則トス

第八十六 兵ハ許可ナク其所屬部隊ヲ離ルルコトヲ得ス若任務ヲ帶ヒス或ハ尙戰闘ニ堪ヘ得ヘキ輕傷ニシテ恣ニ戰線ヲ去リ又ハ戰闘中命令ヲ受ケスシテ負傷者ヲ介護若ハ運搬シ其他任務ヲ受ケテ一時戰線ヲ離ルル場合ニ於テモ其任務遂行後速ニ復歸セサルカ如キハ卑怯ノ行爲ニシテ軍人ノ本分ヲ傷クルモノトス

兵若所屬部隊ノ所在ヲ失ヒタルトキハ直ニ近傍ニ於テ戰闘スル部隊ニ合シ其將校ニ届告シ其命ニ從フヘシ而シテ戰闘終レハ直ニ其所屬部隊ニ復歸スルヲ要ス

第二章 中隊教練

目的 第八十七 中隊教練ノ目的ハ中隊ヲ訓練シテ如何ナル場合ニ於テモ中隊長ノ意圖ノ如ク確實ニ規定ノ行動ヲ實行シ得シムルニ在リ

中隊教練ハ密集ニ在リテハ主トシテ中隊ヲ以テ、疎開戰鬪ニ在リテハ主トシテ小隊以下ノ部隊ヲ以テ訓練スルモノトス

第八十八 中(小)隊長ハ中(小)隊ヲ指揮スル爲號令若ハ命令ヲ、分隊長ハ分隊ヲ指揮スル爲通常號令ヲ用フ

第一節 密集

要旨 第八十九 密集隊形ハ軍隊ノ團結力ヲ維持シ且指揮官ノ掌握ヲ容易ナラシムルモノニシテ敵火ノ效力甚シカラサル所ニ在リテハ成ルヘク此隊形ヲ以テ停止シ運動スヘキモノトス

第九十 中隊密集教練ハ中隊ヲシテ其團結ヲ鞏固ニシ中隊長ノ號令ニ從ヒ確實ニ規定ノ動作ヲ實施シ得シムルヲ主眼トス

第九十一 中隊密集教練ヲ準備シ且分隊、小隊ノ團結力ヲ鞏固ナラシムル爲中隊密集教練ノ規定ニ從ヒ分隊、小隊ヲ以テ教練ヲ行フヘシ但號令中「中隊」ノ語ヲ「分隊」「小隊」ニ換フ

第九十二 中隊密集教練ニ在リテハ小隊長ハ其小隊ノ爲スヘキ動作ヲ小聲ニテ豫告スルモ妨ナシ又整頓、隊形變換等ニ在リテハ小隊ノ動作ヲ監視スルモノトス

中小隊長 乘馬 第九十三 中隊密集教練ニ在リテハ中隊長ハ通常乘馬シ小隊長ハ乘馬セサルモノトス但時宜ニ依リ小隊長ヲシテ乘馬セシムルコトヲ得

編成 第九十四 側面縱隊ニ關スル事項ハ特ニ定ムルモノノ外併立縱隊ノ爲規定セザル事項ヲ準用ス

第一款 編成及隊形

第九十五 中隊ハ之ヲ四小隊ニ分チ第一乃至第四ノ番號ヲ附ス

小隊ハ概ネ兵ノ身幹ノ順序ニ從ヒ前後二列ニ排列シテ橫隊ヲ作ル而シテ其前後ニ立チタル二人ヲ伍ト謂フ兵員奇數ナルトキハ左翼ノ第二列ヲ缺ク之ヲ缺伍ト謂フ

後列兵ハ前列兵ノ背囊(背囊ヲ負ハサルトキハ背)ヨリ胸マテニ八十五糎ノ距離ヲ取リテ正シク前列兵ニ重リ同方向ニ位置ス

各兵ノ間隔ハ左手ヲ腰ニ當テ肘ヲ側方ニ張りタルトキ輕ク左隣兵ノ右臂ニ觸ルルヲ度トス

小隊ノ各伍ハ第一列ニ於テ右ヨリ左ニ番號ヲ附ス之ヲ小隊ノ正面トス

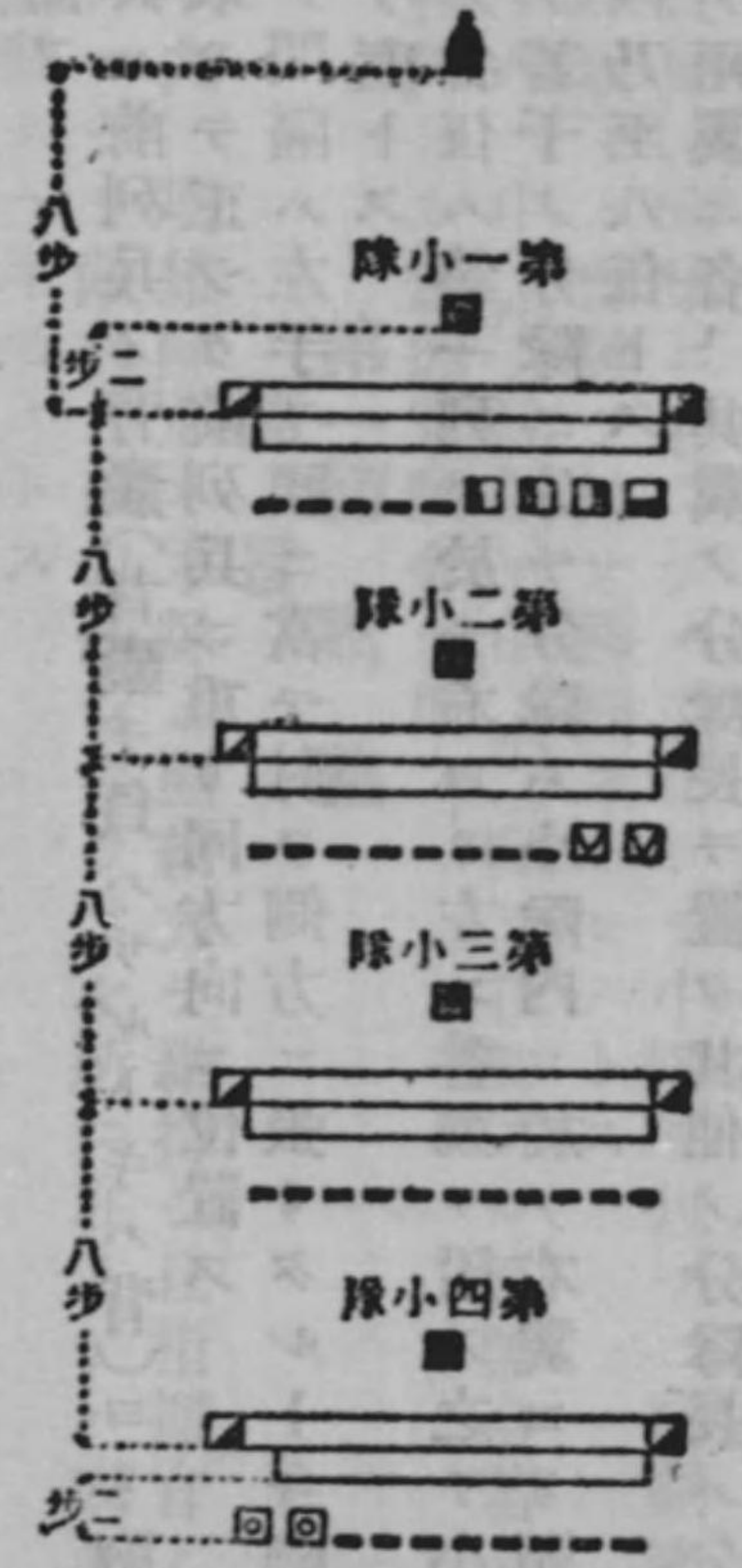
小隊ヲ若干ノ分隊ニ分チ分隊ハ小隊内ニ於テ右翼ヨリ順序ニ番號ヲ附ス其兵員ハ四乃至八伍トス

小隊ノ兩翼ニ各、其翼ノ分隊長ヲ置ク其他ノ分隊長ハ分隊ノ概ネ中央ノ奇數伍ニ重リ後列ヨリ二步ノ所ニ位置ス之ヲ押伍ト謂フ

中隊ノ編成ニ方リテハ小隊ノ作業能力ヲ考慮スルヲ要ス

第九十六 密集隊形ハ中隊縱隊、併立縱隊及側面縱隊トス

中隊縱隊ハ主トシテ集合及短距離ノ運動ニ、併立縱隊及側面縱隊ハ主トシテ運動ニ用フ
第九十七 中隊縱隊ノ隊形左圖ノ如シ



備考 小隊長乗馬スルトキハ其小隊右翼分隊長ノ右側方三步(空間)ニ位置ス
時宜ニ依リ各小隊ノ距離ヲ伸縮シ又小隊ノ順序ニ拘ラス重疊シ或ハ小隊ナ一列ト爲スコトアリ

特務曹長、曹長、分課下士官ハ第一小隊、喇叭手ハ第二小隊、看護兵ハ第四小隊、押伍列ニ在リテ奇數伍ニ重ル如ク位置シ其小隊ト共ニ行動ス時宜ニ依リ中隊長ハ此等ノ位置ヲ適宜變更スルコトヲ得

併立縱隊 側面縱隊

小隊長ノ乗馬及小行李ハ後尾小隊ノ後方十六歩ニ位置ス要スレハ中隊長適宜其位置ヲ定ム
第九十八 併立縱隊ハ中隊縱隊ヲ側面ニ向ケタルモノ、側面縱隊ハ側面ニ向ケタル小隊ヲ重疊シタルモノニシテ通常四例トス又時宜ニ依リ此等ヲ三(一)併立縱隊ニ在リテハ押伍列ニ在ル者ハ各、其伍ニ列ヒ小隊長ハ其先頭分隊長ノ外側ニ接シテ位置ス但小隊長乗馬スルトキハ其先頭分隊長ノ前方三步(空間)ニ位置ス

第二款 密集ノ諸動作

整頓ノ完 全 整頓ノ實 施

第九十九 整頓完全ナルトキハ各兵ハ整頓線上ニ正シキ姿勢ヲ取り頭ヲ右(左)ニ廻ハストキ右(左)ノ眼ヲ以テ其右(左)隣兵ヲ視他ノ眼ヲ以テ全線ヲ視通スコトヲ得ルモノトス
兵整頓線ニ就クトキハ足ノ位置ヲ正シクシ頭、肩又ハ上體ヲ前後ニ出スコトナク正確ナル姿勢ヲ以テスルヲ必要トス特ニ足、位置正シカラサルトキハ之カ爲兩肩整頓線ニ在ラスシテ其害自己ニ止ラス必ス隣兵ニ及フモノトス
第一百 中隊縱隊ニ在ル中隊ヲ整頓セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
先頭小隊ノ兩翼分隊長ハ銃ヲ擔フコトナク前進シ中隊長ハ其位置ヲ正シタル後左ノ號令ヲ下ス

射擊號令動作

「準へ」ノ動令ニテ中隊ハ銃ヲ擔フコトナク前進シ最後ノ一步ヲ縮メテ整頓線ノ少シク後方ニ止リ次ニ頭ヲ右(左)ニ廻ハシ小歩ニテ靜ニ整頓線ニ就キ銃ヲ下口ス但翼分隊長及前後列兵ハ左手ヲ腰ニ當テ肘ヲ側方ニ張り後列及押伍列ニ在ル者ハ先ツ正シク前方ノ兵ニ重リテ距離ヲ取り次ニ右(左)ノ方ニ整頓ス

整頓翼ノ分隊長ハ速ニ整頓ノ基礎ヲ定ムル爲反對翼ノ分隊長ヲ目標トシ先ツ己ニ近キ二、三兵ノ位置ヲ正シ要スレハ逐次ニ整頓ヲ正ス反對翼ノ分隊長ハ要スレハ己ニ近キ二、三兵ノ位置ヲ正シ以テ整頓ヲ補助ス

後方小隊ノ整頓翼ノ分隊長ハ正シク距離ヲ取り前方小隊整頓翼ノ分隊長ニ重ルモノトス

「直レ」ノ號令ニテ中隊ハ頭ヲ正面ニ復シ翼分隊長及前後列兵ハ左手ヲ下口ス其位置ニ於テ整頓セシムルニハ單ニ「右(左)へ」準へ、直レ」ノ號令ヲ下ス

射擊及彈藥ノ裝填、抽出

第一百 中隊ノ射擊ハ通常小隊ヲ指定シテ行ハシメ要スレハ其位置ヲ示ス

第一百二 射擊ヲ行フニハ方向、目標、姿勢並照尺要スレハ照準點ヲ令スルモノトス

射擊姿勢ハ要スレハ前列兵ニ低キ姿勢ヲ取ラシムルコトアリ

右左向後向

伏射ハ通常一列ニテ行フモノトス射擊ヲ爲サシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス

左前方一軒家ノ右ノ騎兵

立射(膝射)(伏射)ノ構ヘ銃

四百(七百)(九百)

「立射(膝射)ノ構ヘ」ノ豫令ニテ後列兵ハ約一步左前ニ距離ヲ閉チ「銃」ノ動令ニテ前後列兵共ニ射擊姿勢ヲ取ル

「擊テ」ノ號令ニテ兵ハ射擊ヲ開始シ之ヲ連續ス

押伍列ニ在ル者ハ立射ニ在リテハ動作スルコトナク膝射(伏射)ニ在リテハ折敷(伏臥)ヲ爲ス押伍列若前方ニ在ルトキハ豫令ニテ後列ノ後方ニ移ル

小隊長及分隊長ハ所要ニ應シ適宜ノ位置ト姿勢トヲ選ヒ敵情並兵ノ動作ニ注意ス

射擊ヲ止メタルトキハ分隊長、押伍列ニ在ル者及後列兵ハ定規ノ位置ニ就ク飛行機ヲ射擊スルニハ立射、膝射ノ姿勢ヲ應用スルモノトス

第一百三 彈藥ノ裝填、抽出ハ第五十二、第五十三ニ從ヒ之ヲ行フ

右(左)向及後向

第一百四 中隊縱隊ニ在ル中隊右(左)向ヲ爲セハ偶數兵(奇數兵)ハ奇數兵(偶數兵)ノ右(左)ニ出テ伍ヲ組ミ四人相列ヒ小隊長、翼分隊長及押伍列ニ在ル者ハ各々其位置ニ在リテ右(左)向ヲ爲シ第九十八ニ定メタル位置ニ就キ併立

直行進

縱隊トナル
併立縱隊ニアル中隊左(右)向ヲ爲セハ伍ヲ解キ小隊長、翼分隊長及押伍列ニ在ル者ハ各々其位置ニ在リテ左(右)向ヲ爲シ第九十七ニ定メタル位置ニ就キ中隊縱隊トナリ各自右(左)ノ方ニ整頓ス
中隊縱隊ニ在ル中隊後向ヲ爲セハ翼分隊長及缺伍ハ前列ニ就ク

併立縱隊ノ行進

第百五 中隊縱隊ノ直行進ハ常ニ右方ニ嚮導ヲ取ル若左方ニ取ルトキハ特ニ之ヲ示スヘシ
中隊長ハ號令ヲ下スニ先タチ通常嚮導ノ行進目標ヲ示スモノトス
中隊ハ一齊ニ行進ヲ起シ嚮導ニ準ヒテ行進シ嚮導ハ列兵ニ關スルコトナク正規ノ歩長ト速度トヲ保チ與ヘラレタル目標ニ向ヒ若ハ正面ト直角ニ行進ス後方小隊ノ嚮導ハ其前方小隊ノ嚮導ノ進ミタル線ヲ踏ミ常ニ八歩ノ距離ヲ保ツヘシ
行進中嚮導ヲ他翼ニ取ルヲ要スルトキハ「嚮導左(右)」ノ號令ヲ下ス
第百六 併立縱隊ノ行進ニ在リテハ中隊長ハ通常基準小隊ヲ示シ且要スレハ其小隊ノ嚮導ノ行進目標ヲ示スモノトス
行進ニ在リテハ基準小隊ノ嚮導ハ列兵ニ關スルコトナク正規ノ歩長ト速度トヲ保チ眞直若ハ示サレタル目標ニ向ヒ行進シ他小隊ノ嚮導ハ要スレハ頭ヲ左右ニ廻ハシ關係位置ヲ保チテ行進ス
各小隊舊正面ノ方ニ在ル兵及後尾分隊長ハ嚮導ノ進ミタル線ヲ踏ミ其他ノ兵

行進間右左向後向斜行進

兵ノ守ルヘキ要件

及押伍列ニ在ル者ハ舊正面ノ方ニ準ヒ前方ノ者ニ重リテ行進ス
第百七 行進間ノ右(左)向及後向ハ第百四ニ從フ併立縱隊ヨリ中隊縱隊ニ移リ續キテ行進スルトキハ要スレハ嚮導ヲ示スモノトス
第百八 斜行進ニ在リテハ各兵ノ位置正シキトキハ其肩概ネ互ニ平行シ右(左)斜行進ニ在リテハ各兵ノ右(左)肩ハ概ネ其右(左)ノ隣兵ノ左(右)肩ノ後ロニ在ルモノトス
各兵ハ常ニ斜行スル方ニ整頓ス
直行進ニ復シタルトキハ要スレハ嚮導ヲ示スモノトス
第百九 行進間兵ノ守ルヘキ要件左ノ如シ
歩長及速度ノ齊一ト間隔及距離ノ保持ニ注意スルコト
兵ハ常ニ頭ヲ正シク保チ嚮導ノ方ニ整頓スル爲頭ヲ廻ハスコトナク整頓スヘキ方ニ在ル隣兵竝前方ノ兵ニ注意スルコト
整頓翼ヨリ押シ來ルトキハ之ニ從ヒ反對ノ方ヨリ押シ來ルトキハ之ヲ支フルコト
整頓線ヨリ進ミ或ハ後レ又間隔ヲ失ヒタルトキハ漸次ニ恢復スルコト
中隊縱隊ノ行進ニ在リテ障礙物等ニ遭遇シ行進シ能ハサルトキハ直ニ左右ニ之ヲ避クルコトナク足踏ヲ爲シ隣兵等ニ妨ナキニ至リ速ニ舊位置ニ復歸スヘシ足踏ヲ爲スニハ進ムコトナク少シク膝ヲ屈メ交、兩足ヲ踏ミ著クテ調子ヲ取モノトス
若歩ノ違ヒタルトキハ踏替ヲ爲シ速ニ整頓翼ノ方ナル隣兵ノ歩ニ準フヘシ

側面縱隊
 第百十六 側面縱隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ「伍々左(右)へ」進メ「ノ」號令ヲ下ス
 下ス此號令ニテ先頭伍ハ小ナル環形ヲ歩ミ停止間ニ在リテハ前進ヲ起スト同
 時ニ以上ノ動作ヲ爲シ旋回軸ニ在ル兵ハ最初ノ數歩ヲ縮メ外翼ニ在ル兵ハ正
 規ノ歩長ヲ以テ行進シ常ニ旋回軸ノ方ニ整頓シツツ左(右)ニ方向ヲ換ヘ續キ
 テ行進ス各伍ハ其前ノ伍ト同所ニ到リ同法ヲ以テ方向ヲ換フ

併立縱隊
 併立縱隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ「右(左)に方向ヲ換ヘ」進メ「ノ」號令ヲ下ス
 此號令ニテ停止間ニ在リテハ軸翼ニ在ル小隊ハ伍々右(左)ニ方向ヲ換ヘ小隊
 ノ深サタケテ新方向ニ進ミテ停止シ他ノ小隊ハ逐次其齊頭面ニ至リテ停止ス行
 進間ニ在リテハ軸翼ニ在ル小隊ハ前ト同法ヲ以テ方向ヲ換ヘツツ行進シ其他
 ノ小隊ハ逐次其齊頭面ニ到リ續キテ行進ス

小角度方
 第百十七 少シク方向ヲ換ヘシムルニハ豫メ新目標(方向)ヲ示スヘシ

向變換
 第百十八 隊形ヲ換フルニハ既ニ掲ケル諸制式ニ從ヒ實施スルノ外左ノ要領
 二從フヘシ之カ爲第百十四ヲ適用ス

隊形變換
 第百十九 側面縱隊ヨリ同方向ニ中隊縱隊ヲ作ラシムルニハ「中隊縱隊作れ

步調止メ
 第百十 「步調止メ」ノ號令アルトキ野外ニ在リテハ必スシモ歩ヲ揃フルヲ要
 セス

中隊止レ
 第百十一 中隊ヲ停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 中隊ハ停止シ中隊縱隊ニ在リテハ各自嚮導ノ方ニ整頓シ併立縱隊ニ在リテハ
 動クコトナシ

右左向止
 第百十二 併立縱隊ニ在リテ行進シアル中隊ヲ止メ直ニ側面ニ向ヒ中隊縱隊
 ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

擔銃、折敷、立
 中隊ハ停止シ第百十四ニ從ヒ中隊縱隊トナリ行進セシ方ニ整頓ス
 第百十三 擔銃、折敷及伏臥ハ中隊概ネ齊一ニ行ヒ得ルヲ以テ度トス

要旨
 第百十四 方向ヲ換フルニハ停止間ニ在リテハ銃ヲ擔フコトナク行ヒ若駄歩
 ナ以テ之ヲ行フヲ要スルトキハ豫令ノ次ニ「駄歩」ノ號令ヲ加ヘ行進間ニ在リ
 テハ常ニ駄歩ヲ用フ

中隊縱隊
 第百十五 中隊縱隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 右(左)に方向ヲ換ヘ進メ
 停止間ニ在リテハ先頭小隊ノ軸翼ニ在ル分隊長ハ右(左)向ヲ爲シ其他ハ半右

陣途歩
三四七

進メ」ノ號令ヲ下ス小隊長ノ指示ニ從ヒ先頭ニ在ル分隊長ハ動カサルカ或ハ
續キテ行進シ先頭小隊ノ兵ハ伍ヲ解キ捷路ヲ經テ橫隊ヲ作り後方小隊ハ先頭
小隊ニ準シテ小隊毎ニ橫隊ヲ作り定規ノ距離ヲ取ル
小隊ノ側面縱隊ヨリ同方向ニ橫隊ヲ作ラシムルニハ「左(右)へ並ひ 進メ」ノ
號令ヲ下ス
側面縱隊ヨリ同方向ニ併立縱隊ヲ作ラシムルニハ「併立縱隊作れ 進メ」ノ號
令ヲ下ス小隊長ノ指示ニ從ヒ先頭小隊ハ動カサルカ或ハ續キテ行進シ他ノ小
隊ハ交互ニ先頭小隊ノ右、左ニ定規ノ間隔ヲ得ル如ク進出ス
一側ニ併立縱隊ヲ作ラシムルニハ「右(左)へ併立縱隊作れ 進メ」ノ號令ヲ下
ス

第二百二十 行進間途歩ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

陣中要務令ノ規定ニ從フ
途步行進間速歩(駈歩)ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
速歩(駈歩) 進メ

第二百二十一 又銃及解銃ハ注目シテ之ヲ行フモノトス
第二百二十二 中隊縱隊ニ在ル中隊ニ又銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
又銃 又メ銃

解銃

奇數伍ノ前列兵ハ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ握リ銃身ヲ前ニシツツ床尾踵ヲ右足
尖ヨリ床尾板ノ約三倍(騎銃ニ在リテハ約二倍)タケ前ニ出シ兩手ヲ以テ銃ヲ
左ノ方ニ傾ク
偶數伍ノ前列兵ハ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ握リ床尾踵ヲ左足尖ヨリ床尾板ノ約
三倍(騎銃ニ在リテハ約二倍)タケ前ニ出シ銃身ヲ後口ニシ兩手ヲ以テ銃ヲ右
ノ方ニ傾ケ右隣兵ト柵杖ヲ組ミ合ハス
奇數伍ノ後列兵ハ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ握リ兩手ヲ以テ銃ヲ上ケ右足ヲ踏ミ
出シ既ニ組ミタル前列兵ノ柵杖ニ組ミ合ハシ床尾踵ヲ左隣兵トノ間隔ノ中央
前ニ置ク
偶數伍ノ後列兵ハ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ握リ兩手ヲ以テ銃身ヲ前ニシテ左足
ヲ踏ミ出シ其照星ノ下ノ所ヲ既ニ組ミタル柵杖ニ寄セ掛ケ銃ハ奇數伍ノ後列
兵ノ銃ト平行ニス
左翼伍奇數ナルトキハ適宜押伍列ニ在ル者ト共ニ又銃ヲ爲ス
著劍シタルトキ又銃ヲ爲スニハ右ノ要領ニ準シ鐔ヲ以テ組ミ合ハスモノトス
第二百二十三 中隊縱隊ニ在ル中隊ノ又銃ヲ解カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
解ケ銃

偶數伍ノ後列兵ハ左足ヲ踏ミ出シ兩手ヲ以テ其銃ヲ取り其他ノ三名(奇數伍
ノ後列兵ハ右足ヲ踏ミ出シ)ハ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ、右手ヲ以テ木被ノ所
ヲ握リ銃ヲ上ケ靜ニ交又ヲ解キ不動ノ姿勢ヲ取ル

解

集

第二百二十四

中隊ヲ解散セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

第二百二十五

又銃シアルトキハ兵ハ之ニ觸ルルコトナク解散シ翼分隊長及押伍列ニ在ル者ノ銃ハ適宜列兵ノ又銃ニ寄セ掛クルモノトス但一又銃ハ五挺ヲ越ユヘカラス

右翼分隊長ハ速ニ中隊長ノ前ニ來リ中隊縱隊ノ定位ニ就キ各兵ハ其左ノ方ニ番號ノ順序ニ從ヒ二列トナリ整頓ス
又銃ヲ爲シ解散シアルトキハ各兵ハ直ニ又銃ノ所ニ集リ靜ニ己ノ位置ニ就ク翼分隊長及押伍列ニ在ル者ハ其銃ヲ取ル

第二節 疎開戰團

本旨

第二百二十六 疎開戰團ハ敵火ノ效力ヲ減殺シ我カ戰團力ヲ發揚スルヲ本旨トス而シテ幹部ノ的確ナル指揮掌握ト適切ナル協同動作並機宜ニ適スル獨斷專行トハ本戰團遂行上特ニ緊要ナリ
火戰ノ目的ヲ有セス單ニ敵火ノ下ニ運動スル場合ニ於テモ亦此方式ヲ適用スルモノトス

疎開ト密集ノ分界

第二百二十七 戰況ニ基キ小隊(分隊)間ノ距離間隔ヲ開クニ至レハ中隊(小隊)ハ疎開ニ移リタルモノトス爾後小隊及分隊ハ密集セル隊形ニ在リテモ散開セ

小隊教練ノ主眼

散開

散兵隊

分隊教練ノ主眼

分隊散開

向上一線

疎開戰團

ル分隊ノ運動ノ爲規定セル號令ヲ適用シ又ハ密集制式ニ準シ簡單ナル號令詞ヲ用ヒ一令ニテ之ニ關聯スル數動作ヲ併セ行フモノトス例ハ折敷ニ在ル際「前へ」「斜ニ右(左)へ」ノ一令ニテ行進(斜行進)ヲ起スカ如此際幹部及兵ハ正規ノ姿勢及歩法ヲ墨守スルコトナク敏活ニ行動スルヲ要ス
第二百二十八 疎開戰團ニ於ケル小隊ハ小隊長統轄ノ下ニ各分隊ノ射擊、運動及突撃ヲ密接ニ連繫セシムヘキモノトス故ニ小隊ノ教練ニ在リテハ各分隊ノ協同動作ヲ訓練スルト共ニ分隊長ノ能力ヲ向上セシムルコト必要ナリ
第二百二十九 疎開戰團ニ在リテハ分隊ハ火線ヲ行フ爲散開隊形ヲ用ヒ多クノ場合突撃ニモ亦此隊形ヲ用フルモノトス
散開隊形ニ在ル兵ヲ散兵ト稱ス
第二百三十 分隊散開教練ノ主眼トスルコトハ分隊ヲシテ分隊長ノ指揮ニ從ヒ舉止恰モ一體ノ如ク戰團シ得シムルニ在リ
第二百三十一 分隊散開教練ニ在リテハ散兵ヲシテ耳目ヲ活動シ絶エス敵兵及指揮官ニ注意シ隣兵ヲ顧慮シ各個教練ニ於テ修得セル戰團動作ヲ行ハシメ益、其能力ヲ向上スルコト緊要ナリ
第二百三十二 疎開戰團ノ教練ハ各隊本然ノ特性ヲ顧慮シ主トシテ敵彈下ノ運動、近距離ヨリスル攻撃及自衛ヲ目的トスル防禦ニ就キ訓練スルモノトス

第一款 分隊

戰團ノ爲ノ前進

戰鬪ノ爲
ノ前進

第三百三十三 戰鬪ノ爲ノ前進間小隊疎開セハ各分隊ハ通常一列側面縱隊ヲ以テ行進シ停止ニ方リテハ分隊長ハ地形ニ適應セシムル爲適宜分隊ノ位置、隊形及姿勢ヲ選定スルモノトス

散開ノ方法

散開
散兵ノ間

第三百三十四 散開ハ順序正シク靜肅且敏活ニ行ヒ得ルヲ必要トス
散開スルトキ各散兵ノ間隔ハ狀況ニ依リ之ヲ定ムヘキモノトス而シテ別命ナケレハ約四歩トス

一列側面
ヨリ散レ

第三百三十五 一列側面縱隊ニテ停止或ハ行進シアル分隊ヲ前方ニ散開セシムルニハ要スレハ散開ノ爲必要ナル指示ヲ與ヘタル後左ノ號令ヲ下ス

先頭ノ兵ハ速歩ヲ以テ眞直ニ行進ヲ起スカ或ハ續キテ行進シ其他ノ兵ハ前半部ハ左ヘ、後半部ハ右ヘ駈足ヲ以テ斜行シ先頭ニ近キ者ヨリ逐次間隔ヲ取リ

ツツ新線ニ就キ續キテ行進ス
其位置ニ散開セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

其場ニ散レ
先頭ノ兵ハ其場ニ位置ヲ占メ其他ノ兵ハ第二項ニ從ヒ間隔ヲ取ル

一翼ニ散開セシムルニハ「左(右)ヘ散レ」其場ニ左(右)ヘ散レ」ノ號令ヲ下ス

二列以上ノ側面縱隊ヨリ散開スルニハ一列側面縱隊ヨリ散開スル方法ヲ準用ス

一列橫隊
ヨリ散レ

第三百三十六 一列橫隊ニテ停止或ハ行進シアル分隊ヲ前方(其場)ニ散開セシムルニハ基準兵ヲ示シタル後「散レ」(其場ニ散レ)ノ號令ヲ下ス基準兵ハ速歩ヲ以テ眞直ニ行進ヲ起スカ或ハ續キテ行進シ(其場ニ於テ位置ヲ占メ)其他ノ者ハ駈歩ヲ以テ右若ハ左ニ斜行シ(右向若ハ左向ヲ爲シ駈歩ヲ以テ)間隔ヲ取リツツ新線ニ就ク

橫隊ヨリ散開スルニハ一列橫隊ヨリ散開スル方法ヲ準用ス

第三百三十七 四歩以外ノ間隔ニ散開セシムルニハ「散レ」ノ號令ノ前ニ「何歩ニ」ヲ加フヘシ

斜方向ニ散開セシムルニハ號令ノ前ニ目標(方向)ヲ示スヘシ

第三百三十八 退却スル分隊ヲ散開セシムルニハ先ツ敵方ニ向ケ次ニ散開ノ號令ヲ下スモノトス

運動及射撃

第三百三十九 散開セル分隊ノ運動ハ成ルヘク速ニ敵ニ近接スルヲ主要トス之

カ爲多クノ場合ニ於テ敵ニ向ヒ直進スルヲ有利トス然レトモ又他部隊ノ射撃

ヲ妨害セサル限リ地形ヲ利用シテ前進スルコトニ顧慮スルヲ要ス

第四百十 分隊長ハ運動ノ爲適宜散兵ノ間隔ヲ伸縮シ或ハ散兵ヲ縱方向ニ排

列スル等所要ニ應シ其隊勢ヲシテ地形及敵火ノ狀態ニ適應セシムルコト必要

ナリ

散兵ハ整頓及間隔ヲ墨守スルコトナク地形、地物ヲ十分ニ利用セサルヘカラ

ス然レトモ停止ニ方リ著シク前後ニ位置シ或ハ橫方向ニ分散スルハ隣兵若ハ

後方部隊ノ射撃ヲ妨ケ又著明ナル地形、地物ニ蝟集スルハ徒ラニ夥多ノ損害ヲ招クモノナルコトニ特ニ留意セサルヘカラス

第四百一十一 散開セル分隊ノ前進ハ通常分隊同時ニ行フモノトス而シテ敵火ノ状態ニ依リテハ分隊ヲ區分シテ前進セシメ又ハ匍匐シテ前進セシムルヲ要スルコトアリト雖之カ爲前進ヲ遅緩シ或ハ指揮ノ統一ヲ困難ナラシムルコトアルニ顧慮スルヲ要ス

第四百一十二 敵ノ有效射撃下ニ在リテ一地ニ據レル散兵ハ動モスレハ其地ニ固著シ易ク更ニ之ヲ前進セシムルコトハ困難ニシテ敵ニ近接スルニ從ヒ益々其度ヲ増スモノトス故ニ必要以外ニ永ク停止セシムルコトヲ避ケ間斷ナク勇進スルノ氣勢ヲ保持セシムルヲ要ス

第四百一十三 分隊長ハ常ニ好機ヲ看破シテ分隊ヲ前進セシムルヲ必要トス前進ノ時機ハ敵情、地形竝隣接部隊ノ狀況ニ依リ一様ナラトス雖各種火器ニ依リ敵ノ制壓セラレタル瞬時或ハ敵ノ射撃ノ間斷等機微ノ間ニ投スルコト必要ナリ

第四百一十四 散開セル分隊ノ前進ハ敵彈下ニ在リテハ通常駈歩ヲ用ヒ敵火ノ效力著シキトキハ早駈ヲ用ヒ一地點ヨリ一地點ニ躍進スルヲ可トス然レトモ敵ノ有效射撃ヲ被ラサルトキハ速歩ヲ用フルヲ可トスルコトアリ

駈歩若ハ早駈ヲ以テ一躍前進スヘキ距離ハ土地ノ景況、敵火ノ強弱等ニ依リ一定セサルモ通常五十米ヲ越エサルヲ可トス

第四百一十五 分隊長ハ散開セル分隊ヲ誘導スル爲中央ニ基準兵ヲ定ム

基準兵ハ分隊長ニ從ヒ或ハ示サレタル目標ニ向ヒ散兵ハ基準兵ヲ基準トシテ行進ス

分隊長ハ通常分隊ノ前方ニ在リテ其部下ヲ誘導スルモノトス

行進間歩度ヲ變換セシムルニハ「早駈」、「速歩」或ハ「駈歩」ノ號令ヲ下ス

分隊長ハ絶エス分隊ノ行進方向ヲ維持シ部下ノ誘導方向ヲ誤ラサルコトニ深ク注意スルコト肝要ナリ

第四百一十六 散開セル分隊ヲ退却セシムルニハ「後へ」ノ號令ヲ下ス此際散兵ハ速歩ヲ用フルモノトス

第四百一十七 散開セル分隊ノ停止ニ方リテハ散兵ハ常ニ敵方ニ面シ分隊長ノ誘導ニ從フモノトス

第四百一十八 散開セル分隊ヲ區分シテ前進セシムルニハ分隊長ハ通常前進ノ區分ヲ示シタル後其一部ヲ率キテ先行シ其他ノ者ハ示サレタル區分ニ從ヒ前進スルモノトス

分隊ヲ區分シテ前進セシムル場合後方ニ在リテ射撃スル散兵ハ前進セル隣兵ニ危害ヲ與ヘサル爲要スレハ直ニ銃ヲ他方向ニ指向スヘシ

第四百一十九 停止或ハ行進間散開セル分隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ新目標(方向)ヲ示シ左ノ號令ヲ下ス

右(左)ニ方向ヲ換ヘ

軸翼ニ在ル散兵ハ速ニ新方向ニ向キ停止シ其他ノ散兵ハ駈歩ヲ以テ新線ニ就ク

射撃ノ號
令一〇三

射撃速度

爆煙濃霧
七九

射撃目標
一八五

行進間小角度ノ方向變換ヲ爲シ續キテ行進セシムルニハ分隊長ノ誘導ニ依ル
 モノトス
第百五十 散開セル分隊ノ射撃ハ分隊長ノ號令ニ依リ實施スルヲ本旨トス而
 シテ分隊ノ射撃開始地點及敵線ニ至ル距離ハ通常小隊長ヨリ指示セラレモ
 ノトス
 射撃號令ハ第百二ニ準スルモ射撃姿勢ヲ示スコトナシ
 既ニ射撃ヲ開始シタル後前進等ノ爲射撃ヲ中止シ更ニ機ヲ失セス射撃セシム
 ル爲ニハ目標、照尺等ヲ適宜省略シ必要ノ事項ノミヲ令スルコトヲ得
 「撃方待テ」又ハ「撃方止メ」ヲ令スルニ方リテハ要スレハ之ニ分隊號ヲ冠スル
 モノトス
第百五十一 射撃ノ速度ハ目標ノ景況及兵ノ伎倆等ニ依リ自ラ緩急ヲ生スル
 モノナルモ分隊長ハ目標ノ状態、彈藥ノ現數等ヲ顧慮シ射撃速度ヲシテ能ク
 當時ノ狀況ニ適應セシムヘシ
 射撃速度ヲ増減セシムルニハ「尙早ク」、「尙遅ク」ノ注意ヲ與フヘシ
第百五十二 爆煙中又ハ濃霧ノ際ノ如キ直接精密ニ照準シ能ハキルトキニ於
 ケル射撃ハ第七九ニ從フモハトス
第百五十三 分隊ハ小隊ノ目標中分隊ニ對向セル部分ヲ射撃スルヲ本則ト
 ス
 射撃目標ヲ指示スルニハ分隊ノ射撃スヘキ區域ヲ以テスルヲ通常トス然レト
 モ特ニ射撃スヘキ部分若ハ現實ノ目標ヲ以テスルヲ有利トスルコトアリ而シ

射撃目標
選定

目標指示

射撃目標
豫告

照尺決定

テ散兵ハ其何レノ場合ニ於テモ己ニ對向セル部ニ於テ比較的明瞭ナルモノヲ
 射撃スルモノトス
第百五十四 射撃目標ハ我ニ最モ危害ヲ與フルモノ若ハ速ニ殲滅スルヲ要ス
 ルモノノ如キ戰術上ノ價值ニ從ヒテ選擇スヘキモノトス
 目標ハ特ニ必要アル場合ニアラサレハ變換スヘカラス是屢々目標ヲ換フルト
 キハ射撃ヲ錯亂スルヲ以テナリ
第百五十五 射撃目標ハ明確ニ指示シ兵ヲシテ確實ニ了解セシムルヲ緊要ト
 ス而シテ之カ指示困難ナルトキハ成ルヘク敵線ニ近キ著明ナル地物ヲ示シテ
 其補助ト爲スヘシ又要スレハ之ヲ基準トシ指幅若ハ遊標ノ幅等ヲ以テ指示ス
 ルヲ可トスルコトアリ
第百五十六 射撃目標ハ爲シ得ル限り未タ射撃ヲ始メサルニ先タ豫メ之ヲ
 示シテ兵ニ徹底セシメ以テ射撃位置ニ就キタル後迅速ニ射撃ヲ開始シ得ルコ
 ト必要ナリ
第百五十七 照尺ハ通常分隊長自ラ之ヲ決定ス
 照尺ハ測定距離ニ基キ決定シ照尺度若照尺分畫ノ中間ナルトキハ其照尺度ニ
 近キ照尺ヲ採用ス
 目標ニ對スル上下ノ修正ハ照尺ノ變換ニ依リテ之ヲ行フモノトス
 躍進スル敵ニ對シ照尺ヲ改装スル必要アルトキハ敵ノ停止ヲ待チテ之ヲ行フ
 ナ有利トス
 前進シ來ル騎兵ニ對シテハ七百米〔騎銃ニ在リテハ六百米〕以内ノ距離ニ在リ

距離 彈藥節用 效果觀察 射擊軍紀 分隊長ノ職責

テハ照尺ヲ換フルヲ要セス 第百五十八 距離ヲ問ヒ以テ目測ノ補助ト爲スヲ可トス 第百五十九 彈藥ヲ適當ニ節用シ緊要ノ時ニ臨ミ效果ヲ收ムハルニ必要ナル 第百六十 射撃效果ノ觀察ハ最モ必要ナリ而シテ絶エス彈著ヲ注視シ且敵ノ 状態ヲ觀察スルトキハ之ニ依リテ射撃指揮ヲ適當ナラシムルコトヲ得ルモノ トス 第百六十一 射撃指揮ト相俟テ射撃ノ效果ヲ偉大ナラシムル爲緊要ナルモ ノハ射撃軍紀ナリ凡テ射撃軍紀正シキトキハ兵ハ敵火ノ下ニ在リテ其長ノ號 令、命令ヲ嚴守シ確實ニ射撃ノ諸法則ヲ實行シ地形、地物ノ利用ニ注意シ常 二其指揮官及敵兵ニ留意シ射撃中止ノ號令アルカ或ハ目標消滅スルトキハ直 二之ヲ中止シ又縱ヒ分隊長ノ射撃指揮行ハレサル場合ニ於テモ各自ノ思慮ト 判斷トニ基キ依然射撃ノ效果ヲ維持シ得ルモノナリ 第百六十二 戰鬪間分隊長ハ分隊長ヲ指揮スルニ便ナル地ニ占位シ兵能ク射撃 ノ諸法則ヲ守ルヲ、能ク地形、地物ヲ利用スルヲ等ヲ監視スルコト緊要ナリ 又絶エス小隊長トノ連絡ニ注意シ且要スレハ小隊長ノ命令又ハ號令ヲ比隣分 隊ニ傳達スヘシ 分隊長ハ敵情、地形ヲ觀察シ彈著ヲ觀測シ又比隣分隊ノ狀況ニ注意シ以テ占 有シ得ヘキ利益ヲ獲得スルコトニ勉ムルト共ニ比隣分隊トノ協同ヲ適切ニシ

準備 突擊 手榴彈用 追擊射撃 散兵ノ配

且敵情、地形ニ關シ所要ノ事項ヲ適時小隊長ニ報告スヘシ 第百六十三 戰鬪進捗シ敵ニ近接スルニ從ヒ分隊長以下益々沈著シテ其火力 ナ最高度ニ發揚シ適時銃劍ヲ著ケ必要ニ應シ手榴彈ヲ整へ敵情ヲ詳ニシ機ヲ 失セス之ヲ小隊長ニ報告シ其部署ニ基キ突撃ヲ準備スヘシ 第百六十四 分隊長ハ自ら好機ヲ發見スルカ或ハ突撃ノ命令アルトキハ直ニ 突撃ノ號令ヲ下シ率先頭ニ立チ猛烈果敢ニ敵陣ニ突入スヘシ 敵陣ニ突入セハ分隊長ハ不屈不撓果敢ナル行動ヲ以テ深ク敵陣ニ侵入スルコト ニ勉ムヘシ 第百六十五 手榴彈ハ之ヲ最初ノ突撃ニ使用スルハ必スシモ有利ナラス寧ロ 突入後ノ戰鬪ニ使用スルヲ有利トスルコト多シ而シテ何レノ場合ヲ問ハス手 榴彈ヲ以テ戰鬪ヲ交ヘタル後突入セントスルカ如キハ概ネ失敗ニ終ルモノニ シテ通常其爆裂ノ瞬時ヲ利用スルヲ可トス 第百六十六 突撃功ヲ奏シ追擊射撃ヲ行フニ方リ大ナル姿勢ヲ取ルトキハ不 測ノ損害ヲ受クルコトアルニ注意スヘシ 其二 防禦 第百六十七 防禦ニ在リテハ分隊長ハ狀況ノ許ス限り綿密ニ地形ヲ偵察シ射 擊區域内ノ地形及隣接部隊トノ關係ヲ顧慮シ最モ有效ニ火器ノ威力ヲ發揚シ 得ル如ク散兵ノ配置ヲ決定ス又分隊ノ射擊區域外ニ於テモ小隊長ノ指定スル 部分ニ對シ戰鬪ノ推移ニ應シ適時火力ヲ指向シ得ル如ク準備ヲ爲スコト必要

效力ノ發揚損害ノ減少

射擊區域

散兵ノ掩蔽

監視

射擊開始

射擊指揮

第六十八 散兵ノ配置ヲ決定スルニ方リテハ分隊ノ射擊區域ニ對シ射擊效力ヲ發揚シ得ルコトヲ主眼トシ爲シ得ル限リ損害ヲ減少シ得ル如ク能ク地形ニ適合セシムルヲ必要トス之方爲屢々數群又ハ梯次ニ配置スルヲ可トスルコトアリ

第六十九 分隊長ハ豫メ現地ニ就キ明確ニ分隊ノ射擊區域ヲ指示シテ各散兵ヲシテ誤解ナカラシメ置クコト極メテ緊要ナリ又狀況ノ許ス限リ工事ヲ實施シ且散兵ニ對シ關係アル友軍ノ狀況及前地ノ地形ヲ解說シ要スルハ主要ナル地點ニ至ル距離ヲ測定シテ現地ニ之ヲ標示シ前方ノ要點ニ簡單ナル名稱ヲ附スル等散兵ノ射擊ヲ適切ニシ且分隊ノ射擊指揮ヲ容易ナラシムル爲有ユル手段ヲ講スルコト必要ナリ

第七十 分隊未タ射擊開始ヲ要セサル間ハ分隊長ハ爲シ得ル限リ各散兵ヲ掩蔽セシムルヲ要ス然レトモ敵ノ近接スルニ伴ヒ機ヲ失セス射擊位置ニ就キ得ルノ狀態ニ在ラシムルコト必要ナリ

第七十一 分隊長ハ射擊開始ノ命アルヤ其任務ニ從ヒ機ヲ失セス射擊開始スヘシ

分隊長ハ分隊ノ射擊指揮ヲ適切ニシ常ニ射擊ノ實施ヲ戰況ニ適應セシメ以テ敵ニ最大ノ打撃ヲ與フルコト緊要ナリ而シテ前地ノ地形ヲ觀察シテ敵ノ行動

敵ノ近接ニ對戰

集合

前進法

ヲ判斷スルトキハ豫メ準備ヲ整ヘ好機ヲ捉ヘ有效ナル射擊ヲ爲シ得ルコト屢々ナリ

第七十二 戰間散兵ハ縱ヒ敵ノ猛火ヲ被ルモ意トスルコトナク敵兵愈々近接セハ益々沈著シテ射擊ヲ行ヒ要スレハ手榴彈ヲ投擲シテ敵兵ヲ擾亂スル等極力奮闘シテ敵ヲ陣地前ニ擊滅スヘシ

第七十三 散開セル分隊ヲ集結スルニハ集合又ハ併合ヲ用フ

第七十四 戰間ノ爲ノ前進

散兵ハ各自ノ定位ニ復スルコトヲ求メス駈歩ニテ分隊長ノ許ニ集リ示サレタル隊形ヲ取ル

第七十四 戰間ノ爲ノ前進

形ノ選擇竝ニ機敏ナル行動ニ依リ勉メテ敵火ノ損害ヲ避ケ且狀況ノ許ス限リ敵航空機ニ對シ我カ行動ヲ秘匿シ又我カ砲兵竝機關銃等ノ射擊ノ效果ヲ巧ニ利用シテ速ニ敵ニ近接スヘシ此間地形其他ノ利用スヘキモノナク敵砲兵ノ有效

第二款 小隊

第一款 攻擊

小隊最初
疎開ノ配
置

射撃ヲ被ラントスル願慮アルニ至レハ多クハ小隊ヲ疎開シテ前進スルニ至ル
モノトス
第百七十五 中隊展開前ニ在リテハ小隊ノ最初ノ疎開ハ通常中隊長ノ命令ニ
依ルモノトス
第百七十六 小隊ヲ疎開スルニハ分隊ヲ一線或ハ二線ニ配置スルヲ通常トス
而シテ分隊ハ通常一列側面縱隊ヲ用ヒ別命ナケレハ各分隊ノ間隔ハ約三十
米、二線ニ配置セルトキ其距離ハ約百米トス然レトモ各分隊ノ距離間隔ハ地
形ノ利用ヲ適切ナラシムル爲分隊長ニ於テ適宜伸縮スルコトヲ得
第百七十七 停止或ハ行進シアル小隊ヲ一線或ハ二線ニ前方ニ疎開スルニハ
小隊長ハ各分隊ノ關係位置、基準分隊及要スレハ其行進目標(方向)ヲ示シタ
ル後左ノ號令ヲ下ス

前進停止

基準分隊ノ長ハ其先頭ニ立チ眞直ニ又ハ示サレタル目標(方向)ニ向ヒ前進シ
兵ハ逐次一列側面縱隊ヲ作り之ニ續行ス其他ノ分隊長ノ誘導ニ從ヒ一
列側面縱隊ヲ作りツツ駆歩ヲ以テ斜行シ間隔ヲ取リ續キテ行進ス
第二線トナルヘキ分隊ハ第一線ノ分隊長ニ疎開シ示サレタル關係位置ヲ保
チテ前進ス
小隊長ハ前進間要スレハ基準分隊ヲ變更シ又其目標ヲ示スモノトス
第百七十八 疎開セル小隊ノ前進、停止ハ小隊長ノ命令ニ依リ分隊長ノ號令
ヲ以テ行フ

前進指揮

火線ト授
隊二〇九
火線ノ兵
力
火線構成
法

小隊長ハ地形及敵火ノ状態ヲ判斷シ特ニ步度ノ選擇ニ注意シ或ハ敵火ノ間斷
ヲ利用シテ一地區ヨリ一地區ニ小隊一齊ニ或ハ分隊毎ニ躍進セシムル等勉メ
テ敵ヲシテ目標ヲ捉フルニ違ナカラシムル如ク敏活不規ニ其行動ヲ律スルコ
ト緊要ナリ
小隊長ハ小隊既ニ疎開セル場合ニ於テモ状況之ヲ許スニ至レハ直ニ集結シテ
前進シ爾後必要ニ應シ再ヒ疎開シ又ハ敵火ノ状態ニ應シテ分隊ヲシテ一時散
開隊形ヲ取ラシムル等小隊長ノ隊形ヲシテ敵火ノ状態及地形ニ適應セシムルヲ
必要トス
第百七十九 戰鬪ノ爲ノ前進間小隊長ハ小隊ノ前方ニ位置シ中隊長トノ間ニ
連絡ノ處置ヲ講シ要スレハ分隊長トノ間ニ簡單ナル記號ヲ定ムヘシ而シテ小
隊長ヲ疎開セハ爲シ得レハ基準分隊長ノ前方ニ在リテ該分隊長ノ行動ヲシテ能ク自
己ノ意圖ニ合セシメ以テ小隊全般ノ運動ヲ適切ナラシムルヲ可トス
火線ノ構成
第百八十 第一線ノ小隊ハ射撃開始ニ先タチ火線ヲ構成ス之カ爲小隊ハ通常
火線ト授隊トニ區分ス
第百八十一 火線ニ用フル兵力ハ状況ニ依リ決定スヘシト雖要スレハ當初ヨ
リ十分ナル兵力ヲ火線ニ配置スルニ躊躇スヘカラス
第百八十二 火線ヲ構成スルニハ小隊長ハ各分隊長ニ小隊ノ射撃スヘキ目
標、火線ニ出スヘキ分隊、基準分隊及其關係位置ヲ示シ又授隊ニ行動ノ準據
ヲ與ヘ且要スレハ授隊ノ長ヲ命ス

距離 二三 三四	用途 二三	小隊長ノ 責務 一三	授隊ノ使 用	射撃ト運 動ノ協調
第百九十二 チ加フルニ在リ	第百九十三 授隊タル分隊ノ長ハ絶エス戦況ニ注意シ小隊長ト確實ニ連絡チ保チ地形ノ利	第百九十一 ニ其位置ヲ占ムルヤ、分隊長ノ射撃指揮能ク行ハルルヤチ監視シ又常ニ敵情 ナラシメ且中隊長トノ連絡ニ注意スヘシ	第百九十 大チ圖ラサルヘカラス然レトモ如何ナル場合ニ於テモ必要以外ニ火線ヲ濃密 ナラシメサルコト及敵火ノ爲多大ノ損害ヲ被リタル部分ニ直ニ補填スヘキヤ 或ハ却テ之ヲ他ノ部分ニ使用シテ状況ヲ發展セシムヘキヤ等チ考慮スルコト 必要ナリ	第百八十九 進シ絶エス有效ニ射撃シ得シムルコトニ留意シ以テ成ルヘク速ニ敵ニ近接ス ルコトニ勉メサルヘカラス之カ爲多クノ場合ニ於テ敵火ノ状態、地形及我カ 射撃ノ效果ニ依リ前進容易ナル分隊チシテ機ヲ失セス前方ニ進出セシムルチ 必要トス

位置 分隊ノ占	射撃開始	目標 一五 二〇九	包圍	小隊長ノ 責務 一三	小分隊長 ノ責務
第百八十八 上ニ位置スルコトナク地形ヲ利用シ敵ノ自動火器ノ射撃ヲ困難ナラシメ且敵 砲火ノ損害チ減少スルコトニ勉ムヘシ	第百八十七 至リ開始スルチ本則トス	第百八十六 ルモノトス	第百八十五 縦ヒ包圍チ行フコト能ハサル場合ニ於テモ斜射、側射チ有效ニ利用シ得ル機 會チ捉ヘ射撃ニ依ル包圍ノ效果ヲ獲得スルコトニ勉ムルチ必要トス	第百八十四 其後ニ於テ通常敵線ニ至ル距離、射撃開始ノ地點等所必要ノ事項ヲ示シテ射撃 開始チ命シ爾後要スレハ分隊ノ射撃目標及分隊ノ前進、停止チ命スル等各分 隊ノ運動及射撃チシテ状況ニ適合セシメ爲シ得ル限リ火線ヲ掌握ス	第百八十三 小隊ノ射撃スヘキ目標ハ爲シ得レハ豫メ之ヲ示シ置クチ可トス

小隊配備 第一百九十九 防禦ニ在リテハ小隊長ハ狀況ノ許ス限リ綿密ニ地形ヲ偵察シテ
 火網ヲ定メ火線ニ出スヘキ分隊及其占領スヘキ位置並射擊區域、援隊ノ配置、
 戰況ノ推移ニ應シテ取ルヘキ處置、工事ニ關スル事項等ヲ決定ス
第二百 小隊ノ配備ヲ決定スルニ方リテハ主トシテ小隊ノ火網ヲ顧慮シ尙地
 形ニ應シ陣地ヲ確保スルニ適スル如ク分隊ノ關係位置ヲ適切ナラシムルコト
 必要ナリ
 分隊ノ占領スヘキ位置ヲ決定スルニハ通常散兵ヲ配置スヘキ線及其正面幅ヲ
 定ムルヲ要ス而シテ正面幅ハ敵火ノ損害ヲ避ケル爲分隊長ヲシテ部下ヲ掌握
 スルニ妨ナキ限リ勉メテ散兵ヲ疎開シテ配置シ得シムルト共ニ分隊相互ニ射
 撃ヲ妨害セサル如ク顧慮スルコト必要ナリ
第二百一 小隊長ハ小隊ノ部署ヲ決定セハ分隊ノ占ムヘキ位置ニ於テ分隊長
 ニ其占領スヘキ位置及射擊區域要スルハ狀況ノ變化ニ應シ射擊スヘキ部分等
 ナ明確ニ示シ爾後逐次所要ノ指示ヲ與ヘテ細部ノ配備ヲ整ヘシムルモノト
 ス
 小隊長ハ各分隊ニ對シ自己ノ企圖、友軍ノ關係、前方ノ地形其他所要ノ事項
 ナ解説シテ其任務ノ履行ヲ容易ナラシメ戰鬪ノ準備ニ關シ遺憾ナカラシムル
 コトヲ必要ナリ
 小隊長ハ主要ナル地點ニ至ル距離ヲ測定シテ之ヲ標示シ前方ノ要點ニ簡單ナ
 ル名稱ヲ附スル等所要ノ射擊準備ヲ行ヒ各分隊ノ射擊ヲ容易ナラシムルコト
 必要ナリ

小隊配備
 一六七
 配備決定
 配置

突擊準備 第一百九十五 戰鬪漸次進歩シテ敵ニ近接スルニ從ヒ小隊長ハ逐次突擊準備ヲ
 整フヘシ即チ機ヲ失セス敵陣ノ狀況ヲ詳ニ搜索シ所要ニ應シ部下分隊ノ配置
 ナ定メ突入後ノ前進方向並奪取スヘキ目標ヲ指示スル等突擊準備ノ爲諸種ノ
 手段ヲ講スヘシ
第一百九十六 小隊長ハ好機ニ乘シ自ラ又ハ命令ニ依リ
 突擊ヲ決行スヘシ
第一百九十七 突擊實行ニ方リテハ小隊長ハ率先先頭ニ立チ猛烈果敢ニ敵陣ニ
 突入スヘシ
 敵陣ニ突入セハ一意前進ヲ繼續スルコトニ勉メ敵ヲシテ抵抗ノ違ナカラシム
 ルヲ要ス
第一百九十八 戰鬪中ノ集合及併合ハ第七十三ニ準ス各分隊ハ駈歩ニテ小隊
 長ノ許ニ到リ横隊ニ集合シ若ハ示サレタル隊形ニ併合ス
其二 防禦

突擊
 突擊準備 一六三
 突擊 一六四
 突擊實行 一六四、一七三、
 集合併合 一七三、
 一七五、一七三、
 三〇

火線ニ増
 加

用、隊形ノ選擇、機敏ナル行動等ニ依リ爲シ得ル限リ損害ヲ避ケ以テ火線ノ
 運動ニ從フヲ要ス
第一百九十四 援隊ヲ火線ニ増加スルニハ成ルヘク分隊ト分隊トノ間隔ニ挿入
 シ若ハ翼側ニ延伸ス然レトモ已ムヲ得サルトキハ伍間ニ増加ス
 伍間ニ増加シタル場合ニ於テハ分隊長ハ成ルヘク速ニ新ニ其部下ヲ區分スヘ
 シ

斥候 監視部隊

待機間 一七〇

火網内ノ 防戦

第二〇二 小隊長ハ敵情、地形ヲ搜索スル爲斥候ヲ派遣シ又敵ノ搜索ヲ妨害シテ我カ陣地ヲ秘匿シ且敵情ヲ監視スル爲陣地ノ前方ニ所要ノ監視部隊ヲ配置スルヲ通常トス而シテ此等ハ中隊内ニ在リテ防禦スル場合ニ於テハ通常中隊長ニ於テ統制セラレ若ハ直接區處セラレモノトス

一地ニ配置スヘキ監視部隊ノ兵力ハ其要度ニ依リ異ナルモ通常數名ヨリ成ルモノトス

監視部隊ヲ配置スヘキ位置ハ狀況特ニ地形ニ依リ定ムヘキモ主陣地ニ在ル守兵ト密接ナル連繫ヲ保持シ得ルコトニ顧慮スルヲ要ス

監視部隊撤退ノ時機ニ關シテハ明確ニ指示スルコト必要ナリ

小隊長ハ陣地ニ在リテ敵情ヲ觀察セシムル爲所要ノ監視哨ヲ配置スルモノトス

第二〇三 敵兵未タ我カ火網ニ近接セサル間ハ守兵ヲ掩護下ニ入ラシメ以テ配備ヲ秘匿シ且敵火ノ損害ヲ避クルニ勉ムルヲ要ス然レトモ之カ爲敵情ノ監視ヲ中絶スルコトアルヘカラス

敵兵我カ火網内ニ侵入スルヤ小隊長ハ適時小隊ノ射撃開始ヲ命シ各分隊ヲシテ各、其任務ニ基キ射撃ヲ實施セシメ敵兵近接スルニ從ヒ益々射撃威力ヲ熾烈ナラシメ敵ヲ我カ陣地前ニ擊滅スヘシ此間小隊長ハ絶エス敵情ト我カ火力ノ状態トニ注意シテ各分隊ノ射撃ヲ適切ナラシメ要スルハ援隊ヨリ所要ノ兵力ヲ補填シ以テ敵ノ一部ト雖我カ射撃ヲ免レテ近接スルヲ得サラシムルヲ要ス

逆襲

突入セバ 一七三

夜間

接敵一般

疎開

輕擧ニ陣地ヲ棄テテ出撃スルハ之ヲ戒メサルヘカラス然レトモ敵兵我カ陣地前至近ノ距離ニ於テ我カ火力ノ爲萎靡混亂セル場合ニ於テハ小隊長ハ決意逆襲ヲ敢行スヘシ

第二〇四 敵兵若小隊陣地ノ一部ニ侵入セハ小隊長ハ機ヲ失セス敵ノ混亂ニ乘シ果敢ナル逆襲ヲ決行シ陣地ヲ奪回スヘシ

第二〇五 夜間ノ防禦ニ在リテハ必要ニ應シ最初ヨリ火線ノ兵力ヲ増加シ且適宜火線ト援隊トノ距離ヲ短縮スルヲ要ス面シテ小隊長ハ監視部隊ノ外陣地前ニ所要ノ歩哨ヲ配置シ又斥候ヲ派遣シテ敵情ヲ搜索シ前地ヲ照明スルノ處置ヲ講スル等諸種ノ手段ヲ盡シテ敵ノ近接ヲ警メ又夜間射撃ノ設備ヲ整フルコト緊要ナリ

敵兵至近ノ距離ニ達セハ沈著シテ之ニ猛烈ナル射撃ヲ加ヘ之ヲ擊退スヘシ而シテ敵兵尙咫尺ノ地ニ來ルヤ白兵ヲ揮ヒ奮闘以テ之ヲ擊滅スヘシ

第三款 中隊

第二〇六 戰鬪ノ爲前進スル中隊ハ所要ニ應シ搜索及警戒ノ處置ヲ講シ爲シ得ル限リ敵火ノ損害ヲ減少シ且敵航空機ノ搜索ヲ避クル爲地形其他ヲ利用シ隊形ヲ選擇シ又巧ニ我カ砲兵ノ射撃ノ效果ヲ利用シ以テ速ニ敵ニ近接スルコトニ勉ムヘキモノトス

第二〇七 戰鬪ノ爲前進ニ方リ中隊長ハ地形其他ヲ利用シ勉メテ密集隊形ヲ保チテ前進シ所要ニ從ヒ中隊ヲ疎開ス之カ爲小隊間ノ距離間隔ヲ開キ或ハ更ニ各小隊ヲ疎開セシム而シテ狀況之ヲ許セハ再ヒ密集隊形ニ復シ又要スレ

運動ノ規

ハ各小隊ノ隊形ヲ指示スルヲ可トスルコトアリ
中隊ヲ開スルニ方リ其配置ヲ如何ニスヘキヤハ狀況特ニ其目的ニ應シテ決
定スヘキモノナリト雖通常ニ乃至三小隊ヲ併列シ其後方ニ爾餘ノ小隊ヲ重疊
シ若ハ梯次ニ配置ス而シテ各小隊間ノ距離ハ別命ナケレハ約百米トス
第二十八 戰闘ノ爲ノ前進間中隊ノ運動ヲ律スルニハ中隊長ハ通常基準小隊
及其行進目標(方向)ヲ指示ス
中隊疎開セハ特務曹長、曹長、分課下士官及喇叭手ハ中隊長ニ隨フモノトス
又中隊長ハ適時必要ノ傳令ヲ準備シ且上級指揮官トノ間ニ連絡ノ處置ヲ講シ
要スレハ小隊長トノ間ニ連絡ニ關スル規定ヲ爲スモノトス
特務曹長ハ特ニ連絡ニ關シ深甚ノ注意ヲ拂ヒ中隊長ヲ輔佐スルモノトス
戰闘ノ爲ノ前進間中隊長ハ前方ノ敵情、地形ヲ速ニ觀察シ且適時中隊ヲ部署
スル爲通常中隊ノ前方ニ位置スルモノトス
中隊長ハ小行李ノ位置及行動ヲ定ム
第二十九 中隊長ハ火戰ノ實行ニ先タチ中隊ヲ展開シ第一線ト豫備隊トニ區
分ス
展開ヲ行フニハ中隊長ハ現地ニ就キ各小隊長ニ現在ノ狀況及中隊ノ攻撃スヘ
キ目標、第一線ニ出スヘキ小隊、豫備隊並各小隊ノ關係位置及要スレハ基準小
隊ヲ示ス狀況ニ依リ各小隊ニ其射撃スヘキ目標ヲ示スヲ可トスルコトアリ
攻撃目標ヲ指示スルニハ通常目視シ得ル第一線ト爾後攻撃シテ到達スヘキ地
點トヲ以テスルモノトス

中隊部署

攻擊目標

小隊ノ指

對空戰

對騎兵戰

瓦斯攻擊
ヲ受ケタ
ルトキ

第二十二 戰闘間中隊長ハ敵情ヲ詳ニスルコトニ勉メ且各小隊ノ行動ヲ密接
ニ連繫セシメ要スレハ第一線小隊ニ射撃目標ヲ示シ或ハ小隊ノ運動ヲ規正ス
ル等敵ニ近接スルニ從ヒ益々各小隊ノ指導ヲ適切ニシ自己ノ意圖ノ如ク戰闘
シ得シムルコト緊要ナリ
第二十一 交戰中敵騎兵或ハ飛行機ノ襲撃ヲ受クルニ方リテハ直接之ニ對
スルヲ要スル部隊ハ沈著シテ射撃スヘク其他ノ部隊ハ依然其任務ニ服シ之ト
交戰ヲ企ツヘカラス飛行機ヲ射撃スルニハ通常距離六百米以下ニ於テ少ク
モ一小隊ヲ充當セサルヘカラス然レトモ單ニ敵機ノ低空ニ於ケル自由ナル行
動ヲ妨害スルヲ以テ足レリトスルカ如キ狀況ニ在リテハ其以下ノ兵力ヲ以テ
スルモ其目的ヲ達シ得ルモノトス此際友軍ニ危害ヲ及ササル如ク注意スルコ
ト必要ナリ
徒歩セル騎兵ニ對シテハ比較的僅少ノ兵力ト雖成功ヲ期シ得ヘシ此際特ニ我
カ側背ヲ警戒シ且敵ノ手馬ヲ射撃スルコトニ注意スヘシ
第二十二 瓦斯攻擊ヲ受ケル力或ハ之カ警報ヲ聞クカ若ハ撒毒シアルヲ豫
察シタルトキハ中隊長及各幹部ハ機ヲ失セ下部ニ防毒面ヲ裝著セシムルコ
トニ注意スヘシ此際指揮官ノ號令、命令ノ徹底甚タ困難ナルヲ以テ指揮官ハ
記號等ヲ適切ニ應用シ部下ハ之ニ注意シ能ク戰闘ヲ遂行セサルヘカラス
第二十三 豫備隊ノ用途ハ火線ヲ増加シ戰果ヲ擴張シ又ハ敵ノ攻撃ヲ受ク
ル虞アル側面及背面ヲ掩護スルニ在リ
第二十四 豫備隊ノ長ハ中隊長ヲシテ機ヲ失セス豫備隊ヲ使用シ得シムル

豫備隊長

用途

豫備隊ノ長

ハ中隊長ヲシテ機ヲ失セス豫備隊ヲ使用シ得シムル

ノ動作 一九三
如ク注意スルチ必要トス之カ爲絶エス戰況ト地形トチ顧慮シ依托ナキ側方ニ
斥候ヲ出シテ搜索ニ任セシメ中隊長ト確實ニ連絡ヲ保チ其意圖ニ從ヒ豫備隊
ノ位置及運動ヲ定メ特ニ地形ヲ利用シ隊形ノ選擇ヲ適切ニシ爲シ得ル限リ損
害ヲ避クルコトニ注意スルチ必要トス
豫備隊ヲ火線ニ増加スルニハ通常所屬小隊長ノ指揮ヲ以テ火線
ヲ構成セシム
第二百二十五 中隊愈々敵ニ近迫セハ中隊長ハ好機ニ乘シ突撃ヲ決行スヘシ
第二百二十六 突撃實行ニ方リ中隊長ハ中隊ノ全力ヲ揮ヒテ卒先頭ニ立チ猛
烈果敢ニ敵陣ニ突入スヘシ
第二百二十七 突撃頓挫シタルトキハ既ニ占領セル地點ヲ確保シ爲シ得ル限リ
速ニ其隊勢ヲ恢復シ百方手段ヲ盡シテ突撃ヲ復行スヘシ
第二百二十八 突撃功ヲ奏セハ中隊長ハ射撃ト運動トヲ併用シ敗退スル敵ヲ急
迫シ極力之カ威滅ヲ圖ルヘシ然レトモ成ルヘク速ニ兵力ヲ集結シテ爾後ノ使
用ニ應ジ得ルコトモ亦顧慮セサルヘカラス
第二百二十九 戰闘中ノ集合及併合ハ第九十八ニ準ス各小隊ハ駈歩ニテ中隊
長ノ許ニ到リ中隊縱隊ニ集合シ若ハ示サレタル隊形ニ併合ス
戰闘局ヲ結フカ若ハ敵ノ追撃ヲ受ケサルニ至レハ直ニ集合スルモノトス
第三節 夜間ノ行動
第二百二十一 夜間ノ行動ハ行進方向ノ維持ヲ確實ニシ連絡ヲ緊密ニシ靜肅
ニシテ且成ルヘク迅速確實ニ所期ノ地點ニ到達シ得ルコト必要ナリ

隊形 第二十二 夜間行動スル軍隊ハ行動容易ナルコトチ主眼トシテ其隊形ヲ
選定スヘキモノトス之カ爲通常側面向ノ隊形ヲ用ヒ所要ニ應ジ至近ノ距離ニ
斥候ヲ出シテ警戒及連絡ニ任セシム
第二十三 夜間ノ行動ニ於テ行進方向ノ維持ノ爲ニハ豫メ周到ナル準備ヲ
整フルチ要ス之カ爲成ルヘク天然又ハ人爲ノ地物ニ依リ其方向ヲ定メ或ハ晝
間ニ於テ豫メ前方若ハ後方ニ行進方向ノ基準ヲ標示スヘシ晝間之ヲ實施スル
コト能ハサルトキハ選拔セル將校ヲ先行セシメ所要ノ標示ニ依リ行進方向若
ハ進路ヲ指示セシムルチ可トス又何レノ場合ニ於テモ羅針ヲ併用スルチ有利
トス
第二十四 地形、地物ハ夜間ニ於テハ晝間ト全ク其價値ヲ異ニスルコト
アリ故ニ晝間ニ於テ夜間行動ノ爲ノ行進目標ヲ選定シ又ハ夜間ノ爲ノ偵察ヲ
行フニ方リテハ縦ヒ小ナル地形及地物ノ變易ト雖忽セニスルコトナク細心ノ
注意ヲ以テ之カ利用及障得ノ排除又ハ回避ニ關シ考慮スルコト必要ナリ
晝間明瞭ナル目標ト雖夜間不明ナルコト少カラス故ニ目標ノ選定ニ方リテハ
夜間ノ目視ニ關シ注意シ置クチ要ス
第二十五 夜間ノ行動ニ於テ我カ企圖ヲ秘匿センカ爲ニハ特ニ武裝ヲ堅
確ニシ音響防止ノ處置ヲ施シ成ルヘク記號ニ依リ運動ヲ行ヒ燈火其他一切ノ
火光ヲ敵ノ視察ニ對シ隱匿スヘシ又要スレハ彼我ノ識別ヲ容易ナラシムル爲
標識ヲ爲シ合言葉ヲ定ムヘシ
第二十六 夜間ノ運動ニ在リテハ他方面ノ銃聲又ハ喊聲ニ牽カレテ其行

地形、地物
武裝
記號
標識
銃聲ト方

向	敵ノ射擊	照明	火戰	喇叭	目的	號令	命令	集合隊形
進方向ヲ換フルコトナキヲ要ス又前方ニ在ル者ハ特ニ其步度ト連絡トニ注意シ要スレハ時々停止シテ連絡及秩序ヲ恢復スヘシ	行進中敵ノ有效射擊ヲ受ケタルトキハ其效力ヲ減殺スル爲一時停止シ又照明セラレタル場合ニ於テハ我カ行動ヲ秘匿スル爲一時停止シ若ハ其陰影ヲ利用スルチ可トスルコトアリ然レトモ其何レノ場合ニ於テモ之カ爲前進運動ヲ避滞シ又ハ行進方向ヲ誤ルカ如キコトナキニ注意スルコト緊要ナリ	夜間ノ前進ニ在リテハ縦ヒ照明ヲ受クルモ其影影ヲ利用シ得ルカ如キ進路ヲ選定シ得ハ有利ナリ	距離ニ近接シ不意ニ敵陣地ニ突入スルチ可トス	突撃ハ喇叭ヲ吹奏スルコトナク之ヲ行フモノトス但時トシテ喊聲ヲ發セシムルコトアリ	第三章 大隊教練 大隊教練ノ目的ハ大隊ヲシテ集合及簡單ナル運動ヲ行ヒ得シムルニ在リ	第二百二十八 シテ同時ニ同一ノ動作ヲ爲サシムルチ要スルコトキハ大隊長ノ號令ニ依ルモノトス	第二百二十九 シテ同時ニ同一ノ動作ヲ爲サシムルチ要スルコトキハ大隊長ノ號令ニ依ルモノトス	第二百三十 大隊ノ集合隊形ハ通常縱隊橫隊及大隊縱隊トス縱隊橫隊ハ中隊縱隊ヲ一線ニ併列シタルモノ、大隊縱隊ハ之ヲ前後ニ重疊シタルモノニシテ

諸動作ノ指揮法	停止	目的	作業ノ要訣	作業ト危
別命ナキトキハ各中隊ノ距離ハ十六步、間隔ハ八步トス 併立縱隊ヲ以テ各種ノ隊形ヲ作りタルトキハ之ヲ併立縱隊ノ縱隊橫隊、併立縱隊ノ大隊縱隊ト謂フ 大隊長ハ大隊ノ先頭列ノ中央前十六步ニ、大隊副官ハ其左側後ニ位置シ大隊本部附下士官ハ第一中隊ノ押伍列ニテ曹長ノ左ニ、喇叭長ハ同中隊喇叭手ノ右ニ位置ス 衛生部員ノ位置要スレハ小隊長ノ乘馬並小行李ノ位置ハ大隊長適宜之ヲ定ム 第二百三十一 方リ要スレハ基準中隊及各中隊ノ關係位置等ヲ中隊長ニ示スモノトス 中隊間ノ距離間隔ハ各中隊整頓翼ノ分隊長之ヲ保ツヘシ 第二百三十二 大隊ヲ停止セシムルニハ「大隊 止」ノ號令ヲ下ス	第二百三十三 テ狀況ニ適應スル如ク作業ヲ實施シ得シムルニ在リ	第二百三十四 基礎トシ的確ナル指揮ヲ練熟セル技能トチ以テ嚴肅ナル軍紀ノ下ニ整齊確實且迅速ニ作業ヲ實施スルニ在リ	第二百三十五 且迅速ニ作業ヲ實施スルニ在リ	第二百三十五 作業ハ危險慘烈ナル狀況ノ下ニ實施スヘキ場合少カラス又行

第二編 作業教練

通則

第二百三十三 作業教練ノ目的ハ指揮官及兵ヲ訓練シテ作業ニ習熟セシメ以テ狀況ニ適應スル如ク作業ヲ實施シ得シムルニ在リ

第二百三十四 狀況ニ適應スル如ク作業ヲ實施スルノ要訣ハ戰術上ノ要求ヲ基礎トシ的確ナル指揮ヲ練熟セル技能トチ以テ嚴肅ナル軍紀ノ下ニ整齊確實且迅速ニ作業ヲ實施スルニ在リ

第二百三十五 作業ハ危險慘烈ナル狀況ノ下ニ實施スヘキ場合少カラス又行

險 困 苦 ノ 覺
 軍其他劇務ニ服シ且困苦缺乏ニ堪ヘメル後ニ行ヒ或ハ其實施數晝夜ニ互ルコトアリ故ニ各自居常自信ト耐忍トヲ養ヒ事ニ臨ミテ剛毅沈著能ク最善ヲ盡シテ任務ノ遂行ヲ期セサルヘカラス特ニ幹部ハ困難ニ遭遇スル毎ニ益々勇氣ヲ倍加シテ率先難ニ處シ部下ノ志氣ヲ鼓舞激勵スルコト緊要ナリ

夜ヲ論セ
 第二百三十六 作業ハ晝夜ヲ論セス實施スヘキモノニシテ特ニ敵前作業ハ夜間ニ實施スルコト多シ故ニ教練ニ方リテハ此趣旨ニ鑑ミ縱ヒ暗夜困難ナル狀況ニ於テモ能ク其目的ニ應スル如ク整齊確實且靜肅ニ作業ヲ遂行シ得シムルコト緊要ナリ

敵前作業
 第二百三十七 敵前作業ニ關シテハ指揮官以下ヲシテ之ニ熟達セシメ特ニ兵ハ心手自然ノ性ヲ爲シ縱ヒ戰鬪慘烈ヲ極メ局部ノ指揮行ハレサル場合ニ於テモ獨斷能ク其任務ヲ達成シ得サルヘカラス

企圖ノ秘
 第二百三十八 敵前作業ニ於テハ勉メテ企圖ノ秘匿ニ注意シ且周到ナル準備ヲ整ヘ其實施ヲ果敢ナラシムルト共ニ協同スヘキ部隊ト終始密接ナル連繫ヲ保持シ協力一致以テ目的ニ向ヒ邁進スルヲ要ス

偽裝
 第二百三十九 我カ軍ノ企圖ヲ敵ニ秘匿スル爲工兵ハ偽裝ヲ實施スルコト甚々多シ時トシテ大規模ニ偽裝ヲ實施スルヲ要スルコトアリ故ニ各種作業教練ノ實施ニ方リテハ屢々之ニ關シ演習スルヲ要ス

準備作業
 第二百四十 準備作業ノ適否ハ作業ノ成果ニ影響スルコト大ナリ故ニ作業教練ノ實施ニ方リテハ之カ練磨ヲ忽セニスヘカラス

器具材料
 第二百四十一 所在ノ器具、材料ヲ收集整備シ且之ヲ使用スルコトハ各種ノ

ノ 收 集
 作業ニ於テ緊要ナリ故ニ機會ヲ得ル毎ニ之カ練磨ニ勉ムヘシ

特 技 ノ 習
 第二百四十二 作業ノ實施就中、技術ヲ要スルモノニ在リテハ各種特業者ノ活動ニ俟ツヘキモノ多シ故ニ作業教練ニ方リテハ幹部ヲシテ之カ運用ニ習熟セシムルコト必要ナリ

機 械 力
 第二百四十三 作業ノ實施ニ方リテハ機械力ヲ有利ニ使用スヘシト雖戰況其他ノ關係上人力ヲ主トセサルヘカラス場合多シ故ニ作業教練ノ實施ニ方リテハ人力ニ依ル作業ノ練磨ヲ忽セニスヘカラス

幹 部 ノ 技
 第二百四十四 戰時廣汎多岐ナル各種ノ技術的要求ヲ充足スルニハ一ニ幹部ノ豐富ナル識量ニ俟タサルヘカラス故ニ幹部ハ常時深厚ナル技術ノ研鑽ニ勉ムルト共ニ器材ノ構造、機能ニ精通シ之カ取扱ニ慣熟スルノミナラス戰時利用スヘキ各種應用器材ノ研究モ亦忽セニスヘカラス

危 害 豫 防
 第二百四十五 作業ノ實施ニ方リテハ縱ヒ小ナル遺漏ト雖大ナル災害ノ原因タルコト少カラス故ニ常ニ綿密周到ナル注意ヲ拂ヒ危害ノ豫防ニ遺算ナキヲ要ス

實 用 的 ノ 作 業
 第二百四十六 作業ハ其目的ニ合スル如ク確實ニ完成スルヲ要ス之カ爲實用ニ適スルヲ以テ本旨トシ徒ラニ形式ニ拘泥シ若ハ巧飾ニ互ルカ如キハ嚴ニ之ヲ戒メサルヘカラス

準 備
 第二百四十七 作業教練ヲ行フニハ通常多クノ準備ヲ要スルモノトス之カ爲豫メ適宜ノ教練場ヲ設備シ若ハ一教練ニ於テ實施セシ作業ヲ次ニ行フ教練ノ準備ヲラシムルヲ得レハ有利ナリ

器材ノ機能	兵ニ與フ自由	集合運動	休憩	諸設備	作業ノ細部
-------	--------	------	----	-----	-------

第二百四十八 作業教練ニ於テハ兵ヲシテ器材ノ機能ヲ熟知セシメ常ニ使用ニ先タチ之ヲ點檢セシメ且其取扱ヲ適切ニシ保存ヲ良好ナラシムル習慣ヲ養成スルコト肝要ナリ

第二百四十九 兵ニハ其動作ヲ容易ニシ任務ノ達成ニ便ナラシムル爲位置、姿勢及器材ノ操作ニ關シ若干ノ自由ヲ與フルモノトス

第二百五十 作業教練ニ於ケル集合及運動ハ徒手及執銃教練ノ規定ニ從フ而シテ距離間隔ハ必要ニ應シテ増減シ又其號令ハ通常動令ヲ省キタルモノヲ用フ

第二百五十一 作業間ノ休憩ハ適宜部隊ヲ集合セシメタル後解散シテ行フモノトス然レトモ短時間ノ休憩ハ作業ノ位置ニ於テシ又夜間ノ休憩ハ勉メテ集團シテ行ハシムルヲ可トス

第二百五十二 對陣其他軍隊長時日一地ニ駐留スルトキハ工兵ハ築城及交通作業ヲ實施スルノ外棲息、給水、排水、照明及煖房等築營ニ關スル諸設備ヲ行フコト屢ナリ

此等ノ設備ハ多クハ築城、渡河、交通若ハ坑道ノ教練ニ於テ修得セシトコロヲ應用シテ實施シ得ヘシト雖苟モ機會ヲ得ハ勉メテ其實施ヲ演練スルヲ要ス

第二百五十三 作業實施ノ細部ニ關シテハ本篇ニ示ストコロノ外關係教練ノ規定ニ據ルヘシ

第一章 基礎教練 要則

目的	三乃至七	各個技能	數人協力	位置ニ就ケ	作業始メ
----	------	------	------	-------	------

第二百五十四 基礎教練ノ目的ハ兵ヲ訓練シテ作業上重要ナル基礎ノ技能ニ習熟セシムルト同時ニ軍人精神ヲ鍛ヒ軍紀ヲ練成スルニ在リ

第二百五十五 基礎教練ヲ行フニハ本要則ニ示スモノノ外第一篇第一章各個教練要則ニ示セル事項ヲ適用スルモノトス

第二百五十六 兵各個ノ技能ノ良否ハ作業全般ノ進捗ト成果トニ影響スルコト大ナリ故ニ教官ハ兵ヲシテ各々其責任ノ重大ナル所以ヲ了解セシメ銳意其技能ノ練磨ニ勉メシムルコト緊要ナリ

第二百五十七 數人ヲ以テ同時ニ一器材ヲ使用シ又ハ運搬スル等ノ場合ニ於テハ一名ノ基準兵ヲ置キ以テ協同動作ノ基準タラシメ且所要ノ指示ヲ爲サシムルモノトス

二人以上協力シテ作業スル場合ニ於テハ特ニ氣合ノ合致ニ留意セサルヘカラス

第二百五十八 兵ヲ作業ノ位置ニ就カシムルニハ通常器材ヲ携持セシメタル後要スレハ其位置ヲ指示シテ左ノ號令ヲ下ス

位置ニ就ケ

兵ハ指示セラレタル位置ニ就キ姿勢ヲ正ス若豫メ作業ノ位置ニ器材ヲ整備シアルトキハ所要ノ器材ヲ執ル

第二百五十九 作業ヲ始メシムルニハ作業ノ方法其他必要ノ事項ヲ示シタル後左ノ號令ヲ下ス

作業始メ

作業止メ

兵ハ擔任ノ作業ヲ始ム
第二百六十 作業ヲ止メシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
兵ハ作業ヲ止メ器材ヲ携持セル儘其位置ニ於テ姿勢ヲ正ス

第一節 土工

土工ノ重

第二百六十一 土工ハ築城、交通、坑道等應用ノ範圍廣ク其熟否及持久力ノ大小ハ直接作業ノ進捗ニ關係スルコト大ナリ

基本的作

土工ハ晝夜ヲ間ハス長時間連續實施シ得サルヘカラス
第二百六十二 土工ニハ主トシテ圓匙、十字鍬ヲ使用ス
圓匙ニ依ル掘土及投土ハ土工ノ基礎ヲ成スモノニシテ之カ作業力ヲ練成スルコト緊要ナリ

持久力

除土及積土ハ土工ノ重要ナル素質ナルヲ以テ各種ノ作業ニ於テ各、其目的ニ合スル如ク整齊且確實ニ之ヲ遂行シ得サルヘカラス
被覆ハ所要ニ應シ之ヲ實施シ得ルヲ要ス
第二百六十三 圓匙、十字鍬ヲ使用スルニハ毎回ノ掘土又ハ投土ニ於ケル土量ヲ多カラシムルト共ニ其回数ヲ適度ニシテ持久力ヲ保持シ間斷ナク作業スルコト緊要ナリ

除積土被

第二百六十四 除積土及被覆ヲ行フニハ所定ノ幅員、傾度ヲ確實ニ保持セシムルコト緊要ナリ

覆

第二節 漕舟

渡河ノ基

第二百六十五 漕舟ハ渡河作業ノ基礎ヲ成スモノニシテ其熟否及持久力ノ大小ハ畜ニ渡河作業ノ進捗ニ影響スルノミナラス之カ成否ヲ左右スルモノナリ

漕舟具

漕舟ハ晝夜ヲ論セス長時間ニ互リ且急流或ハ波浪アル場所ニ於テモ自由ニ之ヲ實施シ得サルヘカラス
第二百六十六 漕舟ニハ主トシテ櫓ヲ使用ス而シテ櫓ニ依ル漕舟ニ於テハ之カ作業力ヲ練成スルコト緊要ナリ

漕舟要領

櫓ハ通常櫓ノ補助トシテ之ヲ使用ス
第二百六十七 櫓ニ依リ全形舟又ハ門橋ヲ操作スルニハ常ニ舟軸ヲ所望ノ方向ニ保持シ且每漕ノ推進力ヲ大ナラシムルヲ要ス而シテ此際漕數ヲ適度ニシ以テ持久力ヲ保持スルコト緊要ナリ然レトモ短時間ノ力漕ヲ必要トスル場合ニ於テハ力ヲ極メテ迅速ニ操作スルモノトス

二個以上ノ漕舟具

協調ニ留意スルヲ要ス
第二百六十八 同時ニ二個以上ノ漕舟具ヲ使用スル場合ニ於テハ互ニ操作ノ豫防ノ爲ニモ亦緊要ナリ

游泳

第二百六十九 游泳能力ノ向上ハ水上作業ニ自信力ヲ與フルノミナラス危害

連結ノ重

第二百七十 連結ハ各種作業ニ於ケル應用ノ範圍廣ク其確否及遲速ハ全結礎ノ抵抗力及作業ノ進捗ニ影響ス

連結ハ暗夜又ハ高所ニ於テモ確實且迅速ニ實施シ得サルヘカラス

第三節 連結

材料 第二百七十一 連結ニハ主トシテ綱(繩)、鐵線及銚ヲ使用ス
連結ノ確 第二百七十二 連結材料ノ使用ニ方リテハ其目的及連結スヘキ材ニ加ル力ノ
實 状態ニ應シ結束若ハ銚著ヲ確實ナラシメ之ヲ弛解セシメサルコトニ注意スル
ヲ要ス

第四節 木工

木工ノ要 第二百七十三 木工ハ築城、架橋等ニ於テ緊要缺クヘカラサルモノナリ
求程度 築城、架橋ニ於ケル普通ノ木工作業ハ特技ヲ有セサル一般兵ニ在リテモ之ヲ
實施シ得サルヘカラス

木工器具 第二百七十四 木工ニハ主トシテ鋸及斧ヲ使用ス

材ト器具 第二百七十五 鋸及斧ヲ使用スルニハ材ノ状態特ニ木理ノ方向ヲ顧慮シ且所
ノ用法 望ノ方向ニ沿ヒ之カ使用ヲ適切ナラシムルコト必要ナリ

點檢 第二百七十六 木工器具ハ使用間適時之ヲ點檢シ塗油ヲ行フ等常ニ其機能ノ
保持ニ留意スルヲ要ス

第五節 植杭

應用範圍 第二百七十七 植杭ハ築城、架橋等ニ於テ屢々應用セララルモノナリ
器具 第二百七十八 植杭ニハ主トシテ大鎚又ハ手用築頭ヲ使用ス

植杭法 第二百七十九 植杭ヲ爲スニハ杭ヲ所望ノ方向ニ正シク打込ムコト緊要ナリ
之カ爲杭ノ持チ方及打ち方ヲ適切ナラシムルヲ要ス

第六節 重材料ノ取扱

應用範圍 第二百八十 重材料ノ取扱ハ各種ノ作業ヲ通シ屢々應用セラレ其適否ハ直接
取扱 作業ノ進捗ニ影響ス

協同 第二百八十一 重材料ノ取扱ハ主トシテ臂又ハ肩ニ依リ或ハ力作器材ヲ使用
ス

力作器材 第二百八十二 重材料ヲ取扱フニハ常ニ士氣ヲ緊張シ基準兵ノ指示ニ從ヒ協
同動作スルコト緊要ナリ

力作器材 第二百八十三 力作器材ヲ使用スルニハ之カ點檢ヲ周密ニシ實施ニ方リ齟齬
溢滞ナカラシメ且危害ヲ生セシメサルコト必要ナリ

第七節 爆破

作業ノ重 第二百八十四 爆破ハ工兵ノ擔任スヘキ重要ナル作業ニシテ其成否ハ屢々戰
要性 闘ニ重大ナル影響ヲ及スモノトス而シテ其奏功ノ確否ハ兵各個ノ作業ニ基因
スルコト極メテ大ナリ

準備實施 第二百八十五 爆破ハ其準備ヲ周到綿密ナラシムルト共ニ其實施ハ沈著機敏
ナラサルヘカラス

作業ノ基 第二百八十六 火薬ニ點火具ノ裝著及火具、導電線ノ各種接續ハ爆破作業ノ
基礎ヲ成スモノナリ故ニ特ニ綿密ナル注意ヲ以テ確實ニ實施シ斷シテ遺漏ナ
キヲ要ス

梱包 第二百八十七 裝薬ヲ梱包スルニハ之ヲ堅確ニシ且點火具ノ保護ヲ十分ナラ
シムルコト肝要ナリ容積大ナル方若ハ遠距離ニ携行シ又ハ敵火ノ下ニ運搬ス
ヘキ場合ニ於テ特ニ然リトス

應用範圍 第二百八十 重材料ノ取扱ハ各種ノ作業ヲ通シ屢々應用セラレ其適否ハ直接
取扱 作業ノ進捗ニ影響ス

協同 第二百八十一 重材料ノ取扱ハ主トシテ臂又ハ肩ニ依リ或ハ力作器材ヲ使用
ス

力作器材 第二百八十二 重材料ヲ取扱フニハ常ニ士氣ヲ緊張シ基準兵ノ指示ニ從ヒ協
同動作スルコト緊要ナリ

力作器材 第二百八十三 力作器材ヲ使用スルニハ之カ點檢ヲ周密ニシ實施ニ方リ齟齬
溢滞ナカラシメ且危害ヲ生セシメサルコト必要ナリ

第七節 爆破

作業ノ重 第二百八十四 爆破ハ工兵ノ擔任スヘキ重要ナル作業ニシテ其成否ハ屢々戰
要性 闘ニ重大ナル影響ヲ及スモノトス而シテ其奏功ノ確否ハ兵各個ノ作業ニ基因
スルコト極メテ大ナリ

準備實施 第二百八十五 爆破ハ其準備ヲ周到綿密ナラシムルト共ニ其實施ハ沈著機敏
ナラサルヘカラス

作業ノ基 第二百八十六 火薬ニ點火具ノ裝著及火具、導電線ノ各種接續ハ爆破作業ノ
基礎ヲ成スモノナリ故ニ特ニ綿密ナル注意ヲ以テ確實ニ實施シ斷シテ遺漏ナ
キヲ要ス

梱包 第二百八十七 裝薬ヲ梱包スルニハ之ヲ堅確ニシ且點火具ノ保護ヲ十分ナラ
シムルコト肝要ナリ容積大ナル方若ハ遠距離ニ携行シ又ハ敵火ノ下ニ運搬ス
ヘキ場合ニ於テ特ニ然リトス

裝藥裝置 第二百八十八 裝藥ヲ裝置スルニハ確實ニ之ヲ爆破スヘキ物體ニ密接セシメ又填塞ニ方リテハ特ニ點火具ノ保護ニ注意スルヲ要ス

點火 第二百八十九 點火ハ爆破ノ成否ヲ決スルモノナルヲ以テ之カ實施ニ方リテハ常ニ必成ヲ期シ沈著確實ナラサルヘカラス

爆破火藥 第二百九十 爆破用火藥ハ主トシテ黃色藥、黑色藥ヲ使用スルモ其他ノ制規導火索點火ハ應用セラルル場合多キヲ以テ特ニ之ニ習熟セシムルヲ要ス

教育順序 第二百九十一 爆破ノ使用スヘキ場合モ亦少カラズ

目的 第二百九十二 班教練ノ目的ハ班長以下ヲ訓練シテ班ノ作業ニ習熟セシメ協力一致シテ圓滑ニ作業ヲ實施シ得シムルニ在リ

班教練ノ價值 第二百九十三 班ハ作業實施ノ最小單位ニシテ其訓練ノ良否ハ直ニ作業ノ成果ニ關シ又其練成上ノ缺陷ハ中隊教練ニ於テ補綴スルコト難シ之ニ反シ班ノ練成完全ナランカ中隊ハ管テ練習セサル作業ト雖幹部ノ指導ニ依リ適當ニ之ヲ遂行シ得ルモノナリ故ニ班教練ハ特ニ意ヲ用ヒテ綿密懇切ニ實施スルヲ要ス

第二章 班教練

要則 班教練ノ目的ハ班長以下ヲ訓練シテ班ノ作業ニ習熟セシメ協力一致シテ圓滑ニ作業ヲ實施シ得シムルニ在リ

第二百九十四 班教練ハ班長ヲシテ特ニ狀況ニ鑑ミ作業ノ法則ヲ活用シ班ヲ指揮シテ所命ノ作業ヲ遂行スルコトニ習熟セシムヘシ

第二百九十五 班ノ擔任スヘキ作業ハ多岐ニ互ルヲ以テ班教練ニ於テハ主トシテ其重要ナル作業又ハ基本トナルヘキ作業ノ演練ニ勉メ其他ノ作業ハ之カ應用ニ依リ實施シ得シムル如クスヘシ

第二百九十六 班ノ編成ハ擔任スヘキ作業ニ應シテ之ヲ定メ通常下士官ヲ以テ其長ト爲ス

第二百九十七 班長ハ所要ニ應シ班ヲ組ニ區分シ組ニ組長又ハ基準兵ヲ設ク

第二百九十八 班長ハ作業ニ關スル任務ヲ受クレハ要スレハ現地ヲ偵察シテ作業ノ計畫ヲ定ム

第二百九十九 班長ハ任務ニ基キ使用シ得ヘキ人員、時間、器材等ヲ顧慮シテ狀況ニ適應スル如ク作業ノ方法、著手ノ順序等ヲ決定ス

第三百 班長ハ班ヲ作業ノ場所ニ誘導シ所要ノ命令ヲ與ヘテ之ヲ作業ノ配置ニ就カシメ作業ヲ開始ス

武器、裝具ヲ携帯スルトキハ通常兵ノ配置ニ先タチ之ヲ一地ニ整置セシメ要

班教練ノ要領 第二百九十四 班教練ハ班長ヲシテ特ニ狀況ニ鑑ミ作業ノ法則ヲ活用シ班ヲ指揮シテ所命ノ作業ヲ遂行スルコトニ習熟セシムヘシ

班教練ノ範圍 第二百九十五 班ノ擔任スヘキ作業ハ多岐ニ互ルヲ以テ班教練ニ於テハ主トシテ其重要ナル作業又ハ基本トナルヘキ作業ノ演練ニ勉メ其他ノ作業ハ之カ應用ニ依リ實施シ得シムル如クスヘシ

編成 第二百九十六 班ノ編成ハ擔任スヘキ作業ニ應シテ之ヲ定メ通常下士官ヲ以テ其長ト爲ス

組 第二百九十七 班長ハ所要ニ應シ班ヲ組ニ區分シ組ニ組長又ハ基準兵ヲ設ク

作業計畫 第二百九十八 班長ハ作業ニ關スル任務ヲ受クレハ要スレハ現地ヲ偵察シテ作業ノ計畫ヲ定ム

準備 第二百九十九 班長ハ任務ニ基キ使用シ得ヘキ人員、時間、器材等ヲ顧慮シテ狀況ニ適應スル如ク作業ノ方法、著手ノ順序等ヲ決定ス

開始 第三百 班長ハ班ヲ作業ノ場所ニ誘導シ所要ノ命令ヲ與ヘテ之ヲ作業ノ配置ニ就カシメ作業ヲ開始ス

武器、裝具ヲ携帯スルトキハ通常兵ノ配置ニ先タチ之ヲ一地ニ整置セシメ要

掩蔽部
 作業間敵ノ攻撃
 端末作業

断面要スレハ作業ノ方法等ヲ指示シタル後作業手ヲ配置シテ掘開ニ著手セシメ爾後作業ノ進捗ニ伴ヒ作業手ノ配置及器材ノ配當ヲ適切ナラシムルコト必要ナリ

交通壕ノ構築ハ概ネ散兵壕構築ノ要領ニ準ス

第三百六 構築ニ方リテハ班長ハ特ニ狀況ニ應ジ作業ノ方法ヲ適切ナラシムルコト共ニ地形ノ利用ニ勉メ速ニ射撃及掩護ノ設備ヲ完成セシムルコト緊要ナリ

第三百七 端末作業法ニ依ル散兵壕ノ構築ニ方リテハ班長ハ常ニ敵情ニ地形ヲ明ニシ掘進方向ニ注意シ且土地ノ起伏、彈痕等ヲ利用シ以テ一頭部ノ掘進ニ勉ムルノミナラス好機ニ投シテ暴露作業ヲ敢行スル等作業ノ進捗ヲ迅速ナラシムルヲ要ス又作業ヲ全ク敵ニ秘匿スルヲ要スルコトキハ頭部作業ノミナラス土棄場及土ノ運搬法等ニ就テモ之方秘匿ニ注意スルコト必要ナリ

班長ハ通常一作業頭ノ人員ヲ二組ニ分チ交代シテ作業セシメ作業手ノ交代ハ逐次其位置ニ於テ行ハシムルモノトス

第三百八 掩蔽部ヲ構築スルニハ其用途ニ應ジ使用ニ便ナラシムルヲ要ス又地形ヲ利用シテ掩護ヲ良好ニシ且勉メテ各部ノ結構ヲ堅固ナラシムルコトニ注意スルモノトス

火線及其附近ニ掩蔽部ヲ構築スルニハ特ニ敵ノ觀察ニ對シ之方秘匿ニ注意シ且兵員用ノモノニ在リテハ守兵ノ進出ヲ迅速容易ナラシムルコト必要ナリ

班長ノ職責
 組長
 報告
 班ノ價值
 散兵壕交築
 齊作業

スレハ銃ヲ各兵ノ身邊ニ置カシム

第三百一 班長ハ作業間班ヲ指揮スルニ便ナル地ニ位置シ逐次命令若ハ號令ヲ下シ或ハ指示ヲ與ヘテ班ヲ指導シツツ作業ヲ遂行スルモノトス又班長ハ必要ニ際シテハ自ら作業ヲ行フモノトス

組長ハ組ノ作業ヲ指揮シ且通常自ら作業スルモノトス

兵ハ作業ノ法則ヲ遵守シ各人協力シテ整齊確實且迅速ニ所命ノ作業ヲ行フモノトス

第三百二 班長ハ作業間適時作業進捗ノ景況ヲ小(中)隊長ニ報告シ又必要ノ狀況ヲ部下ニ知ラシムヘシ

第一節 築城

第一款 陣地ノ設備

第三百三 陣地ノ設備ニ於テハ班ハ設備中各部ノ重要ナル作業ヲ擔任スルモノトス

第三百四 散兵壕ノ構築ハ狀況特ニ地形ニ適合セシムルコト緊要ナリ

散兵壕ノ構築ニ方リテハ班長ハ其射撃區域ニ應ジ經始並断面ヲ適切ニシ以テ火器ノ威力ヲ十分ニ發揚セシムル如クシ又交通壕ノ構築ニ方リテハ特ニ經始ニ注意シ地形ノ利用ニ勉メ以テ遮蔽及掩護ヲ良好ニシ且交通ニ便ナラシムルヲ要ス

第三百五 一齊作業法ニ依ル散兵壕ノ構築ニ方リテハ班長ハ通常射撃區域、

設 突擊路開
偵察
要旨
偽裝假裝

計畫シ之ニ基キ班ヲ所要ノ組ニ區分シ簡單ナル指示ニ依リ迅速ニ作業ヲ實施シ得ル如ク準備スルヲ要ス

豫メ地雷地域ヲ設ケル場合ニ於テハ之カ秘匿ニ留意スルコト肝要ナリ

第三百十三 陣地ノ諸設備ハ其位置ヲ秘匿スルコト特ニ緊要ナリ之カ爲重要ナル設備ハ假裝、偽裝網ノ展張及遮障ノ設置等ニ依リ敵ノ地上及空中ヨリスル偵察ニ對シ其所在ヲ秘匿シ又必要ニ際シテハ工事ノ當初ヨリ偽裝下ニ在リテ敵ニ秘匿シツツ作業セサルヘカラス而シテ敵ノ空中偵察ニ暴露スルノ已ムヲ得サル場合ニ於テモ地上ヨリスル視察ニ對シ秘匿ノ處置ヲ講スルヲ要ス

第二款 突擊作業及掃蕩作業

第三百十四 突擊作業及掃蕩作業ニ於テハ班ハ通常突擊路ノ開設並側防機能及堅固ナル構築物ノ破壞又ハ制壓等ニ任スルモノトス

第三百十五 障礙物又ハ側防機能ノ偵察ヲ行フニハ其目的ニ應シ周到ナル準備ヲ整ヘ實施ニ方リテハ細心ノ注意ヲ以テ地形、地物ヲ利用シ堅忍特久隱密ニ行動シ而モ好機ニ投シテ機敏ニ動作シ以テ目的ノ達成ニ勉メサルヘカラス然レトモ隱密ナル行動ニ依リ目的ヲ達シ難キ場合ニ於テハ強行偵察ヲ實施スルヲ要スルコトアリ

第三百十六 突擊路ノ開設ニ方リテハ班長ハ小隊長ヨリ命令ヲ受クルヤ速ニ關係歩兵部隊ノ長ト連絡シ敵情、歩兵部隊ノ企圖及要求等ヲ詳知シ必要ニ應シ更ニ障礙物ノ現況及細部ノ地形ヲ偵察シテ破壞點、近接法、出發位置要スレハ破壞據點等ヲ決定シ之ニ基キ歩兵部隊ノ長ト掩護、警戒等ニ關シ細部ノ

地雷
鐵條網構
掘開式掩蔽部

掩蓋ヲ有スル機關銃座ヲ構築スルニハ射方向及射界ニ關スル要求ヲ嚴密ニ保持セシムルト共ニ銃眼部ノ構築ニ注意スルヲ要ス

掩蔽部ノ構築ニ方リテハ勉メテ瓦斯防護ノ設備ヲ完全ナラシムヘシ

第三百九 掘開式掩蔽部ヲ構築スルニハ通常掘開ト同時ニ所要ノ人員ヲ以テ材料ノ運搬及必要ノ加工ヲ行ヒ爾後内部、上部ノ順序ニ逐次ニ又ハ同時ニ構築スルモノトス

第三百十 障礙物ハ火器ノ威力ト相俟チテ始メテ十分ナル效果ヲ發揮シ得ルモノナリ之カ爲側防火ニ應セシムヘキモノハ所定ノ經始ニ沿ヒ正シク射方向ニ一致セシメ火線ノ前方ニ設置スルモノハ其後方火線ヨリスル射撃ヲ妨害セサルコト必要ナリ又障礙物ハ勉メテ敵ノ認識ヲ避ケ且敵ノ破壞及通過ヲ困難ナラシムル如ク構築スルヲ要ス

第三百十一 鐵條網ノ構築ニ方リテハ班ハ經始、植杭、張線又ハ材料ノ整備等ノ各部分ノ作業ニ任スルヲ通常トス然レトモ時トシテ獨立シテ一部ノ鐵條網ヲ構築スルコトアリ

植杭又ハ張線ヲ行フニハ班長ハ班ヲ若干ノ組ニ區分シ各組ノ作業ヲシテ互ニ妨害スルコトナク整齊ニ進捗セシムルト共ニ他ノ班トノ連繫ニ注意スルコト必要ナリ

鹿砦ノ構築ニ關シテモ亦概ネ前諸項ニ準ス

第三百十二 戰車ノ攻撃ヲ阻止スル爲地雷地域ヲ設ケルニハ敵戰車ノ現出ニ方リ急速ニ設置スルヲ可トス之カ爲班長ハ地形ヲ偵察シテ豫メ設置ノ方法ヲ

突擊部隊
ト共ニ前
進スル班
戰車爆擊
危險勇敢
掃蕩作業

シテ作業ヲ強行スルモノトス
側防機能ヲ破壊スルニハ入口、銃眼部等薄弱部ヲ爆破シ又之ヲ制壓スルニハ
火焰、煙等ヲ使用スルモノトス
第三百二十一 突擊部隊ト共ニ前進シテ側防機能又ハ堅固ナル構築物ヲ破壊
又ハ制壓スル場合ニ於テハ班ハ目標ニ近接スルニ便ナル突擊部隊ト同行シ好
機ニ投シテ目標ニ向ヒ挺進シ之ヲ破壊又ハ制壓スルモノトス之力爲班長ハ突
擊部隊ト密ニ連繫シ要スレハ適時攻撃時機、進路、掩護射撃等ニ關シテ連絡
シ以テ好機ヲ逸セサルコト肝要ナリ
第三百二十二 爆薬ヲ以テ戰車ヲ攻撃スルニハ豫メ十分ナル準備ヲ整ヘ好機
ニ投シテ數方向ヨリ目標ニ肉薄シ其活動不能トナルニ至ルマテ反復之ヲ爆擊
シ敵ヲシテ對應手段ヲ講スルノ餘裕ナカラシムヘシ而シテ戰車ヲ爆擊スルニ
ハ通常無限軌道下ニ爆薬ヲ投擲シ之ヲ爆破スルヲ可トス
戰車ヲ攻撃スルニハ班長ハ豫メ班ヲ組ニ區分シ敵戰車ノ近接ヲ知ルヤ速ニ各
組ニ目標又ハ擔任區域ヲ指示シテ攻撃ノ配置ニ就カシメ適時之ヲ爆擊セシム
ルモノトス
第三百二十三 突擊作業及掃蕩作業ハ敵前咫尺ノ地ニ於テ危險凄慘ノ裡ニ實
施スルヲ常トス此際一兵ノ行動ト雖勇敢ニシテ且機宜ニ適スルトキハ能ク戰
勝ノ途ヲ拓キ得ルモノトス故ニ兵ハ縦ヒ指揮官ヲ失フニ至ルモ毅然トシテ任
務ヲ遂行スルノ概ナカルヘカラス
第三百二十四 突擊作業及掃蕩作業ノ教練ハ特ニ實戰ノ光景ヲ現出シ實施者

隱密破壊
強行破壊
側防機能
破壞要領

連絡ヲ爲シ所要ノ準備ヲ爲スモノトス
班長班ヲ區分スルモノトス
側防機能ノ破壊又ハ制壓ニ關スル準備モ亦概ネ前諸項ニ準ス
第三百十七 障礙物ニ突撃路ヲ開設スルニハ勉メテ隱密ニ實施スヘシト雖狀
況之ヲ要スレハ最初ヨリ作業ヲ強行セサルヘカラス而シテ隱密破壊ヲ企圖ス
ル場合ニ於テモ強行作業ニ移ル場合ヲ顧慮シ豫メ之ニ對スル準備ヲ整ヘ置ク
ヲ要ス
第三百十八 障礙物ノ隱密破壊ニ方リテハ夜暗、濃霧等ヲ利用シ常ニ敵情ニ
注意シテ隱忍持久敵ノ視聽ヲ避ケ靜肅ニ作業ヲ實施シ射撃ヲ受クルモ輕舉ニ
強行作業ニ移ルコトナク一時潛伏シテ敵ノ注意ヲ緩和シタル後要スレハ位置
ヲ變更シテ作業ヲ復行シ又ハ敵ノ注意ノ他方面ニ牽制セラレタル好機ニ投シ
テ作業ヲ敢行スル等常ニ狀況ニ應ジ敵ノ不意ニ乘シテ作業ヲ遂行スルヲ要ス
第三百十九 障礙物ノ強行破壊ニ方リテハ地形及敵火ノ間斷ヲ利用シ又ハ我
カ銃砲火ニ依リ敵ヲ制壓シタル瞬間ヲ捉ヘ或ハ煙ヲ利用スル等諸種ノ手段ヲ
盡シ迅速敏活ニ作業ヲ敢行セサルヘカラス之力爲豫メ密ニ掩護部隊ト連絡シ
準備ヲ周到ニシ以テ實施ニ方リ齟齬ヲ生セシメサルコト必要ナリ
第三百二十 側防機能ヲ破壊又ハ制壓スルニハ隱密ニ又ハ掩護射撃ノ下ニ敏
活ナル行動ニ依リ目標ニ近接シ要スレハ側防機能掩護ノ爲設ケラレタル障礙
物ヲ破壊シ又ハ側防機能直接掩護ノ火器ヲ制壓シ其瞬間ヲ利用シ目標ニ突進

教練

班ノ擔任

舟長漕手

鐵舟ノ運

搬泛水

同各隊長

トノ連絡

通路

チシテ眞ニ戰鬪場裡ニ在ルノ感ヲ懷カシムルコト緊要ナリ之カ爲所要ノ陣地
ヲ設備シ實員又ハ假設ノ敵ヲ置キ其他煙ヲ利用スル等諸種ノ手段ヲ講スルコ
ト必要ナリ

第二節 渡河

第一款 漕渡

第三百二十五 漕渡ニ於テハ班ハ一渡場又ハ其一部ノ作業ヲ擔任ス
漕渡ハ特ニ敵前困難ナル狀況ニ於テモ能ク之ヲ實施シ得サルヘカラス
第三百二十六 漕渡ニ任スル班長ハ班ヲ區分シテ各舟ニ乗組ムヘキ舟長及漕
手ヲ定メ且要スレハ陸上勤務及豫備ノ人員ヲ設ケルモノトス
第三百二十七 鐵舟ノ運搬及泛水ノ準備ニ方リテハ班長ハ運搬法、進路、待
機位置、泛水法其他連絡等ノ細部ニ就キ運搬ニ任スル部隊ノ長ト所要ノ協
チ行フモノトス又之ト協力シテ鐵舟ノ運搬及防音ノ處置、進路標示要スレハ
進路ノ設備等所要ノ準備ヲ實施スルモノトス
第三百二十八 鐵舟ノ運搬及泛水ニ方リテハ班長ハ小隊長及運搬ニ任スル部
隊ノ長ト密接ナル連絡ヲ保チ且常ニ各舟ノ狀況ヲ明ニシ之ヲ誘導シテ所望ノ
如ク行動セシムルヲ要ス
鐵舟ヲ運搬、泛水スルニハ勉メテ多數ノ通路ニ依ルヲ可トスト雖地形及運搬
距離等ノ關係上少數ノ通路ニ依リ逐次搬出セサルヘカラサルコトアリ此際ニ
ハ通常各舟ヲシテ一時待機位置ニ於テ整頓セシメ爾後ノ一齊泛水ニ支障ナカ
ラシムルモノトス

泛水

第一回ノ

歸還

渡河ノ繼

敵前渡河

門橋結構

乘船上陸

設備

第三百二十九 泛水ハ勉メテ各舟一齊ニ實施スルコト必要ナリ而シテ泛水終
レハ第一回渡河部隊ヲ乗船セシメテ直ニ發航シ又ハ發航ノ命令ヲ待ツモノト
ス此際班長ハ特ニ小隊長及最初ニ渡河スル部隊ノ長ト緊密ナル連絡ヲ保持ス
ルヲ要ス

第一回ノ渡河ニ於テハ各舟ハ通常一齊ニ敵岸ニ向ヒ發航スルモ

ノトス
班長ハ豫メ各舟ノ歸還ニ關シ必要ナル事項特ニ歸還スヘキ地點若ハ之カ爲ノ
目標等ヲ各舟長ニ指示スルモノトス

第三百三十一 第一回渡河部隊敵岸ニ上陸セハ各舟ハ豫メ受ケタル指示ニ從
ヒ速ニ我方岸ニ歸航シ更ニ渡河部隊ヲ乗船セシメテ敵岸ニ向ヒ發航ス此際班
長ハ速ニ各舟ヲ區處シテ乗船及發航ヲ滯留セシメサルコト肝要ナリ

班長ハ對岸ノ戰況特ニ敵情ニ注意シ機ヲ失セス所要ノ事項ヲ小隊長ニ報告ス
ルモノトス

第三百三十二 敵前渡河ニ在リテハ屢々人員ノ死傷及舟ノ故障等ニ依リ部署
ノ變更ヲ要スルコトアリ此際班長ハ敏速ニ之ニ對應スル處置ヲ施シ以テ作業
ノ實施ニ支障ヲ來サシメサルコト必要ナリ

各舟ニハ豫メ應急修理ノ爲必要ナル準備ヲ整ヘ置クヲ要ス

第三百三十三 漕渡實施ノ途中ニ於テ班ハ屢々門橋ノ結構又ハ乗船、上陸場
ノ設備ニ任スルコトアリ而シテ此等ノ作業ハ通常夜間少數ノ人員ヲ以テ急速
ニ完了スルヲ要スルノミナラス勉メテ渡場ニ於ケル渡河作業ヲ妨害セサルヲ

曳船

重材料

携行材料
架設

逐次架橋

要ス之カ爲門橋ノ結構等ニ任スル班長ハ漕渡開始前爲シ得ル限り之カ準備ヲ整ヘ實施ニ方リテハ狀況ニ應シ特ニ作業ノ順序、方法ヲ適切ナラシムルコト緊要ナリ

第三百三十四 曳舟ニ依ル機航ニ在リテハ班長ハ通常親舟及子舟ノ指揮ニ任スルモノトス

班長ハ河岸特ニ乗船、上陸場ノ景況ヲ顧慮シテ適時親舟及子舟ヲ區處シ以テ著岸及發航ニ方リ混雜ト滯留トヲ來サシメサルコト必要ナリ

親舟ノ長ハ舟ノ航行及曳綱ノ操作ニ注意シ子舟ノ著岸ヲ容易ナラシムルコト肝要ナリ

押舟、抱舟ニ依ル機航ニ在リテモ亦概ネ前諸項ニ準ス

第三百三十五 重材料ノ漕渡又ハ機航ニ於ケル門橋ノ結構及船著場ノ設備ニ任スル班長ハ此等ヲシテ渡河セシムルヘキ材料ニ適應セシムルト共ニ各部ノ結構ヲ堅固ナラシムルヲ要ス

第二款 架橋

第三百三十六 携行材料ニ依ル縱隊橋ノ架設ニ方リテハ班長ハ之カ準備及實施ヲ通シ通常小隊内ニ在リテ各部分ノ作業ヲ擔任スルモノトス

架橋ハ暗夜困難ナル狀況下ニ實施スルコト少カラス

第三百三十七 逐次架設ニ於ケル橋脚舟又ハ橋節門橋ノ廻漕ニ任スル班長ハ常ニ橋頭ニ於ケル作業進捗ノ狀況ニ注意シ死節時又ハ混雜ヲ生セシメサルコト必要ナリ

投錨

應用材料
架橋

植杭班

應用材料
架柱

重橋梁

班ノ任務

第三百三十八 投錨ヲ實施スルニハ橋脚舟ノ位置ト流速及流線トノ關係ヲ顧慮シテ舟ノ操作ヲ誘導ニ注意シ所要ノ地點ニ正シク投錨シ且錨定ヲ確定ナラシムルコト緊要ナリ而シテ錨舟ニ依ル投錨ニ在リテハ之カ實施ヲ橋頭作業ノ進捗ニ伴ハシメ且其作業ヲ妨害セサルコトニ注意スルヲ要ス

第三百三十九 應用材料ニ依ル縱隊橋ノ架設ハ橋脚ノ種類ニ依リ其方法ヲ異ニスト雖概ネ携行材料ニ依ルモノニ準シ且一層材料ノ準備ヲ周到ナラシメ又各部ノ結構ヲ堅固ナラシムルコト肝要ナリ

第三百四十 列柱ノ植杭ニ任スル班長ハ張間ノ保持ニ注意シ且各杭ノ植立ヲ正シクシ確實ニ所命ノ打止メニ達セシムルコト必要ナリ之カ爲築頭橋ノ結構及配置ヲ適切ナラシメ且心矢ヲ用フル築頭ヲ使用スルニハ特ニ心矢手ノ選定ニ注意スルヲ要ス

第三百四十一 應用材料ニ依ル架柱ノ設置ニ任スル班長ハ特ニ其操作ヲ容易ナラシムル如ク準備ヲ完全ニシ以テ橋頭ニ於ケル作業ヲ迅速ナラシムルヲ要ス

第三百四十二 重橋架ノ架設ハ縱隊橋架設ノ要領ニ準スヘシト雖其負擔スヘキ荷重ノ大ナルト長時日保存ヲ要スルモノナルトニ稽ヘ最モ正確ニ作業シ各部分ニ所定ノ強度ヲ附與スルコト必要ナリ

第三百四十三 第三節 交通 交通ニ於テハ班長ハ道路ノ構築及交通網ノ遮斷ニ於ケル各種ノ

急造道路
班長教育
長時日使
用道路
爆破
偵察計畫
裝藥

作業ヲ實施シ特ニ獨立シテ橋梁、軌道等ノ破壊ニ任スルコト少カラス
 第三百四十四 急造道路ハ通常短時間ニ竣工セシムルヲ要スルヲ以テ構築ニ
 方リテハ勉メテ作業ノ輕減ヲ圖ルコト必要ナリ
 第三百四十五 急造道路ノ構築ハ多クハ築城、渡河ノ教練ニ於テ練成セシト
 コロナ應用シテ實施シ得ルモノトス故ニ此教練ニ於テハ特ニ班長ヲシテ此等
 ノ作業ヲ各種ノ狀況ニ適應セシムル如ク訓練スルヲ要ス
 第三百四十六 長時日使用スヘキ道路ハ軍隊ノ通過ヲ容易ニシ且保存ヲ良好
 ナラシムルヲ要ス之カ爲路面ハ爲シ得レハ碎石、丸太又ハ板等ヲ以テ之ヲ構
 築スルモノトス
 第三百四十七 爆破ニ依ル交通網ノ遮斷ハ其效果偉大ナルノミナラス特ニ好
 機ニ投シテ瞬時ニ其威力ヲ發揮シ得ルノ利アリ然レトモ破壊點ノ選定並爆破
 ノ方法適切ナラサルトキハ却テ不利ナル影響ヲ及スコトアリ故ニ之カ實施ニ
 方リテハ細心ノ注意ヲ以テ之ヲ敢行スルコト緊要ナリ
 第三百四十八 爆破ニ依リ交通網ヲ遮斷スルニハ狀況之ヲ許ス限リ綿密ナル
 偵察ヲ行ヒ作業ノ計畫及準備ヲ周到ナラシメサルヘカラス特ニ迅速ナル作業
 ノ實施ヲ豫想スル場合ニ於テハ爲シ得ル限リ豫メ準備ヲ整フルコト必要ナ
 交通網ノ遮斷ニ任スル班長ハ要スレハ作業ノ掩護ニ任スル部隊ト連絡シ又ハ
 自ラ警戒ノ處置ヲ講スルモノトス
 第三百四十九 裝藥ノ梱包並裝置ノ準備ヲ行フヘキ地點ハ勉メテ破壊スヘキ

梱包裝置
橋梁爆破
鐵橋圯堵
軌道
班任務
構造

位置ニ近接セシムルヲ有利トス然レトモ狀況ニ依リ適宜離隔シ且掩蔽セラレ
 タル地點ニ選定スルヲ要スルコトアリ
 第三百五十 破壊點ヲ選定スルニハ破壞ノ目的、構築物ノ狀態、破壞ノ程度、
 使用シ得ヘキ時間及器材等ニ應シ實施ノ確實容易ナルコトニ著意スルヲ要ス
 第三百五十一 橋梁ノ爆破ハ橋桁若ハ橋脚ヲ爆破スルヲ通常トス
 鐵橋ニ在リテハ板桁又ハ構桁ヲ、圯堵橋ニ在リテハ橋床若ハ橋脚ヲ爆破スル
 可トス而シテ構桁ノ爆破ニ方リテハ完全ナル破壞ヲ企圖スルトキハ橋梁ノ一截
 面ニ於ケル諸材ヲ悉ク截斷セサルヘカラス
 第三百五十二 鐵橋又ハ圯堵橋ヲ爆破スルニハ通常多量ノ裝藥ヲ必要トス之
 カ爲時間ニ餘裕アル場合ニ於テハ綿密ナル設計ヲ行ヒ勉メテ裝藥量ノ節約ヲ
 圖ルヘシト雖狀況切迫セル場合ニ於テハ簡單ナル設計ニ依リ適宜集團裝藥ヲ
 使用スルモノトス
 裝藥裝置ノ爲ニハ通常補助ノ材料及設備ヲ要スルヲ以テ機ヲ失セス所要ノ準
 備ヲ行フコト必要ナリ
 第三百五十三 軌道ノ破壞ハ曲線部或ハ支分部ニ於テ行フヲ可トス又爲シ得
 ル限リ數箇所ニ於テ實施スルモノトス
 第四節 坑道
 第三百五十四 坑道ニ於テハ班ハ坑道ノ構造並藥室ノ設備ニ於ケル各種ノ作
 業ヲ實施スルモノトス
 第三百五十五 坑道ノ構造ニ方リテハ班長ハ土質ニ應シ作業ノ方法ヲ適切ナ

不良地岩
不良地水
石湧水
不良地作
業

ラシメ特ニ頭部ノ作業ヲ整齊迅速ニシ以テ一意掘進ニ勉ムルヲ要ス又匡及板ノ配置ヲ堅固ナラシメ坑道ノ方向、水準ヲ確實ニ保持スルコト必要ナリ

第三百五十六 坑道作業間不良地、岩石地及湧水等ニ遭遇スルモ班長ハ適切ナル處置ヲ講シ部下ヲ督勵シ銳意作業ヲ遂行スルヲ要ス

第三百五十七 不良地ノ作業ニ方リテハ班長ハ特ニ周到綿密ナル注意ヲ以テ絶エス崩土ノ防止ニ勉メ且作業ノ方法ヲ適切ニシテ不慮ノ障得及作業ノ滯滞ヲ來ササルコト必要ナリ

第三百五十八 隱密作業ノ實施ニ方リテハ頭部作業ノミナラス送土、材料ノ運搬等ニ於テモ周密ナル注意ヲ以テ音響ヲ發セシメサルコト必要ナリ然レトモ之カ爲甚シク作業ノ進捗ヲ滯滞セシメサルヲ要ス

第三百五十九 坑道ノ構造ニ任スル班長ハ通常班ヲ二組ニ區分シ散兵壕ノ構築ニ於ケル端末作業ノ要領ニ準シ互ニ交代シテ作業ヲ實施セシム

其他ノ作業ニ在リテモ亦要スレハ前項ニ準シ班ヲ區分シテ作業ヲ行フモノトス

爆破時期
第三百六十 坑道爆破及穿孔爆破ニ方リテハ作業ヲ敏活周到ナラシメ以テ爆破實施ノ時機ヲ逸セシメサルト共ニ所期ノ效果ヲ收ムルニ遺憾ナキヲ期セサルヘカラス

穿孔ノ精
第三百六十一 穿孔作業ノ精否ハ穿孔爆破ノ價值ヲ左右スルモノナリ故ニ穿孔作業ニ方リテハ所定ノ方向ヲ維持シ精確且迅速ニ穿孔スルヲ必要トス

坑道藥室
第三百六十二 坑道藥室ヲ設備スルニハ坑室ノ構築及裝藥ノ裝填、填塞ヲ迅

坑道爆破
演習

速確實ナラシムルヲ要ス

坑室ヲ構築スルニハ其位置ヲ正確ナラシムルト共ニ幅員ノ保持ニ注意シ不要ノ餘隙ヲ生セシメサルコト必要ナリ

裝填及填塞ヲ行フニハ裝藥及填塞材料ノ準備ヲ周到ナラシメ實施ニ當リ滯滞ナカラシムルヲ要ス

穿孔藥室ノ設備モ亦概テ前諸項ニ準ス

第三百六十三 坑道爆破殊ニ大裝藥ヲ使用スル爆破ノ教練ニ在リテハ裝藥ノ全部若ハ大部ハ模型ヲ使用セサルヘカラサルコト多シ此場合ニ於テモ其他ノ作業ハ之ヲ實際ノ如ク行ヒ又火具ハ勉メテ實物ヲ用フルヲ可トス

第三百六十四 班ハ定時間毎ニ交代シテ作業ニ任スルモノトス

班ノ交代ニ方リテハ班長ハ敵情、作業進捗ノ狀況、土質、器材ノ現況、爾後ノ企圖等ニ就キ所要ノ事項ヲ上番班長ニ申繼クモノトス

班ノ交代ニ方リテハ作業ノ實施ニ死節時ヲ生セシメサルコト特ニ緊要ナリ

第三章 中隊教練

要則

第三百六十五 中隊ハ中隊長ヲ核心トセル志氣結合ノ基礎ナリ中隊教練ノ目的ハ此趣旨ニ基キ鞏固ナル團結ヲ維持シ衆心一致能ク攻撃精神ヲ發揚シ如何ナル場合ニ於テモ中隊長ノ意圖ノ如ク諸種ノ作業ヲ遂行シ得シムルニ在リ中隊能ク訓練セラレトキハ未ダ練習セサル作業ト雖既ニ修得セル方法ヲ應用シテ適當ニ之ヲ實施シ得ルモノトス

中隊教練
ノ主眼
二九三

演練 第三百六十六 中隊教練ハ主トシテ班教練ニ於テ練成セシトコロヲ綜合シ各級幹部ノ指揮並班以上ノ協同動作ヲ演練スルモノトス

小隊教練 第三百六十七 中隊長ハ中隊教練ヲ準備スル爲若ハ作業ノ大小ニ從ヒ小隊ヲ以テ本章ノ規定ニ從ヒ教練ヲ實施スヘシ

教練ノ實 第三百六十八 中隊教練ノ實施ニ方リテハ特ニ各級幹部ヲシテ狀況ノ推移ニ應シ適時適切ナル處置ヲ爲スコトニ慣熟セシムル如ク留意スルヲ要ス蓋シ作業ノ實施ハ戰況其他各種ノ原因ニ因リ往々計畫ノ如ク進捗セス時トシテ作業半ハニシテ計畫ヲ變更シ又ハ人員、器材ノ缺損等ニ依リ臨機ノ處置ヲ必要トスルコト少カラサレハナリ

指揮命令 第三百六十九 中隊長ハ中隊ヲ指揮スル爲通常命令ヲ用フ

偵察 第三百七十 中隊長ハ作業ヲ行フニ方リ先ツ所要ノ偵察ヲ實施ス

偵察ノ爲 偵察ニハ中隊長自ラ之ニ當ルト共ニ必要ノ將校以下ヲ使用スヘシ而シテ此將校等ニハ偵察ノ目的及任務要スレハ特ニ著意スヘキ事項並報告ヲ受領スヘキ時刻及地點ヲ明確ニ指示スルヲ要ス

偵察ヲ行フニハ敵ニ我カ企圖ヲ察知セラレサルコトニ注意スヘシ

偵察ノ離 第三百七十一 中隊長偵察ノ爲中隊ヲ離ルルトキハ中隊ノ指揮ヲ通常小隊長ニ委ネ之ニ到達スヘキ地點要スレハ到達時刻、經路又ハ爾後ノ行動等ヲ示スモノトス

計畫 第三百七十二 中隊長ハ作業ノ實施ニ先タチ其計畫ヲ定ム之カ爲一般ノ狀況

命令下達 第三百七十三 中隊長ハ作業著手前爲シ得レハ中隊ヲ一地ニ集合シ作業ノ計畫ニ基キ命令ヲ下シテ中隊ヲ部署シ作業ノ著手ニ必要ナル準備ヲ整フ

集合地 第三百七十四 中隊長ハ作業ノ場所ニ近ク敵眼、敵火ニ掩蔽シテ作業著手ノ準備ヲ整フルニ便ナル地ニ選フヲ可トス

大小行李 第三百七十五 小行李ハ狀況ニ依リ集合地ト離隔シテ位置セシムルヲ要スルコトアリ此際ニ於テモ器材ノ卸下ハ成ルヘク集合地ニ於テ行ハシムルヲ便トス

部署 大行李器材ヲ使用スルニ方リ積載ノ儘之ヲ招致セル場合ニ於テハ其車輛ヲシテ小行李ト共ニ行動セシムルヲ可トス

第三百七十六 中隊長作業ノ爲中隊ヲ部署スルニハ小隊ニ其擔任スヘキ作業ヲ命シ器材ヲ配當ス而シテ小隊ニ擔任セシムヘキ作業ハ主トシテ指揮ノ便否ヲ顧慮シ地區若ハ作業ノ種類ニ從ヒテ定ムルヲ可トス

長時日同一ノ作業ヲ連續實施スル場合ニ於テハ狀況ニ應シ小隊ヲシテ交互ニ作業ニ任セシムルヲ有利トスルコトアリ

中隊長ハ特別ノ技術ヲ要スル作業ヲ實施スル爲所要ノ人員ヲ以テ特別班ヲ編

及中隊ノ任務ニ基キ作業ノ方針ヲ確立シ次テ使用シ得ヘキ人員、時間及器材ニ應シテ作業ノ程度、方法、著手ノ順序及中隊ノ部署並器材ノ配當等ヲ決定スルモノトス

器具分配
 器具區分
 徵集器材
 小隊ノ區分
 中隊配置

成シ又要素スレハ小隊ノ若干人員ヲ彼此轉屬シ或ハ豫備ヲ設クルコトアリ
 中隊長ハ狀況ニ依リ中隊ヲ若干區隊及特別班等ニ區分スルヲ便トスルコトアリ
 區隊ハ將校(要素スレハ特務曹長又ハ先任下士官)ヲ以テ其長ト爲ス
 本篇ニ於テ小隊ニ關シ示ストコロハ之ヲ區隊ニ適用ス
 第三百七十七 中隊ハ集合地ニ於テ携帶器具ヲ執リ大、小行李器材ヲ分配ス
 集合地以外ニ於テ大、小行李器材ヲ卸下セシ場合ニ於テハ其位置ニ於テ分配
 シ或ハ集合地ニ運搬シテ分配ス
 第三百七十八 大、小行李器材ヲ授受スルニハ豫メ之ヲ小隊等ノ配當數ニ應
 シテ區分シ置クヲ可トス時トシテ小隊及特別班毎ニ順次ニ分配スルコトアリ
 徵集器材ヲ分配スルニハ爲シ得レハ用途ニ應シ種類毎ニ適宜ノ場所ニ集積シ
 タル後大、小行李器材ニ準シテ之ヲ小隊等ニ交付スルモノトス
 第三百七十九 小隊長ハ通常小隊ヲ若干ノ班ニ區分シ之ニ任務ヲ授ケ器材ヲ
 配當スル等所要ノ準備ヲ行フ而シテ此等ノ諸準備ハ現地ニ於テ行フヲ便トス
 ルモノノ外通常中隊ノ集合地ニ於テ之ヲ完了スルモノトス
 小隊長ハ小隊ヲ班ニ區分スル必要ナキトキハ分隊毎ニ任務ヲ授ケ
 本篇ニ於テ班ニ關シ示ストコロハ之ヲ分隊ニ適用ス
 第三百八十 中隊長ハ所要ノ準備ヲ終レハ中隊ヲシテ作業ノ配置ニ就カシム
 此際特務曹長、曹長、分課下士官及喇叭手ハ中隊長ニ隨フ

小隊配置
 作業開始
 行軍中ヨリ部署
 中隊長作
 業指揮
 休憩
 小隊長ノ
 指揮
 班教練
 三五乃至三
 五
 作業ノ秘

第三百八十一 小隊長ハ小隊ヲ作業ノ場所ニ誘導シ必要ノ事項ヲ指示シ小隊
 ヲシテ作業ノ配置ニ就カシム
 第三百八十二 作業ハ中隊同時ニ或ハ小隊若ハ班毎ニ開始ス
 作業開始ヲ小隊(班)長ニ委ヌルトキハ中隊長ハ豫メ其旨ヲ明示スヘシ
 第三百八十三 中隊長ハ狀況ニ依リ中隊ヲ一地ニ集合セシムルコトナク行軍
 中等便宜ノ位置ニ於テ小隊ニ任務ヲ授ケ器材ヲ配當シテ作業ヲ實施セシムル
 コトアリ此際ニハ大、小行李器材ハ通常積載ノ儘之ヲ小隊ニ分屬スルモノト
 ス
 第三百八十四 作業間中隊長ハ作業ヲ指揮スルニ便ナル地ニ位置スヘシ
 中隊長ハ適時作業進捗ノ景況及所要ノ狀況ヲ上級指揮官ニ報告スルト共ニ關
 係部隊ニ通報シ又必要ノ狀況ヲ部下ニ知ラシムルヲ要ス
 小隊長モ亦以上ノ要旨ニ從フヘシ
 第三百八十五 長時間ニ亙リ作業ヲ續行スルトキハ中隊長ハ適時作業ヲ中止
 シ中隊若ハ小隊毎ニ集メテ休憩ヲ與ヘ志氣及體力ノ恢復ヲ圖ルヲ要ス
 第三百八十六 小隊長ハ部下各班ノ作業ヲ統轄シ班相互ノ協同連繫ヲ圓滑ナ
 ラシメ班ヲシテ其全能力ヲ發揮セシムルコト必要ナリ
 小隊長ハ小隊ヲ指揮スル爲本章ヲ適用スルノ外必要ニ應シ本篇第二章ヲ準用
 スルモノトス
 第三百八十七 作業ヲ實施スルニハ常ニ敵ニ對シ我カ企圖ヲ秘匿スルコト肝
 要ナリ然レトモ狀況ヲ顧慮スルコトナク徒ラニ企圖ノ秘匿ニ焦慮シテ作業ノ

敵前作業

目的ヲ誤リ又ハ完成ノ時機ヲ遅延セシムルカ如キコトナキヲ要ス
第三百八十八 敵前ニ於テ作業ヲ實施スルニ方リ他部隊ノ一般配置ニ依リ掩護セラルル場合ニ於テハ中隊長ハ危險ナル方面ニ在ル部隊ト密接ナル連絡ヲ保チ其任務、行動等ヲ詳細シ且自己ノ企圖、行動ニ關シ所要ノ事項ヲ通報スルモノトス掩護ノ爲特別ノ部隊ヲ設ケラルル場合ニ於テモ亦之ニ準ス
自衛ノ處置ヲ必要トスル場合ニ於テハ中隊長ハ斥候又ハ監視兵ヲ出シ或ハ所要ノ部隊ヲ以テ警戒ス此部隊ハ特ニ前方其他比隣ノ部隊ト連絡ヲ保持スルコト緊要ナリ

第一節 築城

築城ニ於ケル工兵ノ任務

第三百八十九 築城ニ在リテハ工兵ハ攻撃、防禦ニ於ケル陣地要部ノ設備ニ任シ又天然人爲ノ障礙ヲ排除シテ歩、砲兵、戰車ノ進路ヲ開拓スル等必要ナル作業ニ任スルモノトス就中突擊作業及掃蕩作業ハ工兵ノ爲不ヘキ重要ナル作業ニシテ其成否ハ戰鬪ノ成果ニ影響スルコト極メテ大ナリ故ニ特ニ之ヲ力練成ニ努メサルヘカラス

第一款 陣地ノ設備

防禦ニ於ケル任務

第三百九十 防禦ニ在リテハ中隊長ハ通常陣地ノ諸設備中特技ヲ要スル作業並材料ノ整備等ニ任スルモノトス
中隊長ハ時トシテ他兵種ノ自ラ實施スヘキ作業ヲ援助シ或ハ獨立シテ之ヲ擔任スルコトアリ

他兵種援助計畫

第三百九十一 他兵種ノ作業ヲ援助スルニハ幹部ハ必要ニ應シ作業ノ計畫及實施ニ關シ之ヲ幫助ニ任スルモノトス
第三百九十二 陣地ノ設備ヲ行フ爲作業ノ計畫ヲ定ムルニハ全般ノ戰鬪計畫殊ニ戰鬪指導ノ要領及陣地ノ編成、設備ヲ知悉シ且關係部隊ノ指揮官ト連絡シテ其意圖ヲ詳細シ以テ自己ノ擔任スル作業ヲシテ此等ノ要求ニ適合セシムルコト緊要ナリ

部署

第三百九十三 中隊長ハ計畫ニ基キ作業ノ種類又ハ地區ニ依リ之ニ所要ノ小隊ヲ部署シ其他必要ニ應シ材料ノ收集、加工等ノ爲特別班ヲ設ケ
第三百九十四 陣地ノ設備ニ方リテハ通常兵力ヲ集結シテ逐次作業ヲ完成スル如ク實施スルヲ有利トス然レトモ狀況ニ依リ各部隊ヲシテ廣地域ニ互リ各異ノ作業ヲ行ハシムヘキ場合ニ於テハ中隊長ハ特ニ各部ノ連絡ニ留意シ且作業ノ統制ニ勉ムルヲ要ス又幹部ハ適時上級指揮官ノ命令ヲ受クルコト能ハサル場合ニ於テモ能ク狀況ニ鑑ミ作業ヲシテ機宜ニ適セシムルコト緊要ナリ

偽裝

第三百九十五 陣地ノ設備ニ方リテハ特ニ偽裝ニ力ヲ用ヒ以テ陣地ノ編成、軍隊ノ配備行動ヲ秘匿スルコト緊要ナリ
偽裝ハ陣地ノ設備ニ任スル部隊ヲシテ實施セシムルヲ通常トス然レトモ狀況ニ依リ特別ノ區隊若ハ班ヲ以テ之ヲ實施スルコトアリ

瓦斯防護戰車障礙

第三百九十六 戰車ニ對スル障礙ヲ設備スルニハ一般ノ狀況特ニ前地ノ地

陣地前方ノ障礙

突撃作業ニ對スル

工兵

攻勢移轉

近迫作業

形、我カ對戰車火器ノ火力配置及敵火ノ状態ヲ顧慮シテ障礙物ノ設置位置及正面ノ決定並種類ノ選定ヲ適切ナラシムルコト緊要ナリ又障礙ヲ突破シテ前進シ來ル敵戰車ニ對シテハ爆藥ヲ以テ之ヲ破壊スル爲所要ノ準備ヲ整ヘ置クコト必要ナリ

敵戰車ノ攻撃地域ヲ豫想シ得サルカ或ハ豫メ障礙物ヲ設備スル餘裕ナキ場合ニ於テハ至短時間ニ隨所ニ地雷地域ヲ構成シ得ル如ク準備スルヲ可トス

第三百九十七 陣地前方ノ障礙ヲ設備スルニ方リテハ時トシテ敵ノ蟄集スヘキ地區、豫想スル敵ノ觀測所、戰車ノ出發位置等ニ豫メ地雷其他自發裝置ヲ有スル爆藥等ヲ裝置スルヲ有利トスルコトアリ

第三百九十八 防禦戰間敵ノ突撃作業ニ對シ工兵ハ豫メ移動障礙物又ハ補修材料ヲ準備シ敵兵障礙物ヲ破壊スルヲ先ツ其突入ニ備ヘ速ニ障礙物ヲ補修若ハ新設シ又敵戰車ノ近接ニ方リテハ計畫ニ基キ適時地雷域ヲ構成シ要スレハ進シテ之ヲ爆撃シ以テ其突進ヲ阻止スルモノトス此際其行動ハ對戰車火器ノ射撃ト密接ニ協調セシムルコト必要ナリ

第三章九十九 攻撃移轉ニ方リテハ工兵ハ第一線前ニ挺身シ機ヲ失セズ障礙物ニ通路ヲ開設シテ歩兵ノ出撃ヲ便ニシ又砲兵及戰車ノ爲其進出ヲ容易ナラシムルモノトス之カ爲中隊長ハ絶エズ戰況ノ推移ヲ觀察シ且協力スヘキ部隊ト密ニ連絡シアルコト必要ナリ

第四百 近迫作業ニ依リ逐次攻撃陣地ヲ推進シテ敵陣地ヲ攻撃スル場合ニ於テハ工兵ハ歩兵ト協同シテ通常陣地ノ推進、編成及設備等ニ於ケル困難ナル

偵察計畫

近迫作業ノ實施

好機ノ發見

工兵ノ任務

歩工協同

實戰的

作業又ハ特技ヲ要スル作業ヲ實施スルモノトス

第四百一 近迫作業ヲ行フ爲中隊長ハ敵情、地形ヲ綿密ニ偵察シ利用シ得ヘキ地形、地物及敵火ノ状態ヲ明ニシ關係部隊ノ指揮官ト所要ノ協定ヲ行ヒ作業ノ計畫ヲ定ム

近迫作業ノ計畫ヲ策定スルニハ特ニ狀況ノ變化ニ應シ得ル如ク著意スルヲ要ス

第四百二 近迫作業ヲ行フニハ中隊長ハ作業ノ種類及擔任地區ノ状態ニ應シテ更ニ小隊ニ地區ヲ配當シ或ハ小隊ヲ彼此交代シテ陣地ノ推進又ハ設備ニ任セシメ所要ニ應シ材料整備等ニ任スル部隊ヲ部署ス

作業ハ狀況ニ依リ晝夜連續實施シ或ハ夜間ニ於テノミ實施ス

第四百三 近迫作業ニ依ル攻撃ハ時日ヲ要スルノ不利アルノミナラス動モスレハ陣地ニ膠著シテ前進ノ氣勢ヲ殺クノ虞アリ故ニ苟モ機會ヲ發見セハ中隊長以下縱ヒ尺寸ト雖絶エズ敵ニ近接スルコトヲ勉メ以テ攻撃ノ進捗ヲ圖ルコト緊要ナリ

第二款 突撃作業及掃蕩作業

第四百四 突撃作業及掃蕩作業ニ於テハ工兵ハ主トシテ突撃路ノ開設、側防機能ノ破壊又ハ制壓及堅固ナル構築物ニ據レル敵ノ掃蕩等ニ任スルモノトス

第四百五 突撃作業及掃蕩作業ハ通常歩兵ト協同シテ行フモノトス故ニ此教練ハ屢、歩兵部隊ト連合シテ實施シ協同動作ノ演練ニ勉ムルヲ要ス

突撃作業及掃蕩作業ノ教練ニ方リテハ其設備ヲ適當ニシ狀況ノ現示ヲ實戰的

偵察 第四百六 突擊作業ヲ行フニハ中隊長ハ敵陣地ノ狀態特ニ障礙物及側防機能ノ狀態ヲ明ニスル爲所要ノ偵察ヲ行フヘシ此偵察ハ爾後實施スヘキ突擊作業ノ基礎ナルヲ以テ諸種ノ手段ヲ盡シテ勉メテ之カ確實ヲ期セサルヘカラス

計畫 第四百七 中隊長突擊作業ノ計畫ヲ定ムルニハ關係步兵部隊ノ指揮官ト連絡シテ其企圖及戰鬪指導ノ要領特ニ突擊ノ部署ヲ詳知シ開設スヘキ突擊路及破壞又ハ制壓スヘキ側防機能ノ數、場所並之カ實施ノ時期、方法及作業ノ掩護等ニ關シ綿密ナル協定ヲ遂クルコト必要ナリ

部署 第四百八 突擊作業ノ爲中隊長ヲ部署スルニハ開設スヘキ突擊路若ハ破壞又ハ制壓スヘキ側防機能ノ數ニ應シ之ニ小隊長ヲ配當シ且所要ニ應シ豫備ヲ控置スルモノトス

小隊長ト 第四百九 突擊作業ニ任スル小隊長ハ速ニ關係步兵部隊ノ指揮官ト連絡シ突擊路ノ開設若ハ側防機能ノ破壞又ハ制壓スヘキ地點及時期、掩護射擊、煙ノ利用等ノ細部ニ關シ綿密ナル協定ヲ遂ケテ遂ケテ步兵部隊ノ指揮官ノ企圖及自己ノ任務ニ基キ且作業ノ種類及其難易ヲ顧慮シ突擊路又ハ目標ノ數ニ應シ小隊長ヲ部署ス此際必要ノ豫備ヲ控置シ各班ニハ常ニ豫備ノ人員、器材ヲ配當スルコト必要ナリ

小隊ノ作 第四百十 小隊長ハ小隊ノ企圖、突擊路ノ開設若ハ側防機能ノ破壞又ハ制壓スヘキ地點、作業ノ方法、著手ノ時機及破壞後ノ行動並連絡法等ヲ明示シ作業ヲ實施セシムルモノトス

突擊作業 第四百十一 突擊作業及突擊ノ實施ニ方リ煙ヲ利用シ得レハ有利ナリ之カ爲工兵ハ單ニ歩、砲兵ノ煙幕射擊ニノミ依賴スルコトナク自ラ所要ノ煙幕ヲ構成シ突擊作業及突擊ノ實施ヲ容易ナラシムルコトニ勉ムヘシ

突擊路ノ開設ニ方リテハ障礙物ノ破壞ト共ニ毒物ノ消毒等ヲ必要トスルコト少カラス

突擊作業ヲ強行スル爲防楯等敵彈下ニ作業ヲ強行シ得ル器材ヲ準備シ得レハ有利ナリ又狀況ニ依リ破壞筒若ハ爆藥ヲ火藥等ニ依リ投擲シテ障礙物ヲ破壞シ或ハ側防機能ノ破壞又ハ制壓ヲ行フヲ有利トスルコトアリ

第四百十二 突擊中途ニ於テ頓挫セル場合ニ於テハ工兵ハ勇奮至近ノ所ニ蹈ミ止リ速ニ其原因ヲ探究シテ或ハ側防機能ヲ破壞又ハ制壓シ或ハ障礙物ニ通過設備ヲ行フ等步兵ノ突擊復行ヲ容易ナラシムヘシ

陣內攻略 第四百十三 陣地內部ノ攻略ニ方リテハ工兵ハ通常步兵第一線中隊ト共ニ前進シ步兵ト緊密ナル協力ノ下ニ逐次突擊作業ヲ反復シ特ニ堅固ナル構築物、村落等ニ據レル殘敵ヲ掃蕩シ或ハ機ヲ失ヘス敵ノ設備セル地雷等ヲ除去シ又ハ敵戰車ノ爆擊ヲ實施シ以テ步兵ノ前進及戰果ノ擴張ヲ容易ナラシムルモノトス

掃蕩作業 第四百十四 第一線步兵大隊ニ配屬セラレ掃蕩作業ニ任スル小隊長ハ步兵大隊長ノ企圖ニ基キ作業實施ノ細部ニ就キ豫メ第一線中隊長ト緊密ナル協定ヲ行ヒ突擊實施前ニ於テ諸準備ヲ完了スルコト必要ナリ

掃蕩作業 第四百十五 掃蕩作業ヲ行フニハ小隊長ハ掃蕩スヘキ目標ノ種類及其數ニ應

ノ實施

工兵ノ重
要作業

渡河作業
ト河川

敵前漕渡

班連繫

歩工連合

計畫ノ基

シ突撃作業ニ準シテ部署ヲ定ムヘシト雖豫期セサル目標ノ現出ヲ願慮シ豫メ
之ニ應スル準備ヲ整ヘ置クコト必要ナリ

第二節 渡河

要旨

第四百十六 渡河作業ハ工兵ノ擔任スル重要ナル作業ニシテ其適否ハ戰鬪ノ
勝敗ニ關スルコト大ナリ就中敵前渡河ニ於テ然リトス故ニ工兵ハ特ニ此作業
ニ習熟シ至難ノ狀況ニ在リテモ能ク之ヲ遂行シ得サルヘカラス
第四百十七 河川ノ狀況ハ渡河作業ニ影響スルコト大ナリ故ニ教練ハ大河、
急流等ニ於テ勉メテ之ヲ行ヒ指揮官以下ヲシテ如何ナル場合ニ於テモ遲疑ス
ルコトナク作業ヲ遂行シ得ルニ至ラシムルヲ要ス
第四百十八 敵前ノ漕渡ニ於テハ携行材料ニ依リ渡河スルヲ通常トスト雖各
種ノ應用材料ヲ使用スル場合亦少カラズ大河ノ渡河ニ於テ特ニ然リ又河幅、
流速共ニ大ナラサル河川ニ在リテハ輕渡河材料ヲ使用スルコト屢々ナルヲ以
テ此等ニ關シ訓練スルコトモ亦忽セニスヘカラス
第四百十九 渡河作業ニ於テハ特ニ各班相互ノ密接ナル連繫ヲ必要トス故ニ
此教練ハ小隊以上ノ部隊ヲ以テ屢々實施スルヲ要ス
敵前渡河ニ於テハ渡河部隊就中歩兵ト緊密ナル共同連繫ヲ必要トス故ニ歩兵
部隊ト連合シ協同動作ノ演練ニ勉ムルコト必要ナリ

第四百二十 漕渡ニ方リテハ中隊長ハ渡河部隊ノ指揮官ト連絡シ其企圖就中

礎

渡河點決

計畫

渡場ノ數

配當材料

戰鬪指導ノ要領ヲ詳知シ之ニ基キ先ツ渡河點ノ細部ヲ決定シタル後漕渡ノ計
畫ヲ策定ス

第四百二十一 渡河點ノ細部ヲ決定スルニハ努メテ作業ノ容易ナルコトヲ主
眼トシ敵情、河川ノ景況、兩岸ノ地形、渡河部隊ノ兵力、渡河材料ノ多寡等
ヲ願慮スルコト必要ナリ

第四百二十二 中隊長漕渡ノ計畫ヲ定ムルニハ渡河セシムヘキ兵力、兵種及
渡河ニ使用シ得ヘキ時間、材料竝地形ノ關係ヲ願慮シ中隊ノ部署及援助部隊
ノ用法竝渡河材料ノ配當ヲ決定シテ架橋材料中隊ノ行動、材料授受ノ方法、
渡河材料ノ展開位置及之カ卸後ニ於ケル運搬法竝材料置場、舟ノ泛水、交
通、連絡及作業ヲ敵ニ秘匿スル爲ノ手段等ニ就キ必要ナル事項ヲ計畫シ要ス

レハ應用材料ノ收集ニ關シ計畫スルモノトス又渡河部隊ノ動作及集合地ニ關
シ計畫シ關係渡河部隊ノ指揮官ト所要ノ協定ヲ爲ス

第四百二十三 一渡河點ニ於ケル渡場ノ數ハ渡河部隊ノ部署、配當セラレタ
ル渡河材料ノ種類、員數及地形其他河幅、流速等ヲ願慮シテ之ヲ定ム

渡場ハ渡河部隊ノ乗船、上陸及爾後ノ行動ニ便利ニシテ且勉メテ作業ノ準備
及實施容易ナル如ク其位置ヲ選定スルモノトス而シテ渡場ニハ渡河部隊就中
馬匹、車輛ノ爲成ルヘク速ニ所要ノ設備ヲ行ヒ以テ乗船、上陸ヲ容易ナラシ
ムルコト必要ナリ

渡場ノ間隔ハ互ニ比隣渡場ノ作業ヲ妨害セサル如ク之ヲ定ムルモノトス

第四百二十四 各渡場ニ配當スヘキ渡河材料ノ員數ハ主トシテ初期ニ於ケル

材料授受	材料推進	展開位置	材料置場
渡河兵力ニ依リ決定スルモノトス尙循環漕行ニ移リタル後ニ於ケル便宜ヲモ 顧慮スルコト必要ナリ 第四百二十五 渡河材料ハ通常架橋材料中隊ノ開進地ニ於テ接受ヲ終リ更ニ 之ヲ渡河材料ノ展開位置ニ推進卸下シ爾後臂力ニ依リ材料置場ニ運搬スルモ ノトス	第四百二十六 渡河材料ヲ開進地ヨリ推進スヘキ時機ハ敵ニ我カ企圖ヲ暴露 セサル爲諸準備作業ノ完了ヲ妨ケサル限リ勉メテ遅キヲ可トス 第四百二十七 渡河材料ノ推進ニ方リテハ中隊長ハ爾後ノ積載區分ヲ變更スルコ トヲ顧慮シテ其行進順序ヲ定メ又時トシテ一道ノ材料ノ積載區分ヲ變更スルコ トアリ之カ爲要スレハ所要ノ人員ヲ派遣シテ其實施ニ任セシムルト共ニ車輛 ノ偽裝、音響防止ノ處置等必要ナル作業ニ關シ架橋材料中隊ニ所要ノ援助ヲ 與フルモノトス	第四百二十八 渡河材料ノ展開位置ハ架橋材料中隊ノ行進、材料卸下等ヨリ 生スル音響ヲ敵ニ秘匿シ得ルヲ度トシ勉メテ渡河點ニ近ク且架橋材料中隊ノ 進入、進出及材料ノ卸下並爾後ノ運搬ニ便ナル如ク之ヲ選定スルモノトス之 カ爲要スレハ中途ニ於テ架橋材料中隊ヲシテ脱駕セシムルコトアリ 第四百二十九 材料置場ハ成ルヘク河岸ニ近ク且爾後ニ於ケル材料ノ使用殊 ニ舟ノ搬出、泛水ノ爲支流等ヲ利用シ得ルハ作業容易ナリト雖本流ヘノ出口ハ 敵火ノ爲扼止セラレ易ク又一齊發航ヲ困難ナラシムルノ不利アルコトニ顧慮	スルヲ要ス 第四百三十 中隊長ハ各小隊ノ擔任ヲ定メテ援助部隊及渡河材料ヲ配當シ材 料ヲ材料置場ニ運搬整備セシメテ舟ノ搬出、泛水、發航等各小隊ノ行動統 制上必要ナル事項ヲ示シテ漕渡ノ實施ニ任セシムルヲ通常トス狀況ニ依リ中 隊長ハ先ツ使用シ得ヘキ全兵力ヲ以テ渡河材料ヲ材料置場ニ運搬整備シタル 後各小隊ノ擔任ヲ定メ漕渡ノ實施ヲ命スルコトアリ 第四百三十一 敵前渡河ニ在リテハ敵火ノ損害ヲ顧慮シ時トシテ所要ノ豫備 ヲ控置スルコトアリト雖最初ヨリ不十分ナル人員、器材ヲ使用スルコトハ常 ニ之ヲ避ケサルヘカラス又機ヲ失セズ材料修理ノ準備ヲ整フルコト緊要ナリ 第四百三十二 渡河部隊ノ集合地ハ通常各渡河點又ハ渡場毎ニ之ヲ設クルモ ノトス 集合地及之ニ至ル通路ハ明瞭ニ標示スルヲ要ス集合地ヨリ乗船場ニ至ル通路 モ亦然リ 第四百三十三 中隊長ハ渡河部隊ノ指揮官ニ對シ漕渡ノ計畫ノ大要特ニ各渡 場ノ位置、渡場ニ應スル人馬、器材ノ區分、集合地、乗船場、上陸ノ方法及渡 河ニ關スル注意並連絡法等ニ關シ必要ノ事項ヲ通告シ確實ニ之ヲ實行セシム ヘシ 第四百三十四 渡河作業ノ諸準備ハ爲シ得レハ渡河實施ノ前夜マテニ之ヲ完 了スルヲ可トス然レトモ河幅大ナラス且狀況急ヲ要スル場合ニ於テハ薄暮ヲ 利用シテ諸準備ヲ行ヒ當夜直ニ渡河ヲ決行セサルヘカラスルコトアリ

各小隊ノ擔任	人員器材ノ使用	渡河部隊ノ集合	渡河部隊トノ連絡	渡河諸準備
スルヲ要ス 第四百三十 中隊長ハ各小隊ノ擔任ヲ定メテ援助部隊及渡河材料ヲ配當シ材 料ヲ材料置場ニ運搬整備セシメテ舟ノ搬出、泛水、發航等各小隊ノ行動統 制上必要ナル事項ヲ示シテ漕渡ノ實施ニ任セシムルヲ通常トス狀況ニ依リ中 隊長ハ先ツ使用シ得ヘキ全兵力ヲ以テ渡河材料ヲ材料置場ニ運搬整備シタル 後各小隊ノ擔任ヲ定メ漕渡ノ實施ヲ命スルコトアリ 第四百三十一 敵前渡河ニ在リテハ敵火ノ損害ヲ顧慮シ時トシテ所要ノ豫備 ヲ控置スルコトアリト雖最初ヨリ不十分ナル人員、器材ヲ使用スルコトハ常 ニ之ヲ避ケサルヘカラス又機ヲ失セズ材料修理ノ準備ヲ整フルコト緊要ナリ 第四百三十二 渡河部隊ノ集合地ハ通常各渡河點又ハ渡場毎ニ之ヲ設クルモ ノトス 集合地及之ニ至ル通路ハ明瞭ニ標示スルヲ要ス集合地ヨリ乗船場ニ至ル通路 モ亦然リ 第四百三十三 中隊長ハ渡河部隊ノ指揮官ニ對シ漕渡ノ計畫ノ大要特ニ各渡 場ノ位置、渡場ニ應スル人馬、器材ノ區分、集合地、乗船場、上陸ノ方法及渡 河ニ關スル注意並連絡法等ニ關シ必要ノ事項ヲ通告シ確實ニ之ヲ實行セシム ヘシ 第四百三十四 渡河作業ノ諸準備ハ爲シ得レハ渡河實施ノ前夜マテニ之ヲ完 了スルヲ可トス然レトモ河幅大ナラス且狀況急ヲ要スル場合ニ於テハ薄暮ヲ 利用シテ諸準備ヲ行ヒ當夜直ニ渡河ヲ決行セサルヘカラスルコトアリ	スルヲ要ス 第四百三十 中隊長ハ各小隊ノ擔任ヲ定メテ援助部隊及渡河材料ヲ配當シ材 料ヲ材料置場ニ運搬整備セシメテ舟ノ搬出、泛水、發航等各小隊ノ行動統 制上必要ナル事項ヲ示シテ漕渡ノ實施ニ任セシムルヲ通常トス狀況ニ依リ中 隊長ハ先ツ使用シ得ヘキ全兵力ヲ以テ渡河材料ヲ材料置場ニ運搬整備シタル 後各小隊ノ擔任ヲ定メ漕渡ノ實施ヲ命スルコトアリ 第四百三十一 敵前渡河ニ在リテハ敵火ノ損害ヲ顧慮シ時トシテ所要ノ豫備 ヲ控置スルコトアリト雖最初ヨリ不十分ナル人員、器材ヲ使用スルコトハ常 ニ之ヲ避ケサルヘカラス又機ヲ失セズ材料修理ノ準備ヲ整フルコト緊要ナリ 第四百三十二 渡河部隊ノ集合地ハ通常各渡河點又ハ渡場毎ニ之ヲ設クルモ ノトス 集合地及之ニ至ル通路ハ明瞭ニ標示スルヲ要ス集合地ヨリ乗船場ニ至ル通路 モ亦然リ 第四百三十三 中隊長ハ渡河部隊ノ指揮官ニ對シ漕渡ノ計畫ノ大要特ニ各渡 場ノ位置、渡場ニ應スル人馬、器材ノ區分、集合地、乗船場、上陸ノ方法及渡 河ニ關スル注意並連絡法等ニ關シ必要ノ事項ヲ通告シ確實ニ之ヲ實行セシム ヘシ 第四百三十四 渡河作業ノ諸準備ハ爲シ得レハ渡河實施ノ前夜マテニ之ヲ完 了スルヲ可トス然レトモ河幅大ナラス且狀況急ヲ要スル場合ニ於テハ薄暮ヲ 利用シテ諸準備ヲ行ヒ當夜直ニ渡河ヲ決行セサルヘカラスルコトアリ	スルヲ要ス 第四百三十 中隊長ハ各小隊ノ擔任ヲ定メテ援助部隊及渡河材料ヲ配當シ材 料ヲ材料置場ニ運搬整備セシメテ舟ノ搬出、泛水、發航等各小隊ノ行動統 制上必要ナル事項ヲ示シテ漕渡ノ實施ニ任セシムルヲ通常トス狀況ニ依リ中 隊長ハ先ツ使用シ得ヘキ全兵力ヲ以テ渡河材料ヲ材料置場ニ運搬整備シタル 後各小隊ノ擔任ヲ定メ漕渡ノ實施ヲ命スルコトアリ 第四百三十一 敵前渡河ニ在リテハ敵火ノ損害ヲ顧慮シ時トシテ所要ノ豫備 ヲ控置スルコトアリト雖最初ヨリ不十分ナル人員、器材ヲ使用スルコトハ常 ニ之ヲ避ケサルヘカラス又機ヲ失セズ材料修理ノ準備ヲ整フルコト緊要ナリ 第四百三十二 渡河部隊ノ集合地ハ通常各渡河點又ハ渡場毎ニ之ヲ設クルモ ノトス 集合地及之ニ至ル通路ハ明瞭ニ標示スルヲ要ス集合地ヨリ乗船場ニ至ル通路 モ亦然リ 第四百三十三 中隊長ハ渡河部隊ノ指揮官ニ對シ漕渡ノ計畫ノ大要特ニ各渡 場ノ位置、渡場ニ應スル人馬、器材ノ區分、集合地、乗船場、上陸ノ方法及渡 河ニ關スル注意並連絡法等ニ關シ必要ノ事項ヲ通告シ確實ニ之ヲ實行セシム ヘシ 第四百三十四 渡河作業ノ諸準備ハ爲シ得レハ渡河實施ノ前夜マテニ之ヲ完 了スルヲ可トス然レトモ河幅大ナラス且狀況急ヲ要スル場合ニ於テハ薄暮ヲ 利用シテ諸準備ヲ行ヒ當夜直ニ渡河ヲ決行セサルヘカラスルコトアリ	スルヲ要ス 第四百三十 中隊長ハ各小隊ノ擔任ヲ定メテ援助部隊及渡河材料ヲ配當シ材 料ヲ材料置場ニ運搬整備セシメテ舟ノ搬出、泛水、發航等各小隊ノ行動統 制上必要ナル事項ヲ示シテ漕渡ノ實施ニ任セシムルヲ通常トス狀況ニ依リ中 隊長ハ先ツ使用シ得ヘキ全兵力ヲ以テ渡河材料ヲ材料置場ニ運搬整備シタル 後各小隊ノ擔任ヲ定メ漕渡ノ實施ヲ命スルコトアリ 第四百三十一 敵前渡河ニ在リテハ敵火ノ損害ヲ顧慮シ時トシテ所要ノ豫備 ヲ控置スルコトアリト雖最初ヨリ不十分ナル人員、器材ヲ使用スルコトハ常 ニ之ヲ避ケサルヘカラス又機ヲ失セズ材料修理ノ準備ヲ整フルコト緊要ナリ 第四百三十二 渡河部隊ノ集合地ハ通常各渡河點又ハ渡場毎ニ之ヲ設クルモ ノトス 集合地及之ニ至ル通路ハ明瞭ニ標示スルヲ要ス集合地ヨリ乗船場ニ至ル通路 モ亦然リ 第四百三十三 中隊長ハ渡河部隊ノ指揮官ニ對シ漕渡ノ計畫ノ大要特ニ各渡 場ノ位置、渡場ニ應スル人馬、器材ノ區分、集合地、乗船場、上陸ノ方法及渡 河ニ關スル注意並連絡法等ニ關シ必要ノ事項ヲ通告シ確實ニ之ヲ實行セシム ヘシ 第四百三十四 渡河作業ノ諸準備ハ爲シ得レハ渡河實施ノ前夜マテニ之ヲ完 了スルヲ可トス然レトモ河幅大ナラス且狀況急ヲ要スル場合ニ於テハ薄暮ヲ 利用シテ諸準備ヲ行ヒ當夜直ニ渡河ヲ決行セサルヘカラスルコトアリ	スルヲ要ス 第四百三十 中隊長ハ各小隊ノ擔任ヲ定メテ援助部隊及渡河材料ヲ配當シ材 料ヲ材料置場ニ運搬整備セシメテ舟ノ搬出、泛水、發航等各小隊ノ行動統 制上必要ナル事項ヲ示シテ漕渡ノ實施ニ任セシムルヲ通常トス狀況ニ依リ中 隊長ハ先ツ使用シ得ヘキ全兵力ヲ以テ渡河材料ヲ材料置場ニ運搬整備シタル 後各小隊ノ擔任ヲ定メ漕渡ノ實施ヲ命スルコトアリ 第四百三十一 敵前渡河ニ在リテハ敵火ノ損害ヲ顧慮シ時トシテ所要ノ豫備 ヲ控置スルコトアリト雖最初ヨリ不十分ナル人員、器材ヲ使用スルコトハ常 ニ之ヲ避ケサルヘカラス又機ヲ失セズ材料修理ノ準備ヲ整フルコト緊要ナリ 第四百三十二 渡河部隊ノ集合地ハ通常各渡河點又ハ渡場毎ニ之ヲ設クルモ ノトス 集合地及之ニ至ル通路ハ明瞭ニ標示スルヲ要ス集合地ヨリ乗船場ニ至ル通路 モ亦然リ 第四百三十三 中隊長ハ渡河部隊ノ指揮官ニ對シ漕渡ノ計畫ノ大要特ニ各渡 場ノ位置、渡場ニ應スル人馬、器材ノ區分、集合地、乗船場、上陸ノ方法及渡 河ニ關スル注意並連絡法等ニ關シ必要ノ事項ヲ通告シ確實ニ之ヲ實行セシム ヘシ 第四百三十四 渡河作業ノ諸準備ハ爲シ得レハ渡河實施ノ前夜マテニ之ヲ完 了スルヲ可トス然レトモ河幅大ナラス且狀況急ヲ要スル場合ニ於テハ薄暮ヲ 利用シテ諸準備ヲ行ヒ當夜直ニ渡河ヲ決行セサルヘカラスルコトアリ

運行法 第四百三十五 最初ノ渡河ニ在リテハ通常使用シ得ヘキ全部ノ舟ヲ以テ渡河部隊ヲ同時ニ敵岸ニ上陸セシムル如ク一齊ニ發航シ爾後混雜ト滯留トヲ來ササル如ク逐次循環漕行ニ移リ渡河ヲ續行スルモノトス

最初ノ發航 第四百三十六 最初ノ發航ハ通常所定ノ時刻ニ於テ爲スヘシト雖中隊長ハ狀況ニ依リ渡河部隊ノ指揮官ト協定シ機ニ先タチ之ヲ決行スルヲ要スルコトアリ之カ爲渡河開始ノ時期ニ於テハ中隊長ハ渡河部隊ノ指揮官ト特ニ緊密ナル連絡ヲ保持スルコト緊要ナリ

大河ノ渡河 第四百三十七 大河ノ一齊漕渡ニ在リテハ通常數舟毎ニ一舟隊ヲ編成シ爾後ニ於テモ適宜集團シテ漕行セシムルヲ可トス又狀況ニ依リ最初ヨリ梯團トシテ發航セシムルコトアリ

舟隊長 第四百三十八 舟隊長ハ敵火ノ狀態、河川ノ景況及明暗ノ度ヲ顧慮シテ舟隊ノ隊形及各舟ノ距離間隔ヲ定メ適時基準舟ニ目標若ハ方向ヲ指示シ確實ニ舟隊ヲ掌握シテ漕行セシム

機航 第四百三十九 敵前渡河就中大河ノ渡河ニ方リテハ爲シ得ル限り機舟等ヲ利用シ渡河行程ノ増大ヲ圖ルヲ要ス

瓦斯 第四百四十 敵前渡河ニ方リテハ敵ノ瓦斯攻撃ヲ顧慮シ瓦斯防護並消毒ノ準備ヲ怠ラサルコト必要ナリ

煙 敵前渡河ニ方リテハ夜間ニ於テモ敵ノ照明ニ對シ煙ノ使用ヲ必要トスルコト屢ナリ之カ爲中隊長ハ全般ノ計畫ニ基キ特ニ砲兵其他ノ部隊ト所要ノ協定ヲ行ヒ之カ使用ノ時期及位置ノ選定ヲ適切ナラシムルコト必要ナリ

連絡施設 第四百四十一 渡河作業殊ニ其實施間作業指揮ヲ適切ナラシメ且渡河部隊トノ連絡ヲ密ナラシムル爲連絡ノ施設ヲ完備スルコト緊要ナリ

諸動作ノ練習 第四百四十二 渡河ノ實施ニ先チ渡河部隊ト協定シ渡河ノ諸動作就中敵前ニ於ケル舟ノ運搬、泛水並乗船ノ動作ヲ豫習スル場合ニ於テハ特ニ渡河ノ爲ノ企圖ヲ暴露セサルコト必要ナリ

重材料 第四百四十三 重材料ノ漕渡又ハ機航ヲ行フニハ中隊長ハ特ニ船著場、兩岸ノ交通、渡河材料ノ準備及航行ノ方法ニ留意スルヲ要ス

一般ノ要領 第四百四十四 橋梁ヲ架設スルニハ中隊長ハ一般ノ狀況就中架橋ノ目的、河川ノ景況及材料ノ現況等ヲ顧慮シテ架橋點ノ細部ヲ定メ橋梁ノ種類及架設ノ方法ヲ決定ス

敵前架橋 第四百四十五 敵前ニ於ケル架橋ハ迅速ニ竣工スルヲ要スルヲ以テ通常野戰砲兵ノ通過ニ支障ナカラシメ重材料ノ渡河ハ舟筏ニ依ルヲ通常トス

携行材料 第四百四十六 携行材料ニ依ル架橋ハ一岸若ハ兩岸ヨリ逐次ニ架設シ或ハ門橋ヲ以テ一齊ニ架設スルモノトス

大ナル河川ニ在リテハ中間ニ支點ヲ設ケ河幅ヲ區ニシテ架設スルヲ可トス

應用材料

計畫

準備作業

部署

準備作業ノ進歩架設作業

兩岸若ハ中間數箇所ヨリ架設スル場合ニ於テハ特ニ各部ノ連繫ニ注意シ作業ノ實施ニ方リ混雜ト溢滞トヲ來サシメサルヲ要ス

應用材料ニ依ル橋梁ハ概ネ前諸項ニ準シテ架設スルモノトス然レトモ固定橋脚特ニ列柱ヲ使用スル場合ニ於テハ作業著手ノ順序ヲ適當ニシ全橋梁ノ架設完了ヲ迅速ナラシムルコト必要ナリ

第四百四十七 中隊長架橋ノ計畫ヲ定ムルニハ先ツ其大綱ヲ決定シ次テ速ニ處置スヘキ事項ニ就キテ逐次計畫ヲ進メ以テ機ヲ失セス所要ノ準備ニ著手シ得ル如ク留意スルヲ要ス

第四百四十八 中隊長ハ通常先ツ中隊ノ全部若ハ大部ヲ以テ準備作業ヲ行フ

準備作業ノ主ナルモノハ橋軸其他ノ標示、橋礎ノ構築、材料ノ整頓及舟ノ準備等トシ其他應用材料ヲ用フルトキハ之カ收集、整備等ヲ行フモノトス

第四百四十九 中隊長ハ準備作業ヲ行フ爲各小隊ニ架橋計畫ノ要旨要スレハ作業ヲ敵ニ秘匿スル爲必要ナル處置等ヲ指示シ概ネ作業ノ種類ニ從ヒ各小隊ニ任務ヲ與フ此際所要ニ應シ木工、鍛工又ハ機工作業等ノ爲特別班ヲ編成シ進入、進出路ノ開設ヲ要スルトキハ所要ノ部署ヲ部署スルモノトス

第四百五十 準備作業進歩セハ中隊長ハ適時中隊ノ部署ヲ變更シ架橋計畫ニ基キ所要ノ小隊ヲシテ架設ニ任セシム

第四百五十一 架設作業ハ著手後中絶スルコトナキヲ要ス之カ爲作業ノ著手ハ計畫ノ基礎確定セル後ニ於テシ又準備作業進歩ノ程度ト架設著手時機トノ

漕渡ヨリ架橋

橋梁保護

夜間ノ架橋

重橋梁

重橋梁準備作業

細部ノ計畫

關係ハ材料ノ現況ト作業力トヲ顧慮シテ決定スルヲ要ス

第四百五十二 漕渡間又ハ漕渡ニ引續キ架橋ヲ開始スルニハ中隊長ハ爲シ得レハ漕渡間一部ノ人員、器材ヲ以テ架橋ニ關スル準備ヲ行ハシメ漕渡ノ進歩ニ伴ヒ必要ノ人員、器材ヲ逐次架橋點ニ招致シテ架橋ヲ行フモノトス之カ爲中隊長ハ豫メ架橋計畫ノ要旨ヲ小隊長ニ指示シ漕渡ヨリ架橋ニ轉移スルニ方リ混雜ト錯誤トヲ生セシメサルコト緊要ナリ

第四百五十三 架設作業間中隊長ハ適時橋梁保護ニ關スル處置ヲ爲スモノトス

第四百五十四 敵火ノ爲橋梁ヲ破壊セラレル虞大ナルトキハ拂曉前之ヲ撤收シ更ニ日没ヲ待チテ架設スルヲ要スルコトアリ此際成ルヘク架橋點ヲ變更シ敵ヲシテ其位置ヲ偵知シ得サラシムルコト必要ナリ而シテ橋梁ヲ撤收セル場合ニ於テモ補助ノ手段ニ依リ兩岸ノ交通ヲ確保スルヲ要ス

第四百五十五 重橋梁ノ架設ヲ計畫スルニ方リテハ中隊長ハ特ニ通過セシムヘキ車輛ノ種類及橋梁存置期間ノ長短ヲ顧慮シ橋梁ノ結構ヲシテ之ニ適合セシムルコトニ留意スヘシ

第四百五十六 重橋梁架設ノ爲準備作業ノ主ナルモノハ器材ノ運搬ニ要スル連絡路ノ開設、携行材料ノ準備、應用材料ノ收集及整備、經始、工場ノ開設等トス

第四百五十七 重橋梁ヲ架設スルニハ中隊長ハ遅クモ準備作業間ニ橋梁ノ設計及架設ニ關スル細部ノ計畫ヲ確定スヘシ而シテ重要ナル寸法、切組等ハ詳

動力

圖ヲ調製シ且技術上緊要ナル事項ニ對シテハ的確ニ作業ノ方法ヲ指示シ以テ
作業ノ錯誤ト危害ノ發生トヲ防止スルヲ要ス又天候、季節等ニ對スル防護ヲ
十分ナラシムルコトニ注意スヘシ
第四百五十八 重橋梁ヲ架設スルニハ爲シ得ル限り動力ヲ使用スルヲ可トス
之カ爲勉メテ速ニ動力器材ノ收集、整備ニ著手シ且之カ利用ニ關スル準備ヲ
整ヘ以テ作業ノ實施ニ支障ナカラシムルヲ要ス

第三節 交通

工兵ト交

第四百五十九 交通作業ノ適否ハ作戰上ニ大ナル影響ヲ及スモノトス故ニ工
兵ハ能ク之ヲ練成シ機宜ニ適スル如ク作業シ得サルヘカラス

工兵ノ任

第四百六十 交通ニ在リテハ工兵ハ主トシテ道路ノ構築、補修及陣地帯ノ通
過設備並交通網ノ遮斷ニ任スルモノトス

局部下統

第四百六十一 交通ニ於ケル局部ノ作業ハ班教練ニ於テ練成セシトコロヲ以
テ概ネ遂行シ得ヘシト雖之ヲ統一シテ全般ノ狀況ニ適應セシムルニハ一ニ幹
部ノ技能ニ俟タサルヘカラス

行動間ノ

第四百六十二 軍ノ行動間等狀況ヲ要スル場合ニ於ケル道路ノ構築及補修
ニ方リテハ中隊長ハ既ニ知得セル狀況ニ地形ニ基キ爲シ得ル限り所要ノ準
備ヲ整ヘ且勉メテ速ニ偵察ヲ實施シ作業ニ方リテハ特ニ計畫、部署ヲ適切ナ
ラシメ狀況ニ應シ機ヲ失スルコトナク軍隊ヲ通過セシムルコトニ勉メサルヘ
カラス

軍隊ノ通過中ニ於テ補修ヲ要スル虞アルトキハ通常一部ノ作業隊ヲ殘置スル

工兵

敵陣地前ノ交通

第四百六十三 敵ハ其陣地ノ前方ニ於テ交通網ヲ遮斷シ又ハ攻者ノ利用スヘ
キ地區、地物ニ地雷其他ノ爆發物ヲ準備シ又ハ撤毒シアルコト屢、ナリ故ニ
工兵ハ特ニ之カ偵察ヲ迅速ニシ機ヲ失セス之ヲ排除シ若ハ破壞點ヲ修理スル
コト緊要ナリ

戰鬪間工

第四百六十四 戰鬪間工兵ハ歩兵ノ前進ヲ容易ナラシムル爲河川、斷崖、沼
澤地等ニ通過設備ヲ行ヒ又砲兵、戰車ノ爲必要ナル通路ヲ開設スルモノトス
而シテ此等ノ諸設備特ニ戰車ノ通路ハ成ルヘク多ク設備シ特ニ敵ノ視察ニ對
シ遮蔽シアルコト緊要ナリ之カ爲要スレハ遮蔽工事ヲ實施スルモノトス

陣地帯内通過設備

第四百六十五 敵陣地帯内ノ通過設備ヲ行フニ方リテハ通常既ニ偵知シ得タ
ル陣地帯内ノ狀況ト敵ノ破壞企圖ノ判斷トニ基キ豫メ之ニ要スル人員及器材
ヲ準備シ陣地帯攻略ノ進捗ニ伴ヒ迅速ナル偵察ノ下ニ作業ヲ決行スルモノト
ス

陣地帯内戰車ト砲

第四百六十六 戰車及砲兵ノ爲陣地帯内ニ於ケル彈痕地帯又ハ障礙地域ニ通
過設備ヲ實施スルニ方リテハ中隊長ハ速ニ其企圖ヲ詳知シテ適時所要ノ設備
ヲ行ヒ要スレハ之ヲ誘導シ又ハ通過ニ協力セサルヘカラス

兵ノ通過

第四百六十七 急造道路ヲ構築スルニハ中隊長ハ各部ニ於ケル作業ノ種類、
大小、難易等ヲ顧慮シテ之ニ所要ノ部隊ヲ部署スヘシ

駐軍間及後方交通

第四百六十八 工兵ハ駐軍間又ハ軍ノ後方ニ於ケル交通作業ニ方リテハ長時
日使用スヘキ道路ノ構築、補修ニ任スルコト屢、ナリ

長時日使
用道路構
築

第四百六十九 長時日使用スヘキ道路ヲ構築スルニハ中隊長ハ通常現地ヲ偵察シテ一般ノ經始ヲ定メ次テ測量ヲ行ヒ道路ニ附與スヘキ諸元、鋪裝ノ種類、特種構築物ノ設計、材料ノ收集、運搬等ニ關スル事項ヲ定メ中隊ノ部署ヲ決定スルモノトス

遮斷

中隊ヲ部署スルニハ急造道路構築ノ要領ニ準シ地區若ハ作業ノ種類ニ從ヒ之ニ小隊ヲ部署シ要スレハ木工、石工其他特種ノ作業ニ任スル特別班ヲ設クヘシ

退却ト遮斷

第四百七十 交通網ヲ遮斷スルニハ全般ノ狀況及遮斷ノ目的ヲ詳知シ友軍ト密接ニ連繫シ好機ニ投シテ遮斷ヲ決行スルコト緊要ナリ

遮斷法決

第四百七十一 退却ニ方リ實施スヘキ交通網遮斷ノ時機ハ退却部隊ノ行動ニ直接重大ナル關係アルヲ以テ之カ實施ノ時機ヲ的確ニ承知スルト共ニ退却部隊其他トノ連絡ヲ密ニシ之カ時機ヲ誤ラサルヲ要ス然レトモ工兵ノ各級指揮官ハ狀況ノ變化ニ方リ自ラ全責任ヲ負ヒ獨斷之カ決行ヲ要スルコトアリ

中小隊長ノ部署

第四百七十二 交通網ヲ遮斷スルニハ中隊長ハ遮斷ノ目的、遮斷スヘキ構築物ノ種類、數及其構造、遮斷ノ程度、時機ノ緩急、使用シ得ヘキ兵力並器材ノ關係ヲ顧慮シ其方法ヲ決定スヘシ

敵背後ノ遮斷

第四百七十三 中隊長ハ通常小隊ニ遮斷スヘキ地域又ハ目標ヲ配當シテ任務ヲ與フルモノトス此際中隊長ハ特ニ遮斷ノ程度時機ヲ明示スルヲ要ス

告

小隊長ハ通常班ニ目標ヲ示シテ任務ヲ與フ然レトモ重要ナルモノニ在リテハ小隊長直接其指揮ニ任スルモノトス

遮斷ノ報

第四百七十四 敵ノ背後ニ在ル重要ナル橋梁其他ノ術工物ヲ遮斷スル目的ヲ以テ深ク敵地ニ潛入スル場合ニ於テハ豫メ周到ナル準備ヲ整ヘ一タヒ實行ニ移ルヤ剛膽機敏一意任務ニ向ヒテ邁進セサルヘカラス

的

第四百七十五 交通網ノ遮斷ヲ行ヒタルトキハ中隊長ハ其成果ニ關シ直ニ之ヲ上級指揮官ニ報告スルト共ニ關係部隊ニ通報スルヲ要ス

坑道ノ目

第四百七十六 坑道ハ地上ニ於ケル戰鬪ニ依リ目的ヲ達成シ難キ場合ニ於テ地中ヨリ前進シ最モ堅固ナル敵陣地ノ要部ヲ破壞シテ地上突撃ノ自由ヲ獲得シ又ハ此攻撃ニ對抗スル爲行フ工兵獨自ノ戰鬪手段ナリ

坑道戰ノ覺悟

第四百七十七 坑道戰ハ暗黒、狹隘、狀況不明ノ地下ニ在リテ咫尺ノ間ニ彼我相對峙シ長時日ニ互リ續行セラルルヲ常トス故ニ工兵ハ上下協力シ隱忍持久ノ精神ト豪邁果敢ナル氣力トヲ傾注シ作業及戰鬪ニ從事セサルヘカラス

中隊ノ擔任

第四百七十八 坑道戰ニ方リテハ中隊ハ通常其規模ニ應シテ一坑道系又ハ其一部ノ編成及戰鬪ヲ擔任スルモノトス

地上地下戰ノ連繫

第四百七十九 坑道戰ニ在リテハ地上、地下ノ戰鬪ヲ密接ニ連繫セシムルコト緊要ナリ故ニ教練ノ實施ニ方リテハ單ニ地下ノ設備及行動ノミニ止ムルコトナク地上ノモノヲモ併セ行ヒ且勉メテ他兵種ト連合シ地上戰鬪トノ連繫ニ關シ演練スルコト必要ナリ

諸勤務ノ

第四百八十 運土、通氣、排水、照明、候敵、測量、地質檢索及瓦斯防護等

敵背後ノ遮斷

第四百七十四 敵ノ背後ニ在ル重要ナル橋梁其他ノ術工物ヲ遮斷スル目的ヲ以テ深ク敵地ニ潛入スル場合ニ於テハ豫メ周到ナル準備ヲ整ヘ一タヒ實行ニ移ルヤ剛膽機敏一意任務ニ向ヒテ邁進セサルヘカラス

的

第四百七十五 交通網ノ遮斷ヲ行ヒタルトキハ中隊長ハ其成果ニ關シ直ニ之ヲ上級指揮官ニ報告スルト共ニ關係部隊ニ通報スルヲ要ス

坑道ノ目

第四百七十六 坑道ハ地上ニ於ケル戰鬪ニ依リ目的ヲ達成シ難キ場合ニ於テ地中ヨリ前進シ最モ堅固ナル敵陣地ノ要部ヲ破壞シテ地上突撃ノ自由ヲ獲得シ又ハ此攻撃ニ對抗スル爲行フ工兵獨自ノ戰鬪手段ナリ

坑道戰ノ覺悟

第四百七十七 坑道戰ハ暗黒、狹隘、狀況不明ノ地下ニ在リテ咫尺ノ間ニ彼我相對峙シ長時日ニ互リ續行セラルルヲ常トス故ニ工兵ハ上下協力シ隱忍持久ノ精神ト豪邁果敢ナル氣力トヲ傾注シ作業及戰鬪ニ從事セサルヘカラス

中隊ノ擔任

第四百七十八 坑道戰ニ方リテハ中隊ハ通常其規模ニ應シテ一坑道系又ハ其一部ノ編成及戰鬪ヲ擔任スルモノトス

地上地下戰ノ連繫

第四百七十九 坑道戰ニ在リテハ地上、地下ノ戰鬪ヲ密接ニ連繫セシムルコト緊要ナリ故ニ教練ノ實施ニ方リテハ單ニ地下ノ設備及行動ノミニ止ムルコトナク地上ノモノヲモ併セ行ヒ且勉メテ他兵種ト連合シ地上戰鬪トノ連繫ニ關シ演練スルコト必要ナリ

諸勤務ノ

第四百八十 運土、通氣、排水、照明、候敵、測量、地質檢索及瓦斯防護等

演練

ノ諸勤務ノ適否ハ作業及戰闘ノ成果ニ大ナル關係ヲ有スルモノナリ故ニ教練ニ方リテハ之カ演練ニ勉ムルコト必要ナリ

攻撃奏功ノ要訣

第一款 攻撃坑道

第四百八十一 坑道戰ニ於ケル攻撃奏功ノ要訣ハ特ニ敵ノ意表ニ出テ速ニ目標ニ近接シテ之ヲ爆破スルニ在リ之カ爲敵情ヲ明ニシ我カ企圖ノ秘匿ニ勉ムルト共ニ地中ノ前進ヲ迅速ナラシムルコト緊要ナリ而シテ敵ニ遭遇セハ機先ヲ制シテ之ヲ爆破スルヲ要ス

偵察

第四百八十二 敵情就中防禦坑道ノ偵察ハ頗ル困難ナルヲ以テ地中ノ偵察ノ外空中及地上ニ於ケル諸偵察ノ結果ヲ綜合シ組織的ニ實施スルコト必要ナリ

企圖秘匿

第四百八十三 我カ企圖ヲ秘匿スルニハ坑道戰ノ準備及實施ヲ通シテ隱密ニ行動シ且偽裝及欺騙ヲ行フコト緊要ナリ

前進作業

第四百八十四 地中ノ前進ヲ迅速ナラシムル爲中隊長ハ前進作業ニ十分ナル兵力ヲ部署シ且作業ノ諸準備ヲ完全ニシ實施ニ方リ滯滞ナカラシムルヲ要ス

瓦斯防護

第四百八十五 坑道戰ニ在リテハ特ニ瓦斯攻撃ニ對スル防護ヲ完全ナラシメ且地中爆發ヨリ生スル瓦斯ノ排除及之ニ對スル救護ノ處置ヲ講スルコト必要ナリ

計畫

第四百八十六 坑道戰ヲ行フニハ中隊長ハ上級指揮官ノ企圖ニ基キ攻撃坑道ノ計畫ヲ策定シ攻撃ノ方針、攻撃坑道系ノ編成、作業ノ豫定、兵力部署、坑道勤務、開口部及土棄場ノ設備並器材ノ整備等必要ノ事項ヲ決定スルモノト

坑道系ノ編成

計畫ヲ策定スルニハ敵情ノ偵知ト共ニ先ツ地形ノ測量及地質ノ調査ヲ行フコト緊要ナリ而シテ此等ノ測量及調査ハ中隊自ラ之ヲ實施シ又ハ上級指揮官ノ實施セルトコロニ基キ所要ノ事項ヲ補足スルモノトス

開口部

坑道系ノ編成ニ當リテハ特ニ戰闘ノ經過ヲ考慮シ豫想スル遭遇地域ニ於テ敵ヲ包圍シ且迅速ニ目標ニ到達シ得シムルコト緊要ナリ

坑道間隔

第四百八十八 開口地域ハ狀況ノ許ス限り勉メテ敵ニ近ク選定シ以テ地中ノ前進距離ヲ短縮スルヲ可トス然レトモ過度ニ敵ニ接近セシメ我カ準備成ラサルニ先タチ不利ナル戰闘ヲ惹起セシメサルト共ニ敵ノ地上攻撃ニ對シ安全ナラシムルコト亦緊要ナリ

坑道深サ

開口部ハ特ニ地形ヲ利用シ敵眼及敵彈ニ對シ掩護セシムルコト必要ナリ

第四百八十九 攻撃坑道ノ間隔ハ敵坑道ヲシテ我カ間隔内ニ潛入シ得サラシムル如ク之ヲ決定スルヲ要ス

攻撃坑道ノ間隔ヲ一層擴大セサルヘカラサル場合ニ於テハ所要ニ應シ比隣兩坑道ヨリ坑道ヲ岐分シ或ハ穿孔ニ依リ其間隔ヲ閉塞スルヲ可トス

第四百九十 攻撃坑道ノ深サハ坑道ノ目的、防禦坑道及地質ノ狀態等ニ依リ

先進坑道
後進坑道

断面

交代

爆破命令

變化スト雖成ルヘク敵坑道ヲ下方ヨリ爆破シ得ルヲ要ス然レトモ過度ニ深キニ失シ適時上方ニ於ケル敵ノ企圖ヲ挫折シ得サルカ如キコトナキヲ要ス狀況ニ依リ坑道ヲ上下兩層ニ編成スルコトアリ

第四百九十一 攻撃坑道ヲ前後ノ群ニ分チ梯次ニ前進セシムル場合ニ於テハ先進坑道群ハ主トシテ敵情候察及後進坑道群ノ掩護ニ任シ要スレハ敵坑道ヲ擊破シ以テ後進坑道群ヲシテ直路目標ニ到達セシムルモノトス之カ爲後進坑道ハ先進坑道ノ間隔内ヲ前進セシメ且其爆破ニ依ル危害ヲ被ラサルヲ限度トシ成ルヘク前方ニ在ラシメ以テ爆破後ノ超越前進ヲ迅速ナラシムヘシ

坑道ヲ上下兩層ニ編成セル場合ニ於テハ前項ニ準シ通常上層坑道ヲ先進セシムルモノトス

第四百九十二 攻撃坑道ノ断面ハ狀況ニ依リ定ムヘシト雖坑道ノ諸勤務ヲ便ナラシムル爲メテ本坑道ヲ用ヒ近ク敵ト遭遇ヲ豫期スルニ至レハ作業ノ進捗ヲ速ニシ戰鬥ヲ有利ナラシムル爲メ枝坑道ヲ用フルヲ通常トス

第四百九十三 中隊長ハ坑道計畫ニ基キ小隊及特別班ニ擔任作業ヲ命シ晝夜連續作業ヲ實施ス之カ爲概ネ六乃至十二時間毎ニ小隊ヲ交代セシム而シテ其一順ハ通常ニ交代トス又特別班ニ在リテモ作業ノ種類ニ應シ交代シテ連續作業セシメ或ハ交代スルコトナク日々定時間服務セシムルモノトス

第四百九十四 中隊長ハ中隊ノ作業ヲ統一シテ坑道戰ノ實施ニ任ス然レトモ地上ニ影響ヲ及スヘキ爆破ノ實施ハ上級指揮官ノ命令ニ依リ實施スルヲ要ス又候敵ノ敵情監視及動力施設ニ關係アル坑道勤務其他器材ノ補給等ニ關スル

統 指揮
勤務ノ規
定
開口作業

坑道發起
室

掘進要領

地中候敵

作業ハ所要ニ應シ師團工兵指揮官ニ依リ統一指揮セラルルモノトス

第四百九十五 中隊長ハ坑道戰ニ於ケル作業ノ統一ヲ容易ナラシムル爲メ必要ナル勤務ヲ規定スヘシ

第四百九十六 中隊長ハ坑道作業著手ニ必要ナル準備完了セハ開口作業ヲ行ヒ通路ヲ掘進ス

開口作業ハ之ヲ秘匿スル爲メ地形ヲ利用シ又ハ夜間作業、大規模ノ偽裝等ヲ實施スルコト必要ナリ

第四百九十七 開口作業進捗シ所望ノ通路ヲ構成セハ坑道發起室ヲ設ケ坑道戰ニ必要ナル施設ノ一部若ハ全部ヲ此處ニ移シ以テ攻撃坑道ヲ掘進スルモノトス然レトモ狀況ニ依リ先ツ地上ヨリ攻撃坑道ヲ開口掘進シ地下ニ於ケル諸施設ハ之ヲ要スルニ至リ添加シ或ハ之ヲ省略スルコトアリ

第四百九十八 各坑道ハ敵ニ其側面ヲ暴露セサル如ク成ルヘク齊頭ニ掘進スルヲ可トス目的ニ依リ群ヲ分チ梯次ニ前進スル場合ニ於テモ群内ノ各坑道ハ此要旨ニ從フモノトス而シテ何レノ場合ニ於テモ翼側ニ在ル坑道ハ特別ニ側方ノ掩護ニ任スルモノトス之カ爲要スレハ適時穿孔又ハ新坑道ヲ岐分シ得ル如ク所要ノ壁坑ヲ設クヘシ

攻撃坑道ノ延長大ナルニ從ヒ横坑道ヲ以テ比隣相互ヲ連絡シ得レハ有利ナリ

第四百九十九 地中ニ於ケル敵情候察ニ方リテハ敵ノ實施スル作業ノ位置、種類及進展ヲ偵知スルコトヲ勉ムヘシ此際特ニ敵ノ偽作業ニ注意スルヲ要ス

防禦坑道	第五百八 敵ノ攻撃坑道ニ對シ防禦陣地ノ要部ヲ確保スルニハ防禦坑道系ヲ編成スルヲ要ス
坑道防禦	防禦坑道系ヲ編成スルニハ上級指揮官ノ企圖ニ基キ掩護スヘキ機關ノ位置、地形、地質等ヲ顧慮シ特ニ周密ナル敵情判斷ヲ行フコト緊要ナリ
要訣	第五百九 坑道戰ニ於ケル防禦ノ要訣ハ豫メ周密ナル準備ヲ整ヘ機先ヲ制シテ敵ヲ攻撃シ敵ヲシテ其攻撃ヲ斷念セシムルニ在リ
第五百十	防禦坑道ニ關スル作業及戰闘ハ概ネ攻撃坑道ノ諸法則ニ準シテ之ヲ實施スルモノトス
目的	第四章 大塚教練 第五百十一 大隊教練ノ目的ハ諸般ノ狀況ニ適應スヘキ大隊長ノ指揮並各中隊ノ協同動作ヲ演練スルニ在リ
大隊長ノ職責	第五百十二 大隊長ハ絶エス師團ノ作戰地域ニ於ケル地形特ニ交通網ニ關スル情報ヲ收集整理スルト共ニ適時所要ノ偵察ヲ行ヒ以テ師團長ニ狀況判斷ノ資料ヲ提供スルモノトス
偵察	第五百十三 大隊長ノ師團長ニ提供スヘキ狀況判斷ノ資料ハ廣汎ナル地域及各種ノ事項ニ互リ實施セサルヘカラス故ニ機ヲ失セス自ラ所要ノ偵察ヲ行フト共ニ各種搜索機關ノ偵知セル結果ヲ利用スルコト肝要ナリ
意見具申	第五百十四 大隊長ハ狀況ニ應シ師團全般ノ作業、工兵ノ用法、器材ノ整備、補給等ニ關シ適時師團長ニ意見ヲ具申スルモノトス

狀況ノ明	第五百十五 作業ハ狀況ニ適應シテ始メテ其眞價ヲ發揮シ得ルモノナリ故ニ大隊長ハ常ニ全般ノ狀況ニ通曉シ自己ノ任務ヲ的確ニ了解シ且將來ノ戰況ヲ洞察シ機ヲ失セス所要ノ準備ヲ整ヘ適時作業ヲ完成スルコト肝要ナリ之カ爲
部署	師團長及關係部隊ノ指揮官ト密接ナル連絡ヲ保持スルノミナラス自ラ手段ヲ盡シテ情報ノ收集ニ勉メ又常ニ部下諸隊ノ狀況ヲ明ニスルコト緊要ナリ
統一指揮	第五百十六 大隊長作業ノ爲大隊ヲ部署スルニハ中隊ノ建制ヲ保持スルコト必要ナリ然レトモ作業ノ種類ニ依リ特別ノ區隊若ハ班ヲ設ケ又時トシテ中隊ノ行李器材ヲ彼此轉屬スルコトアリ
作業間ノ指揮	第五百十七 工兵ハ努メテ統一指揮ノ下ニ其全能力ヲ發揮セシムル如ク使用スルヲ本旨トス又作業ヲ行フニハ勉メテ兵力ヲ集結シテ要點ニ使用スルヲ要ス
連絡	小隊ヲ分割シテ使用スルコトハ勉メテ之ヲ避ケサルヘカラス而シテ狀況ニ依リ小隊ヲ其以下ニ分割シテ使用スルヲ要スルトキハ其任務ヲ單一ニシ以テ任務ノ達成ヲ容易ナラシムルヲ要ス
作業ヲ行	第五百十八 作業間大隊長ハ絶エス全般ノ狀況及各隊ノ作業ノ現況ヲ明ニシ要スレハ部署ノ變更ヲ行フ等一意作業ノ進捗ニ勉メ作業ノ實施ヲシテ戰機ニ投合セシムルコト緊要ナリ
	第五百十九 大隊長ハ作業間連絡ノ方法ヲ適切ニシ指揮ヲ敏活ナラシムルコト緊要ナリ之カ爲特ニ師團内各通信網ノ利用ニ努ムルヲ要ス
	第五百二十 戰闘間作業ヲ行ハサル工兵ハ將來ノ用途ヲ顧慮シ進出ニ便ニシ

兵ハサル工

テ且勉メテ敵眼、敵火ニ掩蔽セル地ニ位置シ又爾後ノ行動ニ關シ所要ノ準備ヲ行フモノトス
第五百二十一 大隊長ハ大隊ヲ指揮スル爲以上ノ外本篇第三章ニ於テ中隊長ノ爲示シタル法則ヲ準用ス

工兵操典終

工兵操典附錄

其一 敬禮及觀兵ノ制式並刀及喇叭ノ取扱法

演練程度

歩法

捧銃

頭右左

第一 敬禮及觀兵ノ制式ハ常ニ軍隊ノ練習シ置クヲ要スルモノニシテ最モ整正嚴肅ニ行フヘキモノトス

第二 行進間ノ敬禮及分列ニハ正規ノ歩法ヲ用フルモノトス

第三 捧銃ノ操作ハ確實齊一ニ行フモノトス
捧銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右手ヲ以テ銃ヲ上ケ體ノ中央前ニ持チ來シ銃身ヲ後口ニシ之ヲ垂直ニス同時ニ左手ヲ以テ概ネ木被ノ下ニ接シテ銃ヲ握リ拇指ヲ銃床ニ沿ヒテ伸ハシ前臂ヲ殆ト水平ニシ兩上膊ハ輕ク體ニ接ス

捧銃ヨリ立銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右手ヲ以テ銃ヲ下ケ腰ニ支ヘ同時ニ左手ヲ下口シ靜ニ銃ヲ地ニ著ク

第四 頭右(左)ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

頭右(左)ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

頭右(左)

頭右(左)

頭右(左)

頭右(左)

隊形
距離開閉
前進
拔刀

頭ヲ約四十五度右(左ニ向ク
正面ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
直レ

觀兵ノ制式

第五 閱兵式ノ隊形ハ縱隊橫隊(附圖第一)トシ分列式ノ隊形ハ中隊縱隊(附圖第二)ヲ用フ

第六 中隊縱隊ノ各小隊間ニ於ケル距離ヲ閉メシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

距離開閉

中央ノ二小隊及後尾ノ小隊ハ前方小隊ニ距離ヲ閉メ附圖第二乙號ノ隊形トナ

鐵道及電信聯隊ニ在リテハ附圖第四乙號ノ隊形トナル

舊隊形ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

距離ヲ取レ

第七 分列行進ヲ起サシムルニハ大隊長ハ押伍列ニ在ル者ヲ列中ニ入レタル後左ノ號令ヲ下ス

分列に前へ進メ

第八 各級指揮官、准士官及下士官ハ密集及集合隊形ニ在リテハ拔刀ス但作

佩刀法
拔刀法
納刀
拔刀行進

業及戰鬥ニ際シテハ所要ノ時期ニ於テノミ拔刀スルモノトス

第九 刀ヲ佩フルニハ第一鑲ヲ鉤ニ懸ケ柄ヲ後口ニス馬上ニ在リテハ鉤ニ懸ケルコトナシ

第十 停止間ニ在リテ刀ヲ拔クニハ姿勢ヲ崩スコトナク左手ヲ以テ刀ノ柄ヲ前ニ向ケ其拇指ヲ内ニシ第一鑲ノ所ヲ握リ右手ヲ以テ刀ノ柄ヲ握リ刀身ヲ鞆

ヨリ拔キ右臂ヲ右前方ニ高ク伸ハシ恰モ茲ニ一節ヲ示ス方如クシテ速ニ肩刀ヲ爲シ同時ニ左手ヲ下ロス

肩刀ノ方法ハ刀ノ柄ヲ右手ノ拇指ト食指及中指トノ間ニ保チ他ノ二指ヲ刀ノ柄ノ外ニ附シ其手ヲ右臑骨ノ稍、下方ニ著ケ刀身ヲ垂直ニ立テ刀背ヲ肩ニ托

シ少シク肘ヲ後方ニ出ス

停止間拔刀ノ儘休憩スルニハ刀尖ヲ上ニシ右臂ヲ垂レ或ハ之ヲ體ノ前ニ致シ

左手ヲ以テ右手ヲ支ヘ刀身ヲ臂ニ托ス

第十一 停止間ニ在リテ刀ヲ納ムルニハ刀ヲ垂直ニ上ケ其双面ヲ顔ノ中央ニ

對セシメ切羽ヲ口ノ高サニ齊シクシ肘ハ自然ニ體ニ接ス

同時ニ左手ヲ以テ第一鑲ノ所ヲ握リ鯉口ヲ前ニ向ケ刀身ヲ左臂ニ沿ヒテ刀尖

ヲ後口ニ下ケツツ右拳ヲ高ク上ケ頭ヲ稍、左ニ傾ケ眼ヲ鯉口ニ注キ刀尖ヲ鞆

ニ入レ全ク刀身ヲ納メ柄ヲ後口ニシ速ニ兩手ヲ下ケ頭ヲ正面ニス

第十二 拔刀ノ儘行進スルトキハ右手ノ甲ヲ右ニシ護拳ヲ握リ臂ヲ垂レ刀背

ヲ上膊ニ托シ鞆ハ鉤ニ懸ケタル儘左手ヲ以テ之ヲ握リ兩臂ヲ自然ニ振ル

乘馬拔刀

刀緒

刀ノ禮

喇叭ノ持

吹奏

出シ方

第十三 馬上ニ在リテハ左手ニ鞭ヲ執リ右手ヲ左臂ノ上ヨリ左側ニ下ロシテ刀ノ柄ヲ握リ第十二準シテ拔刀ス但肩刀ニ於テ柄頭ヲ右股ニ托シ右手ノ脈部ヲ臑骨ニ接スルヲ異ナリトス

第十四 拔刀シアルトキハ刀緒ハ觀兵式ノ場合其他ハ必要ニ應シ右手ニ嵌ムルモノトス

第十五 刀ノ禮ハ肩刀ヨリ行フモノトス

第一舉動 刀ヲ垂直ニ上ケ其刃面ヲ額ノ中央ニ對セシメ切羽ヲ口ノ高サニ齊シクシ肘ハ自然ニ體ニ接ス(之ヲ捧刀ト謂フ)

第二舉動 徐ロニ右臂ヲ全ク伸ハシ刀ヲ斜ニ下ケ爪ヲ上ニシテ拳ヲ右股ヨリ少シク離シ頭ヲ向ケテ受禮者ノ眼或ハ敬禮スヘキモノニ注目ス

敬禮終レハ肩刀ニ復ス

第十六 喇叭ヲ携フルニハ飾紐ヲ頸ニ懸ケ右手ヲ以テ喇叭ヲ握ル其法拇指ヲ上ニシ食指ヲ開闔螺ニ接シ其他ノ指ハ食指ト共ニ閉チ接著管ヲ輕ク右手ノ脈部ニ接シ中指ヲ概ネ袴ノ縫目ニ當テ之ヲ水平ニ保チ正シク前方ニ向ハシム

第十七 喇叭ヲ吹奏スルトキハ接著管ヲ左方ニシ之ヲ水平ニ保ツ

其二 拳銃ノ扱法

第一 拳銃ヲ出スニハ右手ヲ以テ囊ノ蓋ヲ開キ銃把ヲ握リ拳銃ヲ囊ヨリ出シ拳ヲ右肩ノ前方一握程ノ所ニ於テ之ト同シ高サニ上ケ銃口ヲ上ニ向ケ用心鐵

納メ方

注意

裝填抽出

抽彈

射擊姿勢

射擊止メ

チ前ニシ食指ヲ之ニ沿ヒテ伸ハス

第二 拳銃ヲ納ムルニハ出ストキト反對ノ順序ヲ以テス

第三 彈藥ヲ裝填シアル拳銃ノ取扱及射擊ニ際シテハ不慮ノ危害ヲ生セサルコトニ注意スヘシ

第四 彈藥ノ裝填及抽出ハ注目シテ之ヲ行フモノトス

第五 拳銃ヲ出シアルトキ彈藥ヲ裝填スルニハ拳銃ヲ體ノ正面ニ下ケ銃口ヲ左前下ニ向ケ左手ヲ以テ銃身ヲ上ヨリ握リ其拇指ト食指トヲ以テ鎖鈎ヲ撮ミテ之ヲ上ケ彈巢ヲ開キ右手ヲ以テ彈藥ヲ込メ彈巢ヲ閉チ拳銃ヲ出シアルトキノ姿勢ニ復ス

第六 拳銃ヲ出シアルトキ彈藥ヲ抽キ出スニハ第五ニ從ヒ彈巢ヲ半ハ開キ左手ノ拇指ノ頭ヲ以テ遊板ヲ強ク壓シテ排筒桿ヲ下ロシ全ク彈巢ヲ開キ右手ヲ以テ彈藥ヲ抽キ出シ之ヲ囊ニ收メ彈巢ヲ閉チ拳銃ヲ出シアルトキノ姿勢ニ復ス

第七 拳銃ヲ出シアルトキ射擊姿勢ヲ取ルニハ先ツ示サレタル目標ニ正對シ頭ヲ其方向ニ保チタル儘左足尖ヲ以テ半ハ左ニ向キツツ右足ヲ約半歩右前ニ踏ミ出ス

第八 射擊姿勢ヲ止ムルニハ目標ノ方向ニ向キツツ左足ヲ右足ニ引キ著ケ拳銃ヲ出シアルトキノ姿勢ニ復ス

其三 手榴彈投擲法

目的	教育順序	投擲範圍	投擲時機	危害豫防	立委投
第一 手榴彈ハ突撃作業又ハ突撃ニ於テ其爆烈ニ依リ敵ヲ殺傷震駭スル爲使 用スルモノトス故ニ兵ヲシテ如何ナル場合ニ於テモ沈著シテ能ク機ニ投シ正 確ニ投擲シ得ルニ至ラシメサルヘカラス	第二 投擲法ノ教育ハ通常立立委投、膝姿投、伏姿投ノ順序ヲ以テ基本ヲ修得 セシメテ各種ノ状況ノ目標ニ對シ行進間、壕内、不齊地、夜間等ニ於テ實施シ遂 ニハ各種ノ狀況ニ應スル投擲ノ要領ニ習熟セシムルモノトス	第三 投擲ハ常ニ目標ヲ中心トスル半徑五米以内ニ落達セシメサルヘカラ ス	最大投擲距離ハ立委投ヲ以テスル場合ニ於テ三十米ヲ標準トス 第四 手榴彈ノ投擲ハ其時機適當ナラサルトキハ效果ヲ收ムルコト能ハサル ノミナラス自ラ危害ヲ被ルコトアリ故ニ各種ノ狀況ニ應スル投擲ノ時機ヲ會 得セシムルコト肝要ナリ突撃作業又ハ突撃ト連繫スル投擲動作ハ屢、演練シ 爆裂ノ瞬間ヲ利用シテ之ヲ敢行スルコトニ熟セシムルヲ要ス	第五 投擲ノ演習ニ在リテハ常ニ危害ノ豫防ニ留意スヘシ教育ノ初期又ハ夜 間ノ投擲ニ於テ然リトス	第六 立委投ヲ爲スニハ概ネ立射ニ準シテ姿勢ヲ取り兩踵ヲ目標ト概ネ一直 線上ニ在ラシメ銃ヲ左臂ニ托シ右手ヲ以テ信管頭ヲ下ニシ且信管噴氣孔ヲ左 方ニ向ケ拇指ヲ以テ錫板ノ左側面ヨリ他ノ四指ヲ以テ右側面ヨリ確實ニ彈體

膝姿投	伏姿投	委勢方法	信管發火
膝姿投ヲ爲スニハ膝射ニ準シ右足尖ヲ立テ臂ヲ右踵ノ上ニ載セテ委勢ヲ取ル 其他ノ動作ハ立委投ニ準ス	伏姿投ヲ爲スニハ伏射ニ準シテ伏臥シ臀部ヲ成ルヘク高クセサル如ク左脚ヲ 腹部ノ下ニ深ク曲ケ體重ヲ左脚ニ托シテ委勢ヲ取り銃ヲ右前方ニ置ク次テ左 手ヲ以テ體ヲ押し上ケ膝姿投ノ要領ニテ投擲シ速ニ舊委勢ニ復ス其他ノ動作 ハ立委投ニ準ス	第七 手榴彈ハ狀況特ニ目標ノ位置、地形、地物ノ狀態及投擲距離ノ大小等 ニ應シ適當ニ委勢及方法ヲ選擇スルモノトス	第八 信管ヲ發火セシムル爲利用スヘキ堅硬物體身邊ニナキトキハ狀況ニ應 シ床尾板、靴ノ踵、他ノ彈體等ヲ利用スルモノトス 行進間ノ發火動作ハ動モスレハ不確實トナリ點火サセルコトアルノミナラス 噴氣孔ノ爲右ニ危害ヲ被ルコトアリ故ニ兵ハ沈著シテ動作スルト共ニ必ス 發火ヲ確認シテ投擲スルコト必要ナリ

應用投擲

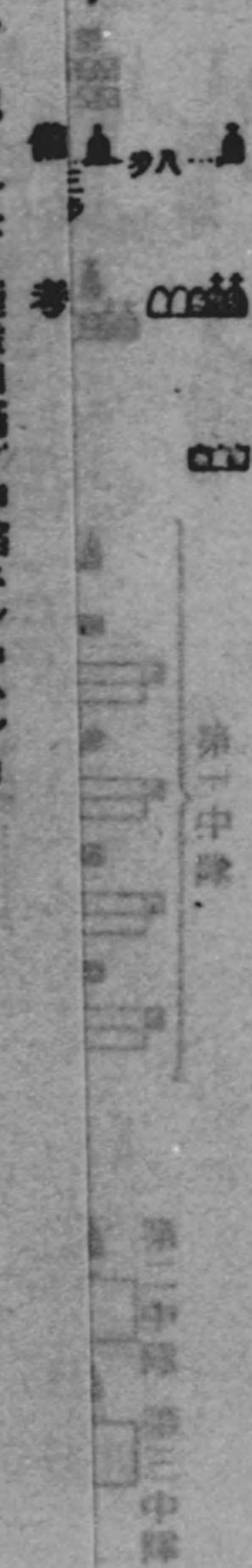
ナ握リ左手ヲ以テ安全栓ノ索ヲ握ミテ之ヲ抽キ出シ銃ヲ左手ニ持チテ信管頭
ヲ平ニ堅硬物體ニ打ち著ケ其發火ヲ確認シタル後上體ヲ少シク後方ニ倒シテ
體重ヲ右足ニ移シ左踵ヲ上ケ又ハ左足ヲ地ヨリ離シ右臂ヲ後方ニ引キ次テ體
ヲ左ニ捻轉シツツ舊位ニ復セントスル際一旦右臂ヲ曲ケ其彈撥力ヲ利用シテ
前方ニ振り出シ體重ヲ左足ニ移シ要スレハ右足ヲ地ヨリ離シ右肘ヲ十分伸ハ
シテ彈體ヲ放ツ

習熟ヲ要スル件
敵ニ咫尺シテ數人同時投擲

第九 地形、地物ニ遮蔽シテ好機ニ投シ樽毎ニ投擲スルコト及遮蔽物ノ後口ニ位置スル目標ニ對シ正確ニ投擲スルコトニ熟セサルヘカラス
 第十 敵ニ咫尺シテ投擲スルトキハ自己モ亦同時ニ危害ヲ被ル虞アルヲ以テ適當ナル落達地點ノ選定及掩護物ノ機敏ナル利用ニ依リ之ヲ避クルヲ要ス
 第十一 數人同時ニ投擲スル場合ニ於テハ協同シテ概ネ一齊ニ行フヲ可トス
 此際互ニ投擲動作ヲ防害セサル如ク適宜ノ間隔ヲ保持スルコト肝要ナリ

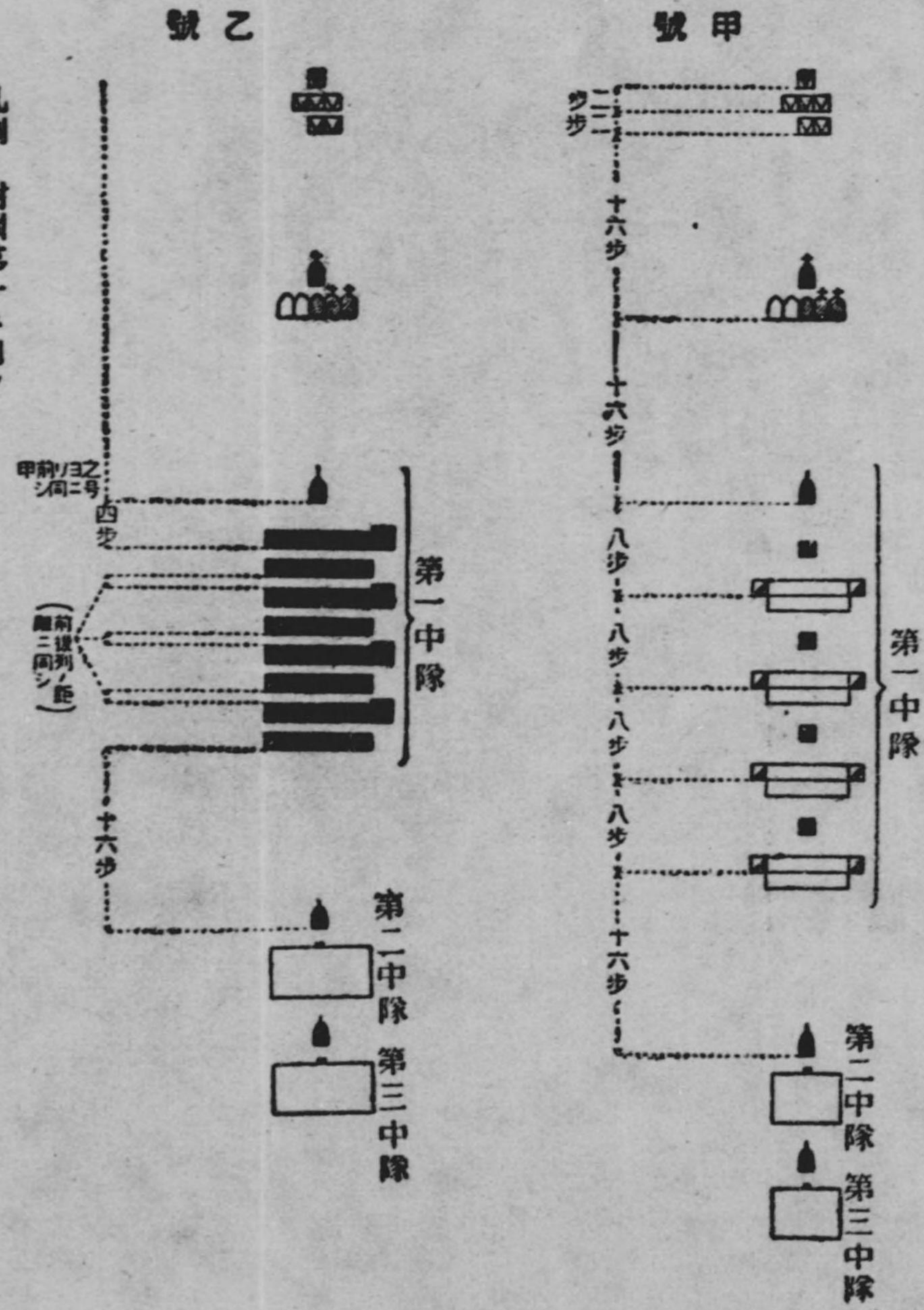
工兵操典附錄終

圖第二(工兵大隊)



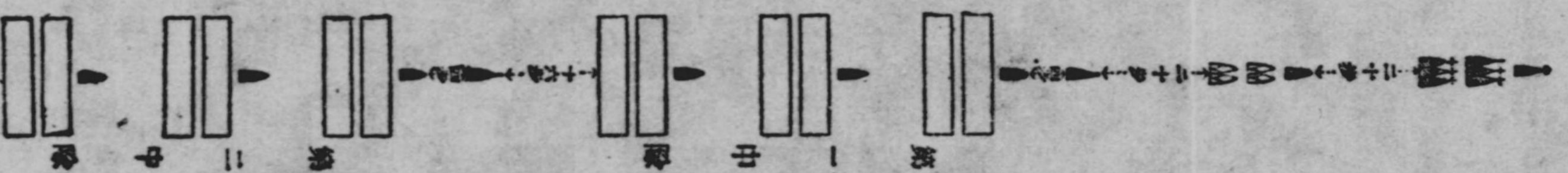
- 一 總テ各隊ノ距離間隔ヲ伸縮スルコトアリ
- 二 列兵少キトキハ中隊ヲ三(二)小隊ニ編成スルコトアリ
- 三 士官候補生ハ中隊中ニ位置ス
- 四 列外小隊ハ大隊本部附曹長、軍曹、上等工兵、砲、工兵工長、計手、縫、靴工長、看護長、看護兵ノ順序ニシテ兵科高級先任ノ者之ヲ指揮ス
- 五 本圖ニ規定セル以外ノ部隊、人員アルトキ其位置ニ關シテハ大隊長之ヲ定ム

附圖第二(工兵大隊)



- 一 甲號隊形ニ在リテハ押伍列ニ在ル者、乙號隊形ニ在リテハ右翼分隊長及押伍列ニ在ル者ハ當該小隊ノ左翼ニ到リ二列トナル
- 二 列兵少キトキハ中隊ヲ三(二)小隊ニ又ハ各小隊ヲ一列ニ編成スルコトアリ
- 三 總テ隊間距離ヲ伸縮スルコトアリ
- 四 敬禮ハ中隊毎ニ之ヲ行フ
- 五 編成ニ加ラサル大隊附尉官、見習士官、主計、軍醫及列外小隊ハ分列式ニ參與セサルモノトス
- 六 副官等ハ大隊長ノ後方一步(空間)ニ位置スルモノトス
- 七 軍樂隊アルトキハ喇叭長ハ第一中隊、喇叭手ハ各所屬中隊ノ列中ニ位置スルモノトス
- 八 本圖ニ規定セル以外ノ部隊、人員アルトキ之ヲ分列式ニ參與セシムヘキヤ否ヤ及其位置ニ關シテハ大隊長之ヲ定ム

附圖 第二

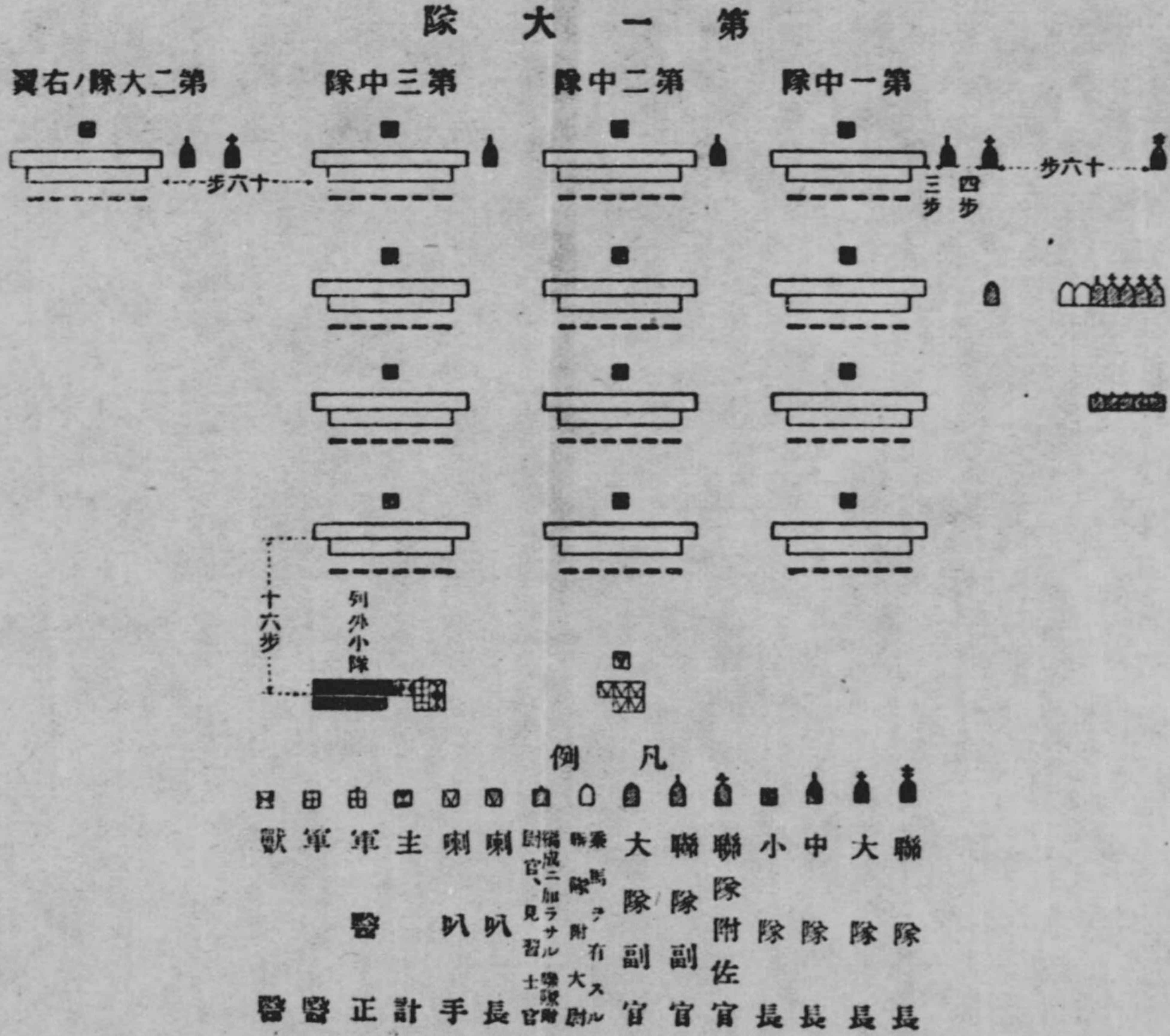


凡例・附圖第一三同シ

備考

- 一、總子隊間距離ヲ伸縮スルコトアリ
- 二、欲體ハ中隊毎ニ之ヲ行フ
- 三、編成ニ加ラサル尉官、見習士官、主計、軍醫、醫士及列外小隊ハ分列式ニ參與セサルモノトス

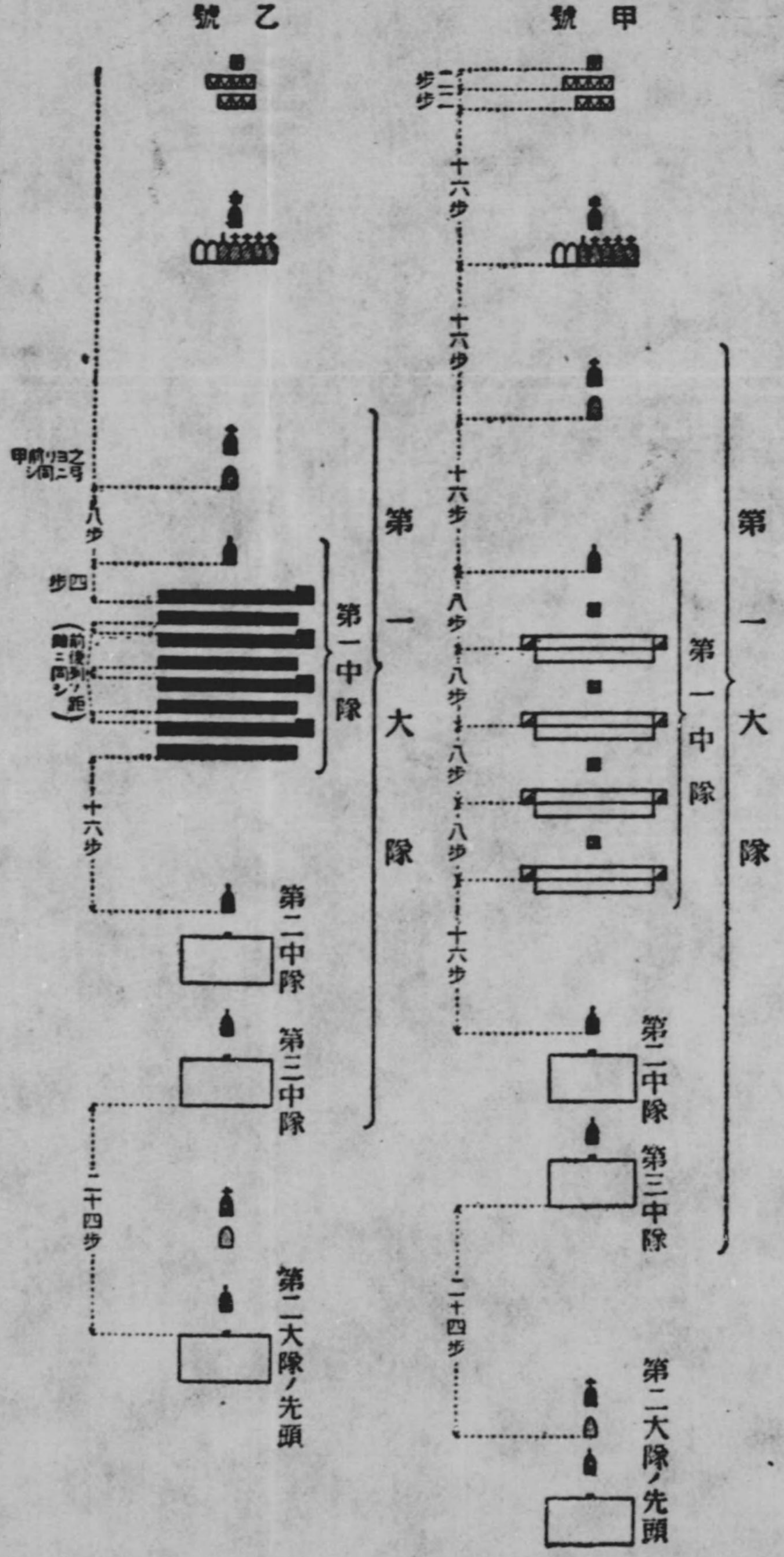
附圖第三(鐵道、電信聯隊)



備考

- 一 第二、第三大隊ニ於ケル喇叭手群ハ大隊長ノ定ムル喇叭手之ヲ指揮ス
- 二 大隊ヲ重疊排列スルトキハ大隊間ノ距離ヲ八歩トシ各中隊ハ正シク前ノ中隊ニ重リ聯隊ノ全喇叭手、主計、軍醫正、軍醫、獸醫及列外小隊ハ最後尾ノ大隊ノ後方ニ位置ス
總テ各隊ノ距離間隔ヲ伸縮スルコトアリ
- 三 列兵少キトキハ中隊ヲ三(二)小隊ニ編成スルコトアリ
- 四 材料廠長ニシテ乘馬ヲ有スル者ハ聯隊附佐官ノ列ニ、否サル者ハ編成ニ加ラサル聯隊附佐官ノ列ニ位置ス
- 五 列外小隊ハ聯(大)隊本部、材料廠附曹長、軍曹、伍長、上等工長、砲、工兵工長、計手、縫、靴工長、看護長、踏鐵工長、看護兵ノ順序ニシテ兵科高級先任ノ者之ヲ指揮ス
- 六 本圖ニ規定セル以外ノ部隊、人員アルトキ其位置ニ關シテハ聯隊長之ヲ定ム

附圖第四(鐵道、電信聯隊)



凡例 附圖第三ニ同シ

備考

- 一 甲號隊形ニ在リテハ押伍列ニ在ル者、乙號隊形ニ在リテハ右翼分隊長及押伍列ニ在ル者ハ當該小隊ノ左翼ニ到リ二列トナル
- 二 列兵少キトキハ中隊ヲ三(二)小隊ニ又ハ各小隊ヲ一列ニ編成スルコトアリ
- 三 總テ隊間距離ヲ伸縮スルコトアリ
- 四 敬禮ハ中隊毎ニ之ヲ行フ
- 五 乘馬ヲ有セサル材料廠長、編成ニ加ラサル聯隊附尉官、見習士官、主計、軍醫正、軍醫、獸醫及列外小隊ハ分列式ニ參與セサルモノトス
- 六 副官等ハ聯(大)隊長ノ後方一步(空間)ニ位置スルモノトス
- 七 軍樂隊アルトキハ喇叭長ハ第一中隊、喇叭手ハ各所屬中隊ノ列中ニ位置ス
- 八 本圖ニ規定セル以外ノ部隊、人員アルトキ之ヲ分列式ニ參與セシムヘキヤ否ヤ及其位置ニ關シテハ聯隊長之ヲ定ム

朕小銃、輕機關銃、拳銃射擊教範ヲ
制定シ之カ施行ヲ命ス

御名御璽

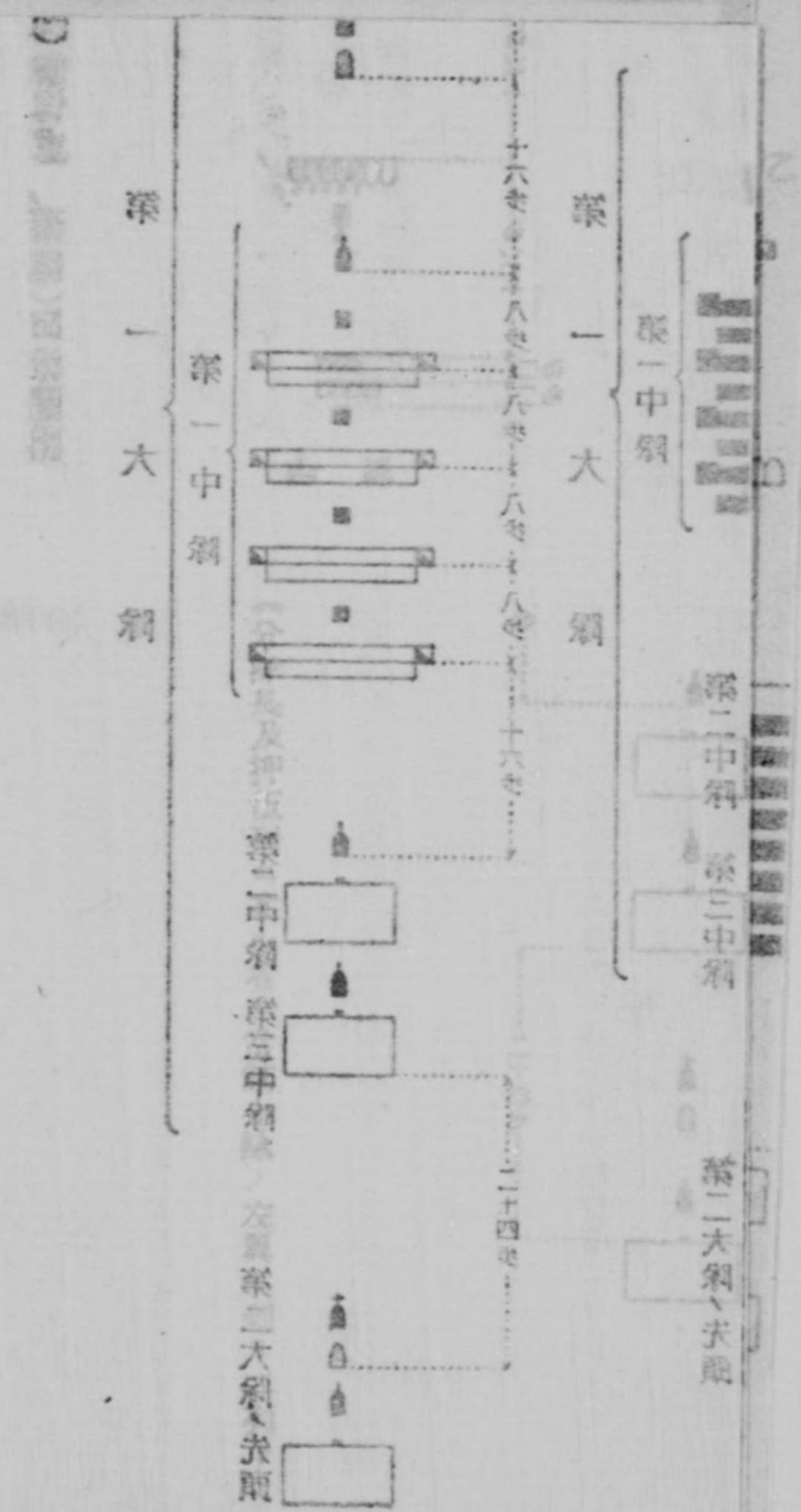
昭和四年三月二十九日

陸軍大臣 白川 義則

軍令陸第三號

小銃、輕機關銃、
拳銃射擊教範

射擊



第二章	記彈藥錄	一八二
第四章	彈藥、記錄及報告	一六三
第三篇	步兵隊、騎兵隊以外ノ諸隊ノ小銃射擊教育	一五三
第九章	防射擊場ノ警戒及危害豫	一四三
第八章	命中試驗ノ獎勵及褒賞	一四〇
第七章	距離測量	一三五
第六章	實驗射擊	一三三
第五章	檢閱射擊	一三三
第三章	特別射擊	一三〇
射擊指揮		一一九
射擊效力		一一五
小隊戰團射擊		一一〇
分隊戰團射擊		一一〇
要則		一〇八
輕機關銃		一〇八
第二節 部隊戰團射擊		一〇八

第三章	報告	一八三
第五篇	拳銃射擊	一八四
附錄		一九〇
其一	營內射擊場ヲ併用スル步兵隊射擊教育ニ關スル特別規定	一九〇
其二	營內射擊場ヲ併用スル騎兵隊輜重兵隊射擊教育ニ關スル特別規定	二〇三
其三	手榴彈使用上ノ注意	二〇〇
	曳火手榴彈	二〇〇
	手投演習用曳火手榴彈	二〇二
第一表	三〇式步兵銃射擊表	
第二表	三八式步兵銃彈道高表	
第三表	四四式(三八式)騎銃射擊表	
第四表	四四式(三八式)騎銃彈道高表	
第五表	三八式步兵銃及四四式(三八式)騎銃彈丸侵徹量	
第六表	十一年式輕機關銃射擊表	

第七	十一年式輕機關銃彈道高表	
第八	公算因數表	
第九	射擊手簿	
第十	射擊成績原簿	
第十一	命中試驗成績表	
第十二	彈藥射耗報告	
附圖		
第一	照準ノ教育ニ用フル材料	
第二	圈頭の	
第三	圈頭の	
第四	膝畫的	
第五	人像的(伏的)	
第六	集合彈探點鏡	
第七	記號板	
第八	示點竿	
第九	監的鏡	
第十	大圈頭の	
第十一	散兵的	
第十二	區劃的	
第十三		

第十四	飛行機射擊用移動的戰團射擊彈痕圖	
第十五	人像的	
第十六	丁字的、十字的	
第十七	立體的	
第十八	「ファイバー」的、土囊的	
第十九	輕機關銃(機關銃、步兵砲)的	
第二十	騎兵的	
第二十一	砲兵的	
第二十二	幕的、幕布	
第二十三	隱顯的	
第二十四	起伏裝置	
第二十五	射倒裝置	
第二十六	移動的	
第二十七	小銃(三八式步兵銃、四四式(三八式)騎銃)照尺ニ依ル密位概數	
第二十八	透明板ノ利用法	
第二十九	時計ノ利用法	
第三十	狹窄射擊用繪畫的	
第三十一		

第三十二 命中試驗的
第三十三 示號標

步兵隊射擊教育ニ關スル訓令

小銃、輕機關銃、拳銃射擊教範目次終
教訓第二號

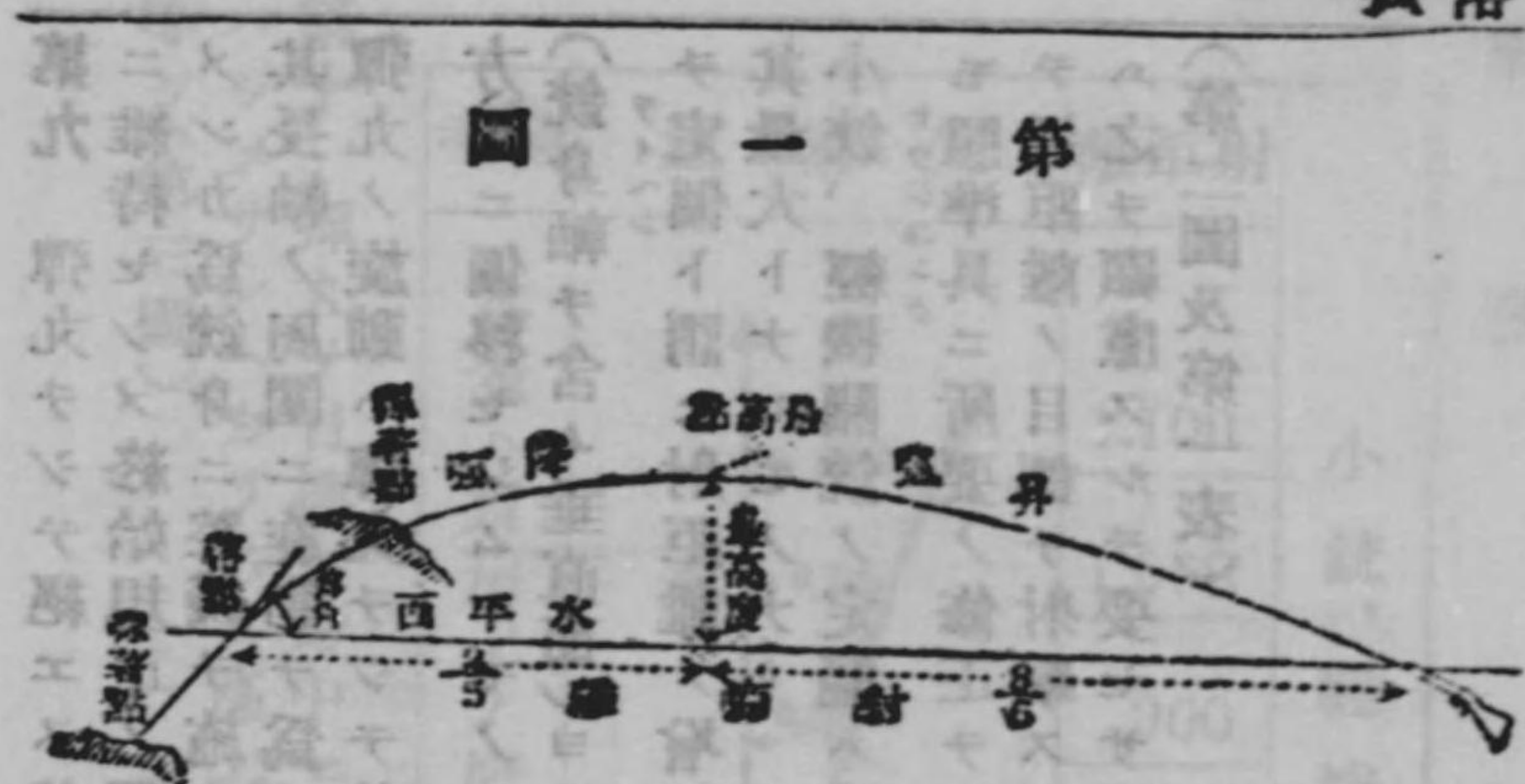
師團長ノ 權限 二二九—一七三 二三三	中、大隊 長ノ 責務	兵器尊重	射擊教育 ノ目的 演	射擊教育ノ目的ハ指揮官及兵卒ヲ訓練シテ兵種ノ特性ニ基ク各種ノ戰 第一 射擊教育ノ目的ハ指揮官及兵卒ヲ訓練シテ兵種ノ特性ニ基ク各種ノ戰 第二 射擊教育ノ目的ハ指揮官及兵卒ヲ訓練シテ兵種ノ特性ニ基ク各種ノ戰 第三 射擊教育ノ目的ハ指揮官及兵卒ヲ訓練シテ兵種ノ特性ニ基ク各種ノ戰 第四 射擊教育ノ目的ハ指揮官及兵卒ヲ訓練シテ兵種ノ特性ニ基ク各種ノ戰 第五 射擊教育ノ目的ハ指揮官及兵卒ヲ訓練シテ兵種ノ特性ニ基ク各種ノ戰
------------------------------	------------------	------	------------------	---

小銃、輕機關銃、拳銃射擊教範

第一 射擊教育ノ目的ハ指揮官及兵卒ヲ訓練シテ兵種ノ特性ニ基ク各種ノ戰
第二 射擊教育ノ目的ハ指揮官及兵卒ヲ訓練シテ兵種ノ特性ニ基ク各種ノ戰
第三 射擊教育ノ目的ハ指揮官及兵卒ヲ訓練シテ兵種ノ特性ニ基ク各種ノ戰
第四 射擊教育ノ目的ハ指揮官及兵卒ヲ訓練シテ兵種ノ特性ニ基ク各種ノ戰
第五 射擊教育ノ目的ハ指揮官及兵卒ヲ訓練シテ兵種ノ特性ニ基ク各種ノ戰

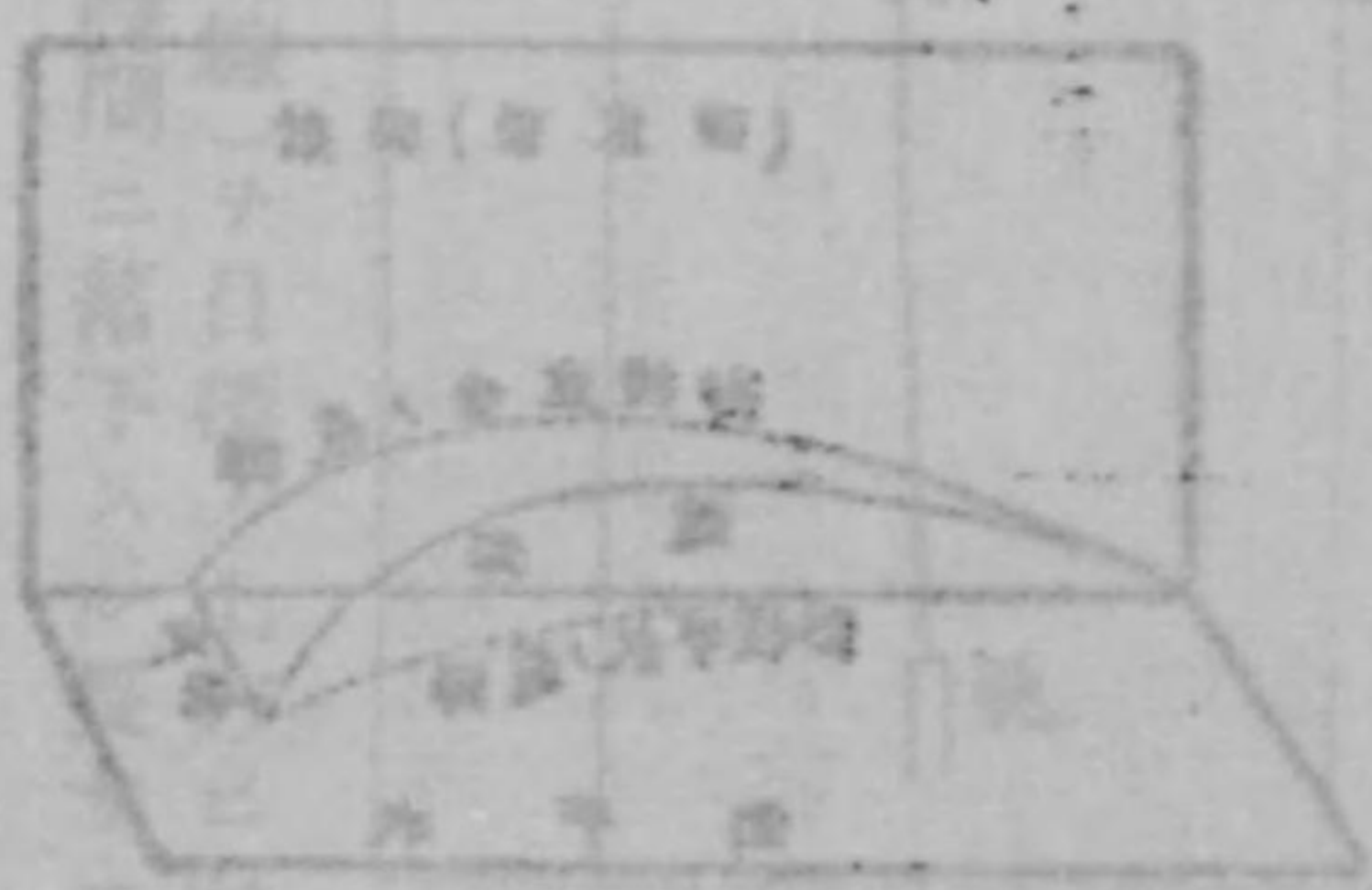
第一編 總則

昇弧、落
點、降弧



銃口ノ距離
點ノ距離
距離ノ距離

銃口ヨリ最高點ニ至ル彈道ノ部分ヲ昇弧ト謂ヒ最高點ヨリ落點ニ至ル部分ヲ降弧ト謂フ(第一圖)



初速
彈道
彈道各部
ノ名稱
最高點
彈道高
最高度

第一篇 射擊ニ關スル定説

第一章 彈道及照準具

第六 引鐵ヲ壓スルヤ擊莖前進シテ雷管ヲ衝キ裝藥ニ點火ス此際發生セル火藥瓦斯ノ壓力ハ彈丸ヲ銃腔中ニ壓進シ其速度ヲ以テ銃腔外ニ射出ス其銃口ニ於ケル彈丸ノ速度ヲ初速ト謂フ

第七 發射セラレタル彈丸重心ノ過ケル線ヲ彈道ト謂ヒ其形狀ハ重力、空氣抗力、彈丸ノ速度及旋動竝銃ノ傾度等ニ關係ス

第八 重力ハ飛行スル彈丸ヲ落下セシムルモノニシテ其落下尺度ハ經過時間ト共ニ增加ス空氣抗力ハ絶エス彈丸ノ飛行速度ヲ減シ同距離ヲ經過スルニ漸次長時間ヲ費スニ至ラシム之カ爲彈道ハ曲線狀ヲ成シ其彎曲ノ度ハ銃口ヲ遠サカルニ從ヒ益々甚シク其最高點ハ銃口ヨリ概ネ射距離ノ五分ノ三ノ所ニ在リ而シテ彈道ノ某點ニ於ケル彈丸ノ速度ヲ其點ノ存速ト謂フ

小銃及輕機關銃ノ彈丸ノ六百米ニ到ル經過時間ハ約一秒ニシテ千二百米ニ達スルニハ約三秒ヲ要ス

銃口ニ通スル水平面ノ某點ヨリ彈道ニ至ル高サヲ其距離ニ於ケル彈道高ト謂フ

ヒ最高點ノ高サヲ最高度ト謂フ小銃、輕機關銃ハ彈道低伸シ其最高度ハ約六米ナリ

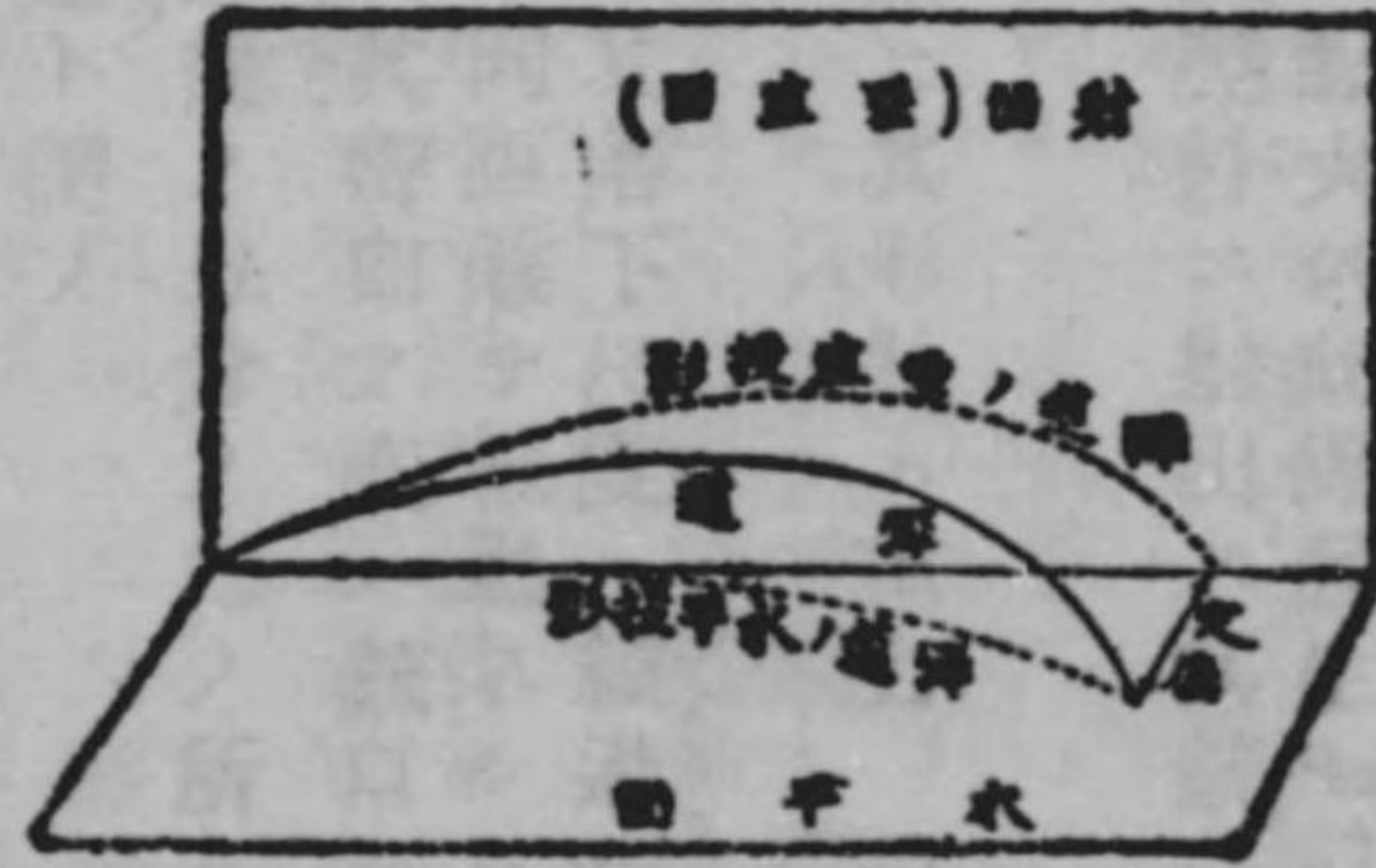
小ニシテ千米ノ彈道ニ於テモ最高度ハ約六米ナリ

旋動

定偏

第九 彈丸ヲシテ絶エス其尖頭ヲ前方ニ維持セシメ終始規正ノ彈道ヲ畫カシメンカ爲銃身ニ腔綫ヲ施シ以テ飛行間其長軸ノ周圍ニ旋動ヲ爲サシム
彈丸ノ旋動ハ彈丸ヲシテ其腔綫旋回ノ方側ニ偏移セシムルモノニシテ其射面(銃身軸ヲ含ム垂直面)ヨリ離隔スル量ヲ定偏ト謂ヒ射距離ノ増加スルニ從ヒ其量大トナルモノナリ
小銃、輕機關銃ノ定偏ハ右方ニ生スルモ照準具ニ所要ノ修正ヲ施シアルヲ以テ近距離ノ目標ヲ射擊スル場合ニ於テハ之ヲ顧慮スルヲ要セサルモノトス
(第二圖及第一表)

圖 二 第



第一表

射距離	定偏量	考備
1.100	2.00	本表ハ實用上ノ概數ヲ示スモノナリ
1.000	1.80	
900	1.60	
800	1.40	
700	1.20	
600	1.00	
500	0.80	
400	0.60	
300	0.40	
	0.20	

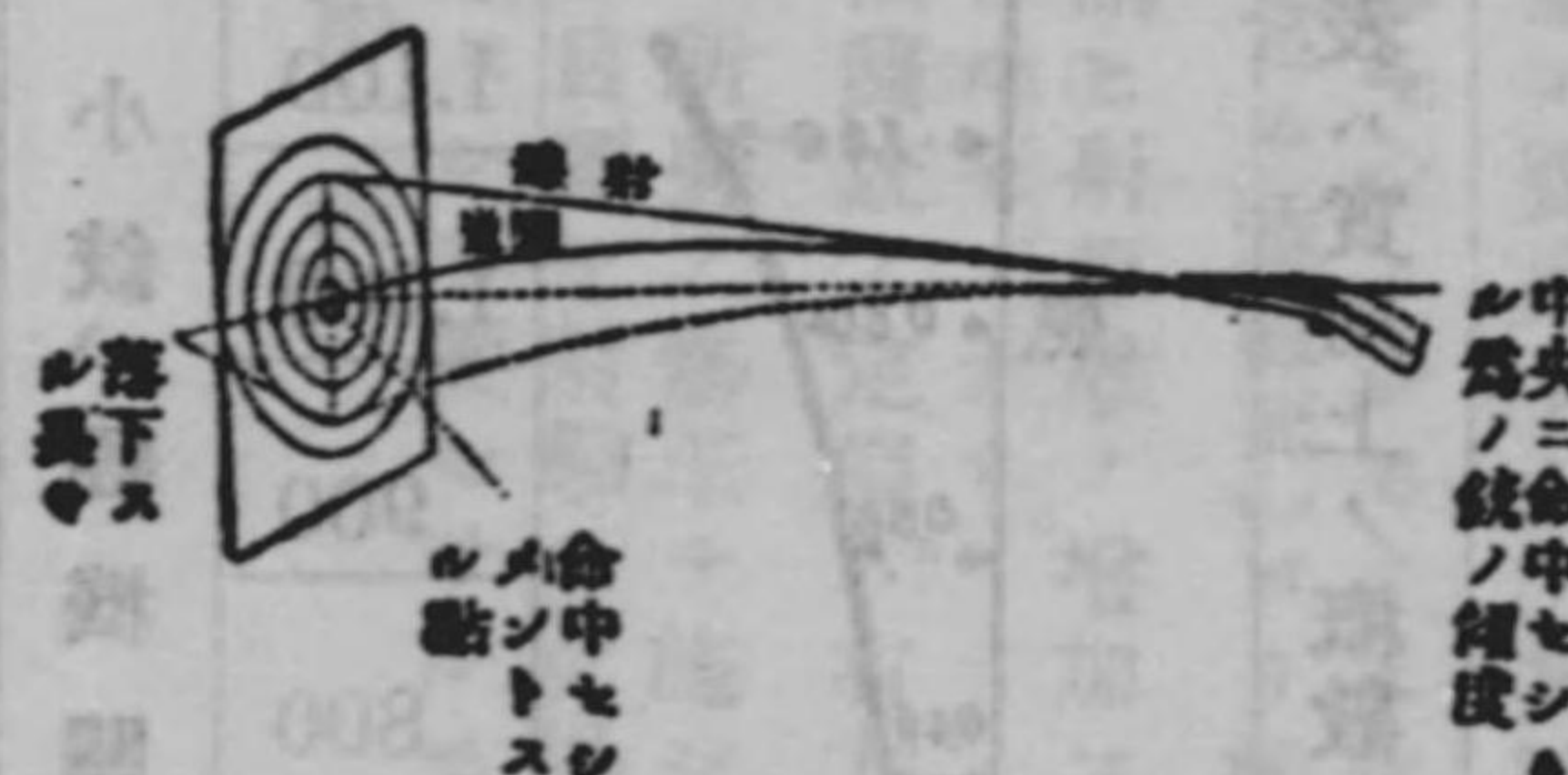
小銃、輕機關銃、定偏量 (米)

第十 彈丸ヲ目標ニ命中セシムルニハ射線(銃身軸ノ延長)ヲ目標ノ上方ニ向ハシメサルヘカラス其高上ノ度ハ彈丸ノ目標ニ達スル時間ニ落下スル長サニ等シ(第三圖)

射線指向

照準
照準具
照準線
照準點
射角

圖三第

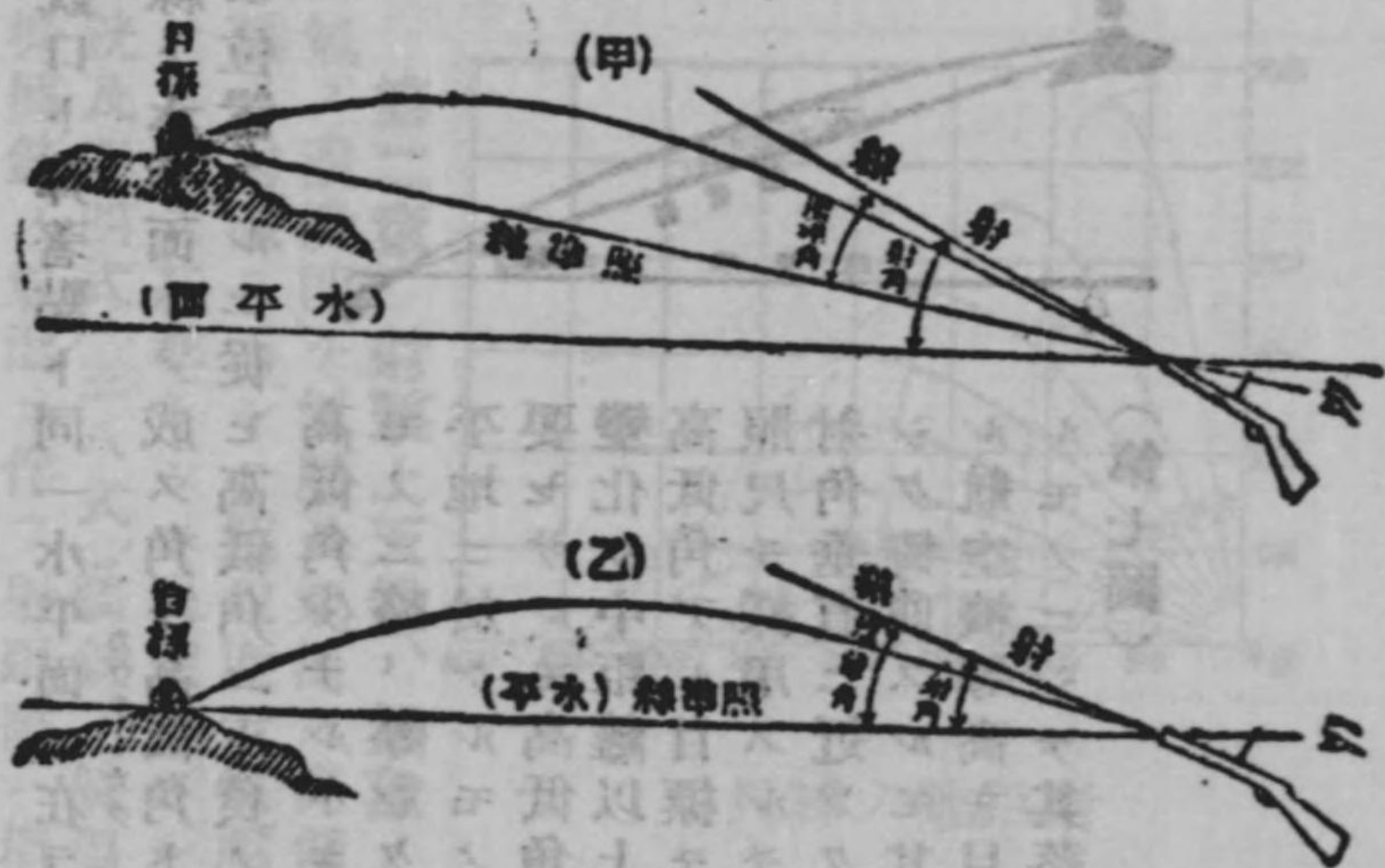


各射距離ニ應スル傾度ヲ銃身ニ附與シ且照準ヲ行フ爲銃身上ニ照準具ヲ備フ
照準具ハ照星及照尺ヨリ成リ照尺ニハ照門ヲ備フ
照門上縁ノ中央ヨリ照星頂ヲ通視スル直線ヲ照準線、一點ニ照準線ヲ向クルヲ照準、照準線ヲ向クル點ヲ照準點、射線ト照準線トノ成ス角ヲ照準角、射線ト水平面トノ成ス角ヲ射角ト謂フ照準線水平ナルトキハ照準角ハ射角ト等シキモノナリ(第四圖)

發射角
發射線

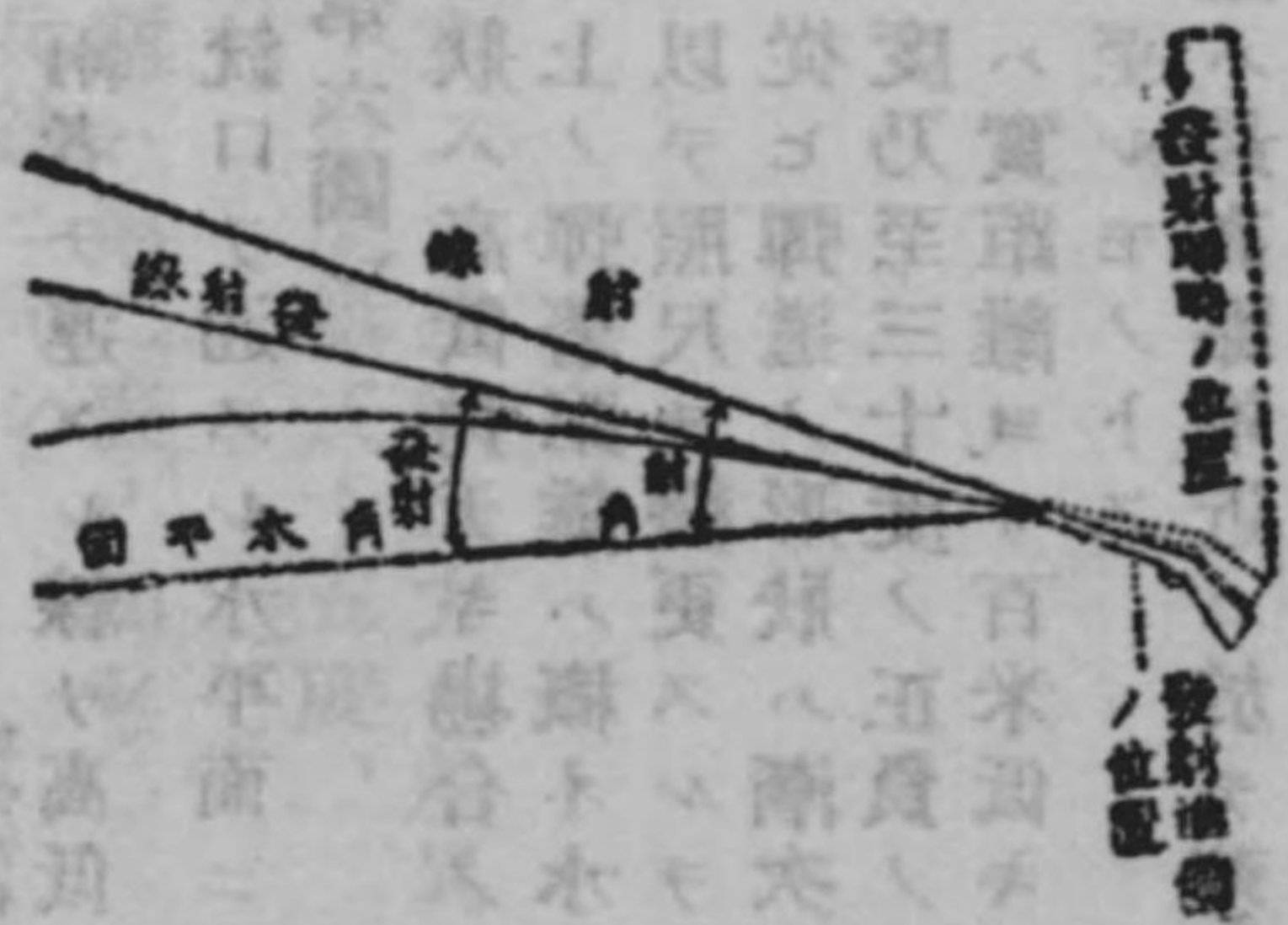
圖四第

角射ト角準照



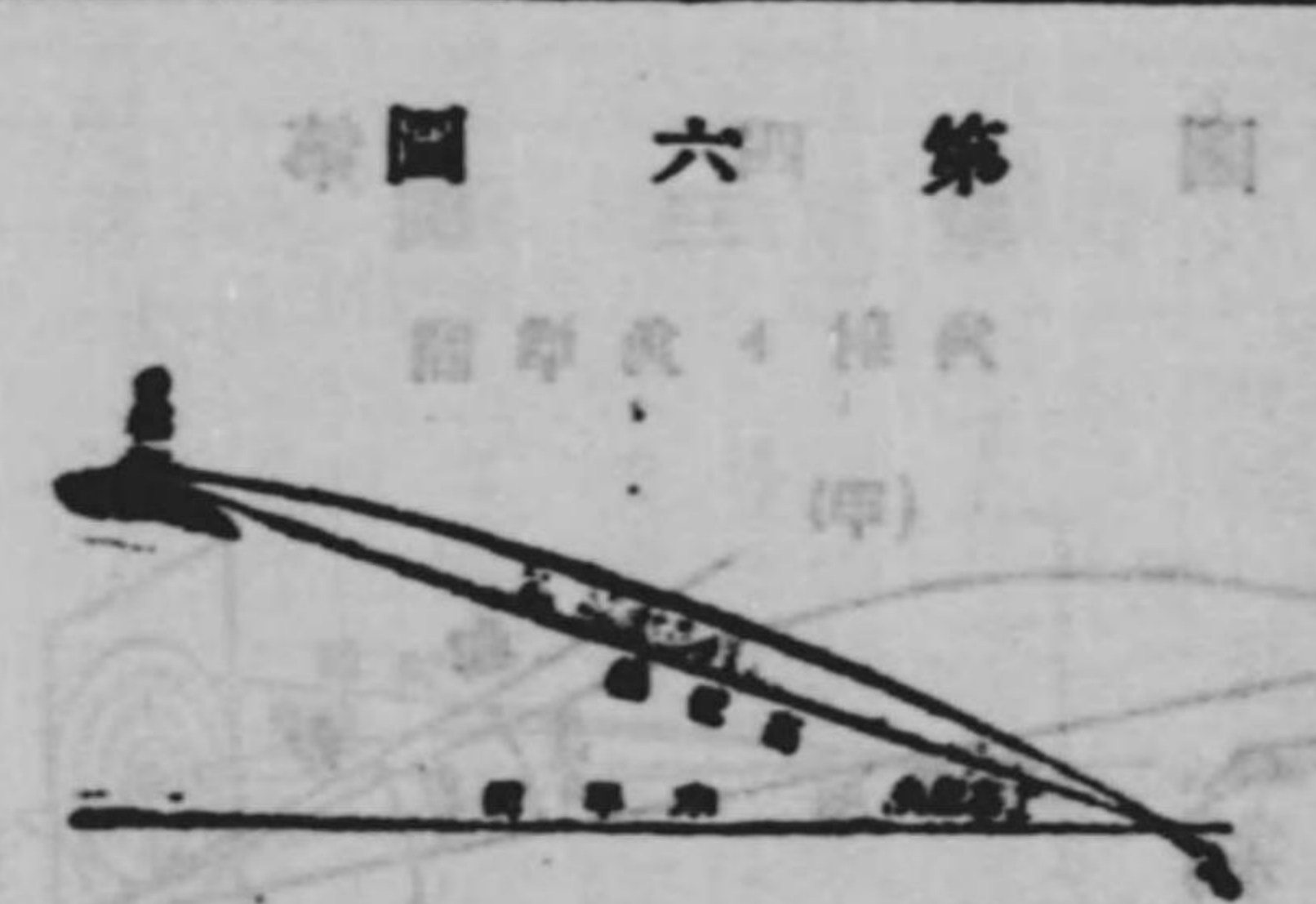
圖五第

角射ト角射發



第十一 彈丸發射時銃口ニ於ケル彈道ノ切線ヲ發射線、發射線ト水平面トノ成ス角ヲ發射角ト謂フ發射角ハ射角ト僅少ノ差アルモノナリ(第五圖)

高低線
高低角



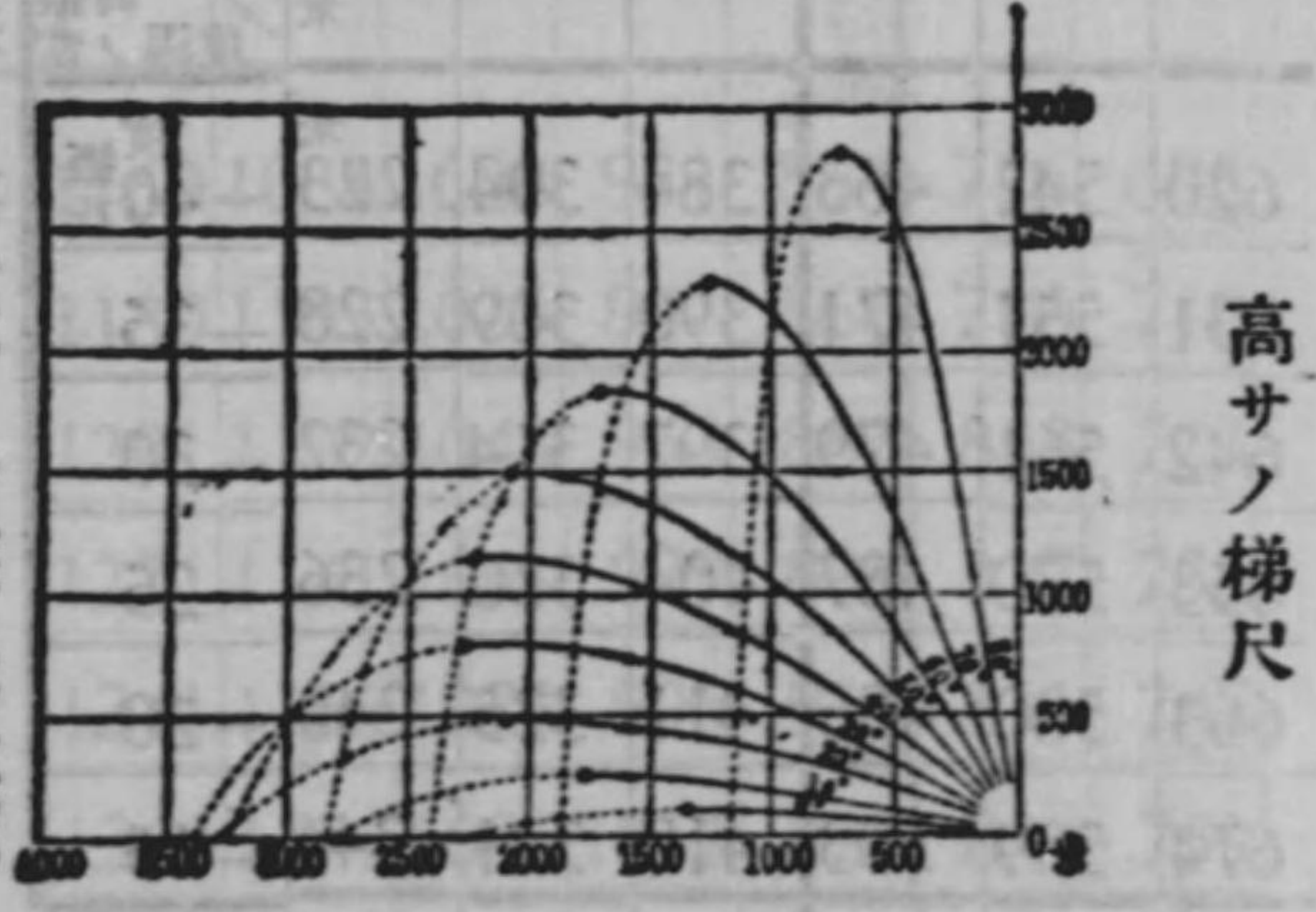
第十二 銃口ト彈著點ト同一水平面ニ在ラサルトキ兩者ヲ連メル線ヲ高低線トシ、高低線ト水平面トノ成ス角ヲ高低角ト謂フ彈著點銃口ヲ通スル水平面ニ對シ上下ニ位置スルニ從ヒ高低角ニ正負ノ別ヲ生ス(第六圖)

高低角少ナルトキハ彈道ノ形狀ハ高低角ナキ場合ノモノニ略々等シク從テ高低線上ノ彈著距離ハ概ネ水
平地ニ於ケルモノニ等シキヲ以テ照尺ヲ變更スルヲ
要セサルモ高低角大トナルニ從ヒ彈道ノ形狀ハ漸次
變化シ中距離以上ニ於テ十五度乃至三十度ノ正負ノ
高低角アル目標ヲ射撃スルニハ實距離ヨリ百米低キ
照尺ヲ採用スルヲ可トスルニ至ルモノトス
射角垂直ニ近ツクニ從ヒ彈道ハ最高點附近ニ於テ著
シク彎曲スルモ其他ノ部分ハ直線狀ニ接近スルニ至
ル航空機等高空目標ノ射撃ハ此彈道ノ昇弧ヲ利用ス
ルモノニシテ其落下尺度ハ顧慮セサルヲ通常トス
(第七圖)

空氣抗力
ノ差異

圖七第

圖見概道彈銃小



尺梯ノ距離射

備考
彈道上ノ黑點ハ最高點ヲ示ス

第十三 空氣ノ濃淡即チ氣壓及氣温ノ高低等ハ彈丸ニ對スル空氣抗力ニ差異ヲ生シ射距離ヲ増減ス而シテ照尺度ハ氣壓七百六十托、氣温攝氏十五度、天候靜謐ナルトキヲ基準トシテ決定シタルモノナリ

三八式步兵銃及四四式(三八式)騎銃ノ氣温ニ伴フ射距離ハ第二表ノ如シ

十一年式輕機關銃ノ氣温ニ伴フ射距離ハ概ネ三八式步兵銃ニ同シ

表離距射フ伴ニ温

考 備	1500	1400	1300	1200	1100	1000	900
ノア表	1160	1084	1008	931	854	776	698
トル中	1180	1103	1025	947	868	790	710
トノノ	1201	1122	1043	963	883	803	723
看トノ	1221	1141	1061	979	898	817	735
做キハ	1241	1160	1078	995	913	831	747
スハノ	1262	1179	1096	1012	928	844	759
ヘシノ	1282	1197	1113	1028	943	857	771
三ノ	1302	1216	1131	1044	958	871	783
耗ノ	1322	1235	1148	1060	972	884	796
増ノ	1342	1254	1166	1077	987	898	808
(減)ノ	1363	1273	1183	1093	1002	911	820
ハノ	1383	1292	1201	1109	1017	925	832
氣場	1403	1311	1219	1125	1032	939	844
温合	1424	1330	1236	1141	1047	952	856
一ト	1444	1349	1254	1158	1062	966	868
度ノ	1464	1368	1271	1174	1076	979	881
故ノ	1484	1386	1289	1190	1091	992	893
減(増)ニ							
等ノ							
高低							
差							

氣ノ銃兵歩式八三

800	700	600	500	400	300	尺	射擊管
620	542	463	384	304	223	米	度温ノ
631	551	471	390	309	228	米	度温ノ
642	561	479	397	314	232	米	度温ノ
653	570	487	404	320	236	米	度温ノ
663	580	495	411	325	240	米	度温ノ
674	589	503	418	331	244	米	度温ノ
685	599	511	424	336	248	米	度温ノ
696	608	520	431	341	252	米	度温ノ
707	618	528	438	347	256	米	度温ノ
717	627	536	444	352	260	米	度温ノ
728	637	544	451	358	264	米	度温ノ
739	646	552	458	363	268	米	度温ノ
750	655	560	465	368	272	米	度温ノ
761	665	568	472	374	276	米	度温ノ
771	674	576	478	379	280	米	度温ノ
782	684	584	485	385	284	米	度温ノ
793	693	592	492	390	288	米	度温ノ

第二表 其一
 空氣ハ土地ノ高サチ増シ氣温ノ上昇スルニ伴ヒ稀薄トナルモノニシテ標高三
 百米ノ高地ハ氣壓三十耗ノ減少チ來シ射距離ニ及ス影響ハ氣温約十度ノ上昇
 二等シ而シテ基準氣温ニ比シ十度ノ差ハ射距離五百米ニ於テ其彈著點上下ニ
 約十種ノ遠近ニ約十五米ヲ轉移スルニ過キス故ニ近距離ニ於テハ通常照尺チ
 修正スルチ要セサルモノトス

影ニ風
響及ノ
ホ彈
ス丸

第十四
(横風)ハ彈丸ヲ側方ニ偏セシム其量ハ射距離及風速ノ増加スルニ從ヒ益々大ナルニ過キサテ約七米ノ増減ヲ生ス而シテ風速十米ナルモ増減量ハ其二倍トナルニ過キサテ通常修正ヲ要セス然レトモ横風ノ彈丸ニ及ス影響ハ比較的大ニシテ

表離距射ヲ俾

考 備	1500	1400	1300	1200	1100
ノア表 トル中 トノノ 看トキ 做スハ ヘシ氣 温ハ 氣温 壓三 耗七 ノ百 増六十 (減)ノ ハ場 氣合 温ト 一ス 度ノ 故ニ (減)若 (増)氣 ニ壓 等ノ シ高低 キ差 モ	1252	1169	1085	1002	918
	1275	1190	1105	1020	935
	1267	1211	1124	1038	951
	1320	1232	1144	1056	968
	1342	1253	1163	1074	984
	1365	1274	1183	1092	1001
	1387	1295	1202	1110	1017
	1410	1316	1222	1128	1034
	1432	1337	1241	1146	1050
	1455	1358	1261	1164	1067
	1477	1379	1280	1182	1083
	1500	1400	1300	1200	1100
	1523	1421	1320	1218	1117
	1545	1442	1339	1236	1133
	1568	1463	1359	1254	1150
	1590	1484	1378	1272	1166
	1613	1505	1398	1290	1183

ニ温氣ノ銃騎(式八三)式四四

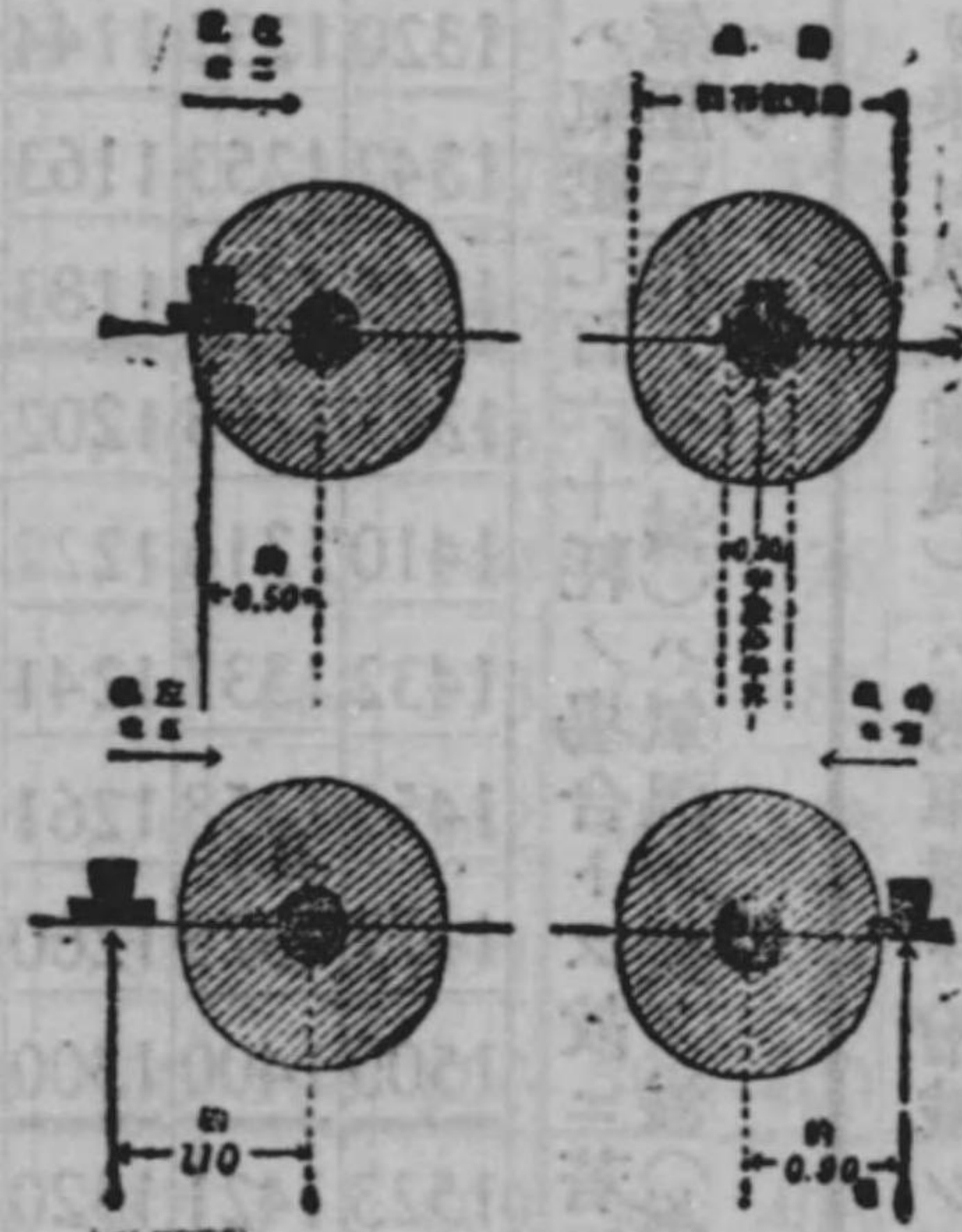
1000	900	800	700	600	500	400	300	米尺 射擊 時 度温ノ 度攝氏
835	751	668	584	501	417	334	250	-40
850	765	680	595	510	425	340	255	-35
865	778	692	605	519	432	346	259	-30
880	792	704	616	528	440	352	264	-25
895	805	716	626	537	447	358	268	-20
910	819	728	637	546	455	364	273	-15
925	832	740	647	555	462	370	277	-10
940	846	752	658	564	470	376	282	-5
955	859	764	668	573	477	382	286	0
970	873	776	679	582	485	388	291	+5
985	886	788	689	591	492	394	295	+10
1000	900	800	700	600	500	400	300	+15
1015	914	812	711	609	508	406	305	+20
1030	927	824	721	618	515	412	309	+25
1045	941	836	732	627	523	418	314	+30
1060	954	848	742	636	530	424	318	+35
1075	968	860	753	645	538	430	323	+40

第二表 其二

修正ヲ行フヲ要スルモノトス(第八圖)
射線ニ直角ニ吹ク風ニ依ル方向偏差量ハ第三表ノ如シ

圖 八 第

射距離五百米ニ於ケル風ノ影
(ス示例キ就ニ銃兵歩式八三)



光線ノ影

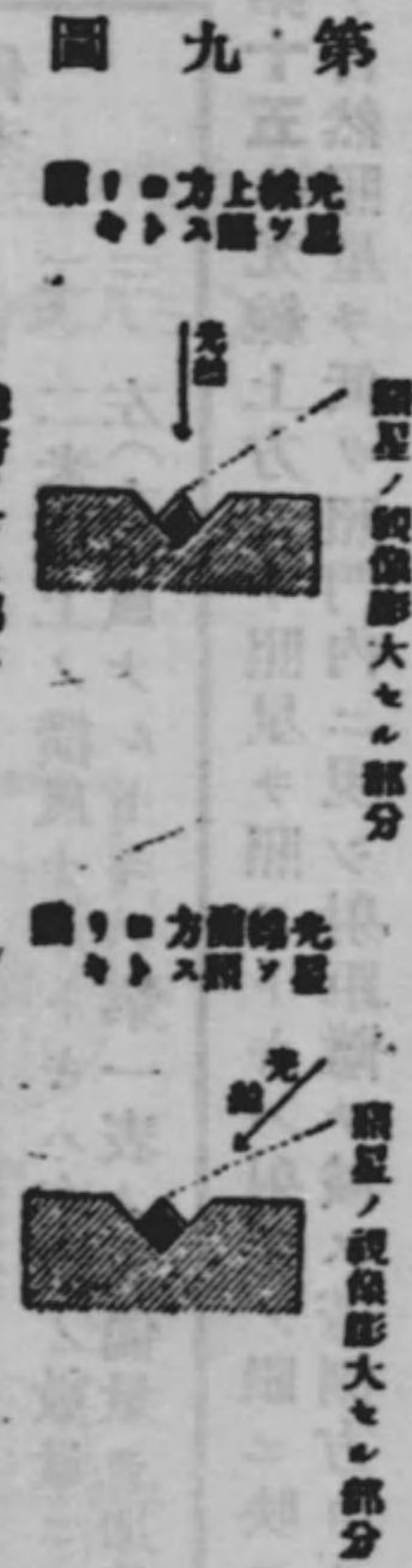
第三表

備考	偏差	射距	横風一米ニ依ル方向偏差量 (米)
一 本表ハ三八式歩兵銃ニ就キ實用上ノ概數ヲ示スモノニシテ四式(三八式)騎銃、十一年式輕機關銃ニ就キテモ概ネ同様ナリ	0.05	300	
二 二米以上ノ横風ナルトキハ本表ノ數量ニ風速ノ米數ヲ乗ス	0.10	400	
三 左(右)風ナルトキハ第一表ノ定偏差量ヲ加(減)スルモノトス	0.20	500	
	0.30	600	
	0.40	700	
	0.50	800	
	0.70	900	
	0.90	1,000	

第十五 光線上方ヨリ照星ヲ照ストキハ射手ノ眼ニ映スル視像大トナルヲ以テ自然照星ヲ低ク照門内ニ現シ射距離ヲ減ス若側方ヨリ之ヲ照ストキハ照星ノ輝ク方ノ視像他ノ方ヨリ膨大スルカ故ニ其膨大セル部ヲ以テ照準シ自ラ眞ノ照星頂ヲ一側ニ偏シテ照門内ニ現シ彈丸ヲシテ暗黒ナル方ニ偏セシム(第九圖)

集束彈道
射彈散布
ノ原因
垂直被彈

曇天、晴天、森林内等總テ照星ヲ視ルコト明瞭ナラサルトキ及不明瞭ナル目標ヲ射撃スル場合ニハ自然照星ヲ高ク現シ從テ射距離ヲ増大ス

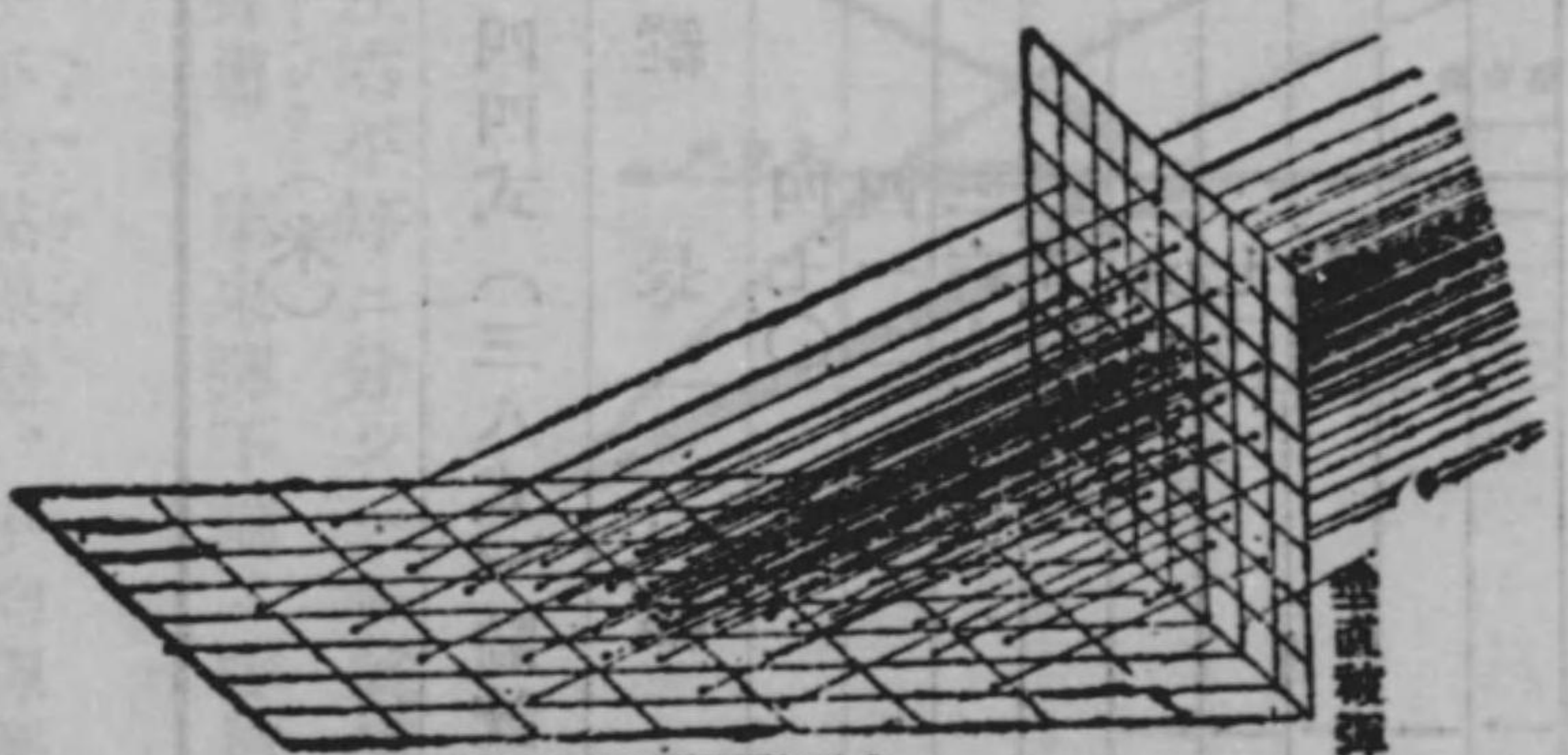


第三章 射彈ノ散布

第十六 彈丸ハ諸種ノ原因ニ因リ縦ヒ同一ノ銃ヲ用ヒ銃身ノ位置方向ヲ同一ニシテ射撃ヲ行フモ每發其彈道ヲ同シクセス某範圍内ニ散布スヘシ而シテ多數ノ彈丸ヲ發射スルトキハ其彈道ハ恰モ束葉ノ如ク曲圓錐形ヲ成スモノニシテ射彈ハ中央ニ近ツクニ從ヒ益々稠密トナルモノトス之ヲ集束彈道ト謂フ第十七 射彈散布ノ原因ハ銃器及彈藥構造上ノ差異、天候、氣象ノ影響、目標ノ明暗、射手ノ照準、擊發時ニ犯ス過誤ニ依ルモノニシテ又射撃位置、姿勢、體力、精神狀態、射撃速度ニモ關係ス就中操作ノ不良ニ起因スルモノハ其影響最モ甚シキモノトス

面
水平被彈
被彈地

ハ小銃ニ在リテハ概ネ其幅ヨリ大ニシテ輕機關銃ニ在リテハ九百米ニ至ルマテ其幅ヨリ小ナルヲ通常トス
水平面ニ於ケル集束彈ノ散布面ヲ水平被彈面、其地上ニ於ケルモノヲ被彈地ト謂フ而シテ此等ノ縦長ハ垂直被彈面ノ高サニ比シ著シク長大ナルヲ通常トス(第十圖)
被彈地ノ幅ハ射距離ト共ニ増大スルモ縦長ハ落角ノ關係上却テ減縮スルモノトス此關係ヲ部隊射撃ニ就キテ示セハ第四表及第十一圖(甲)ノ如シ其他被彈地ノ形狀ハ地面ノ傾斜ニ依リテ變化ス(第十一圖(乙))



第十圖

彈著點ニ
關スル諸
定義

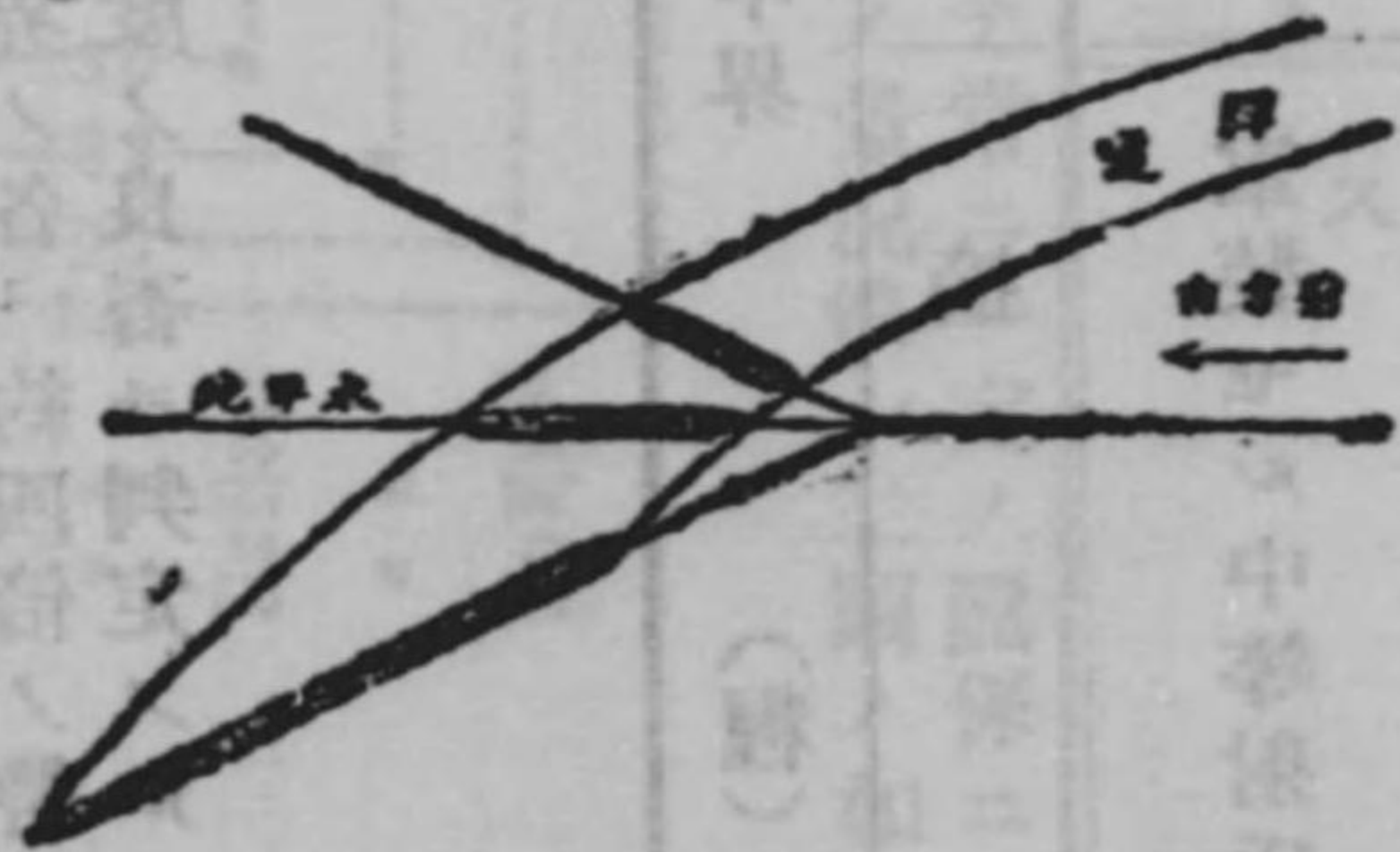
第十九 垂直(水平) 砲彈面ノ總彈著ヲ上下(遠近) 左右平等ニ分ツヘキ縱横十字線ノ交點ヲ平均彈著點、之ニ通スル彈道ヲ平均彈道、集束彈下端ノ彈道ヲ最下彈道ト謂フ

命中セシメントスル點ト平均彈著點トノ離隔ノ量ヲ平均點躲避、平均彈著點

第十圖
被擊射隊部銃兵歩式八三(甲)
圖見概幅及長縱ノ地彈



地彈被ル依ニ斜傾ノ面地(乙)
況景ノ



第四表

射距離		小銃部隊射擊被彈地ノ縱長及幅	
五	〇	一五	一三
四	〇	一六	一一
三	〇	一八	一〇
二	〇	一九	九
一	〇	二一	八
〇	〇	二三	七
九	〇	二五	六
八	〇	二八	五
七	〇	三二	四
六	〇	三七	四
		七二	
		三二	
		二六	
		四四	
		三六	
		二四	
		二九	
		二七	
		二四	
		二八	
		二七	
		二一	
		一九	
		九	
		三	
		一	
		〇	
		八	
		七	
		六	
		五	
		六	
		五	
		三	
		二	
		一	
		〇	
		八	
		七	
		六	
		五	

(米)

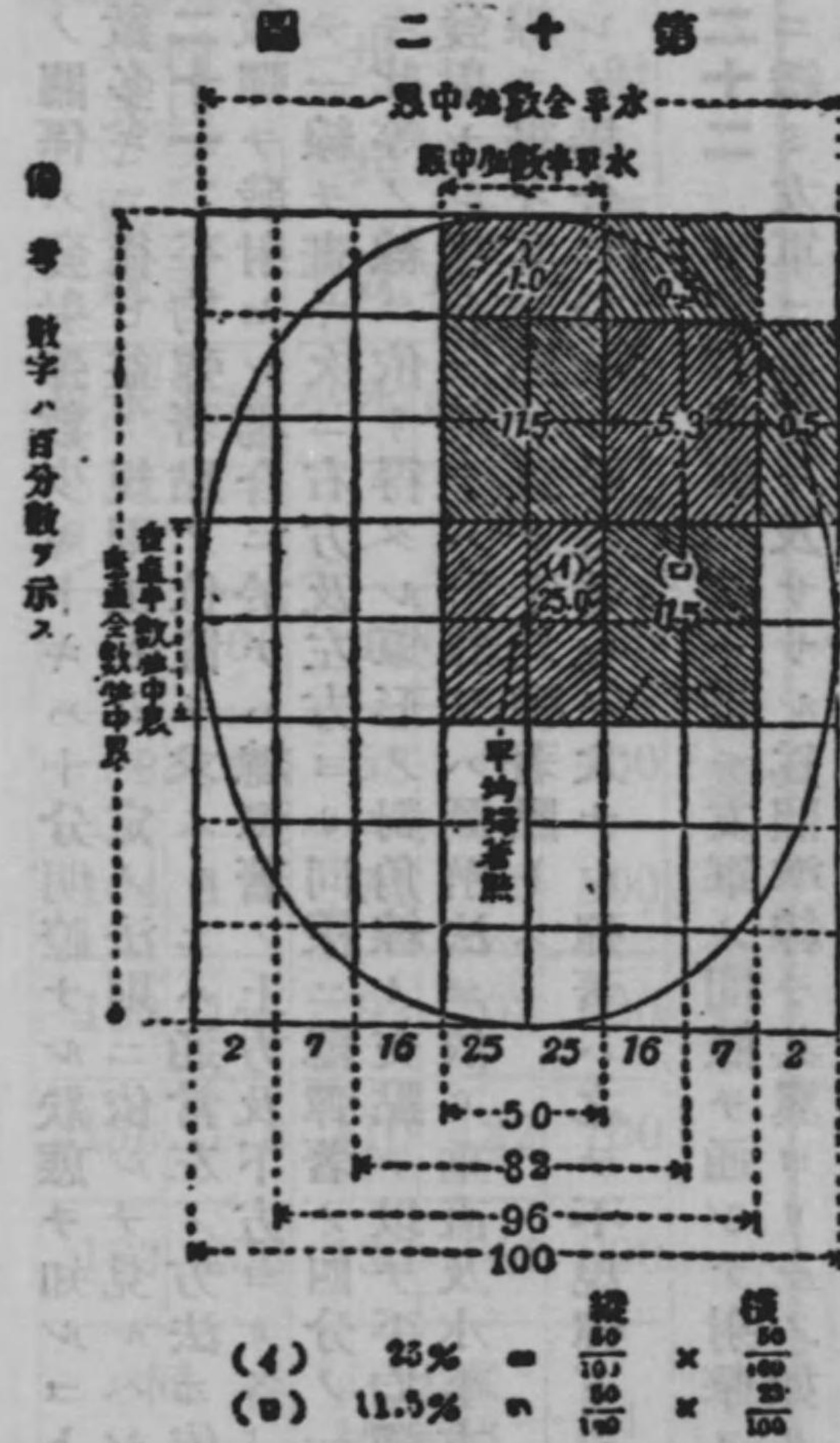
半數必中

ト各彈著點トノ離隔ノ量ヲ躲避ト謂フ兩者ノ量小ナルニ從ヒ命中精度良好ナルモノトス
 多數射彈ノ垂直被彈面ニ於テ平均彈著點ヲ中央トシ其兩側ニ於テ總彈著ノ半數ヲ含ム部分ヲ垂直線ヲ以テ區劃スルトキハ其兩界線ハ平均彈著點ヨリ等距離ニ在ルモノニシテ此兩界線間ノ長サヲ水平半數必中界ト謂ヒ同様ニ水平線ヲ以テ區劃シタル場合ニ於テハ之ヲ垂直半數必中界ト謂フ而シテ射彈ノ全數ハ平均彈著點ヲ中心トスル此兩半數必中界ノ各々約四倍ノ帶内ニ收容セラルルモノニシテ半數必中界ノ大小ハ射擊精度ノ良否ヲ判定スルノ基準トナルモノナリ(第五表)
 右ノ關係ハ水平被彈面ニ在リテモ亦同様ナリ

射距 (米)	單一銃ヲ以テスル射擊ノ半數必中界		摘 (糎)
	平水	直垂	
200	12	13	軍裝セル中等射手ヲ以テ 伏射ニテ射擊セル結果ト
300	18	19	
400	24	26	
500	30	32	
600	36	39	

彈著疎密ノ景況

第二十 多數射彈ノ彈著ハ平均彈著點ニ對シテ常ニ一定ノ關係ニ散布スルモノニシテ垂直(遠近)及水平方向ニ於ケル疎密ノ景況第十二圖ノ如シ



四式 八式) 騎銃	三	
	平水	直垂
	13	14
	22	23
	31	32
	41	42
	53	54

ス

平均彈著
點ノ求メ
方

間隙射擊

超過射擊

多數銃ノ

右ノ關係ハ發射彈數少キトキハ十分明瞭ナル状態ヲ知ルコト能ハサルモ發射
彈數多キニ從ヒ益々規則正シク一定ノ法則ニ依ルヲ見ルヘシ
第二十一 平均彈著點ノ位置ヲ求ムルニハ通常左ノ方法ニ依ル
多數彈ヲ發射セル場合ニ於テハ總彈著ノ上方及下方ヨリ各々其四分ノ一ヲ算
ヘテ一線ヲ畫キ次ニ右方及左方ヨリ同様ニ總彈著ノ四分ノ一ヲ算ヘテ一線ヲ
畫キ此等ノ線ニ依リ得タル矩形ノ對角線ノ交點ヲ以テ平均彈著點トス少數彈
ヲ發射セル場合ニ於テハ計算又ハ圖解法ニ依リ垂直及水平方向ニ總彈著ノ平
分線ヲ畫キ其交點ヲ以テ平均彈著點トス
何レノ場合ニ於テモ躲避著シク大ナル彈著ハ之ヲ不規彈トシ除外スルヲ可ト
ス
第二十二 小銃、輕機關銃ヲ以テ友軍ノ間隙ヲ通シテ射擊スルニハ射彈ノ散
布ニ鑑ミ友軍ニ危害ヲ及ササル爲照準線ヲ其翼ヨリ左ノ如ク離隔セシムルヲ
要ス
射擊位置ト友軍トノ距離 五十米以內 三米
百五十米以內 四米
百五十米以上ニ通スル場合ニ於テ實施
第二十三 小銃、輕機關銃ヲ以テスル超過射擊ハ射擊位置ト友軍トノ距離通
常百五十米以內ニ在リテ照準線友軍ノ頭上三米以上ニ通スル場合ニ於テ實施
スルコトヲ得
第二十四 多數銃ヲ以テ同一目標ニ對シ同時ニ射擊スルトキハ各銃ノ平均彈

集束彈

第六表

四式(三騎銃)		三八式		射距(米)	部隊射擊半數必中界	摘	要
平水	直垂	平水	直垂				
				200			
60	66	42	48	300			
82	92	58	64	400			
104	118	74	82	500			
130	144	92	102	600			
156	174	110	122	700			
182	206	130	144	800			
同		軍裝セル中等射手ヲ以テ伏射ニテ射擊セ					
同		結果トス					
右							

著點ハ相一致セス單一銃ノ射擊ニ比シ集束彈道ノ大サヲ増シ被彈面ヲ擴大ス
又輕機關銃ヲ以テ同一目標ニ對シ多數回ノ點射ヲ反復スルトキハ毎回ノ集束彈
筒々ニ分離スルコトアリ然レトモ多數彈ヲ發射スルトキハ兩者共其射彈散布
ノ景況ハ尙單一銃ニ於ケルカ如シ
部隊射擊ニ於ケル半數必中界第六表ノ如シ

危險界

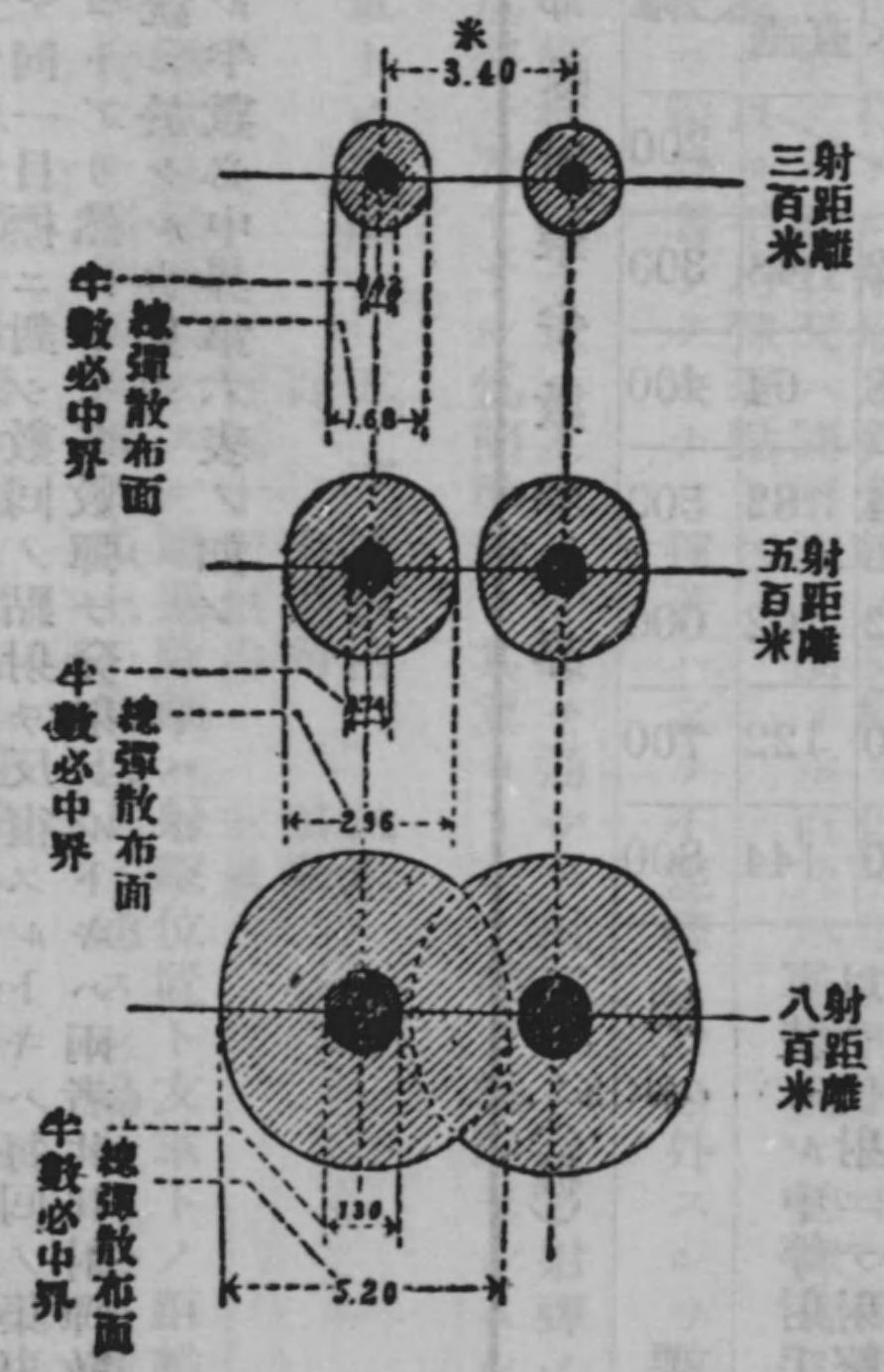
標ニ對スル集束彈各、獨立シテ凝集スルモ射距離ノ増大スルニ從ヒ逐次其被
彈面ヲ擴大シ三八式歩兵銃ニ在リテハ四步間隔ノ散兵ニ對シテハ八百米附近
ニ至リ射彈ハ目標線全部ニ略、平等ニ散布ス而シテ目標ノ景況明瞭ナラサル
トキニ在リテハ一層近キ距離ニ於テモ射彈ハ目標線全部ニ散布スルニ至ルモ
ノトス(第十三圖)

第二十六 彈道ノ目標高ヲ超過セサル地界ノ長サヲ危險界ト謂ヒ其長短ハ射
距離、目標高及地形殊ニ目標所在地ノ傾斜、射擊位置ト目標位置トノ比高等
ニ依リ變化スルモノナリ(第十四圖及第七表)

被彈地ノ縱長ニ最下彈道ノ危險界ヲ合シタル地域ヲ掃射地帯ト謂フ(第十五
圖)

散兵ニ對
スル射彈
散布

第二十圖
散兵目標ニ對スル射彈布散ノ景況
(示例キ就ニ銃兵步式八三)



第二十五 間隔大ナル散兵目標ニ對シテ射擊スルトキ近キ距離ニ於テハ各目

輕機關銃		十一年式	
平水	直垂		
29	26		
40	36		
55	49		
72	66		
91	87		
		點射ヲ反復セル結果トス	

標目歩徒			目乗 標馬	銃種	射距離	水平地上ニ於ケル危險界
委伏	委膝	委立				
400	400	400	400	歩三八式 兵銃式 (三)	400	
123	400	400	400	騎銃 (三)	400	
78	500	500	500	歩三八式 兵銃式 (三)	500	
65	500	500	500	騎銃 (三)	500	
51	125	600	600	歩三八式 兵銃式 (三)	600	
44	101	600	600	騎銃 (三)	600	
36	80	158	700	歩三八式 兵銃式 (三)	700	
31	67	128	240	騎銃 (三)	700	

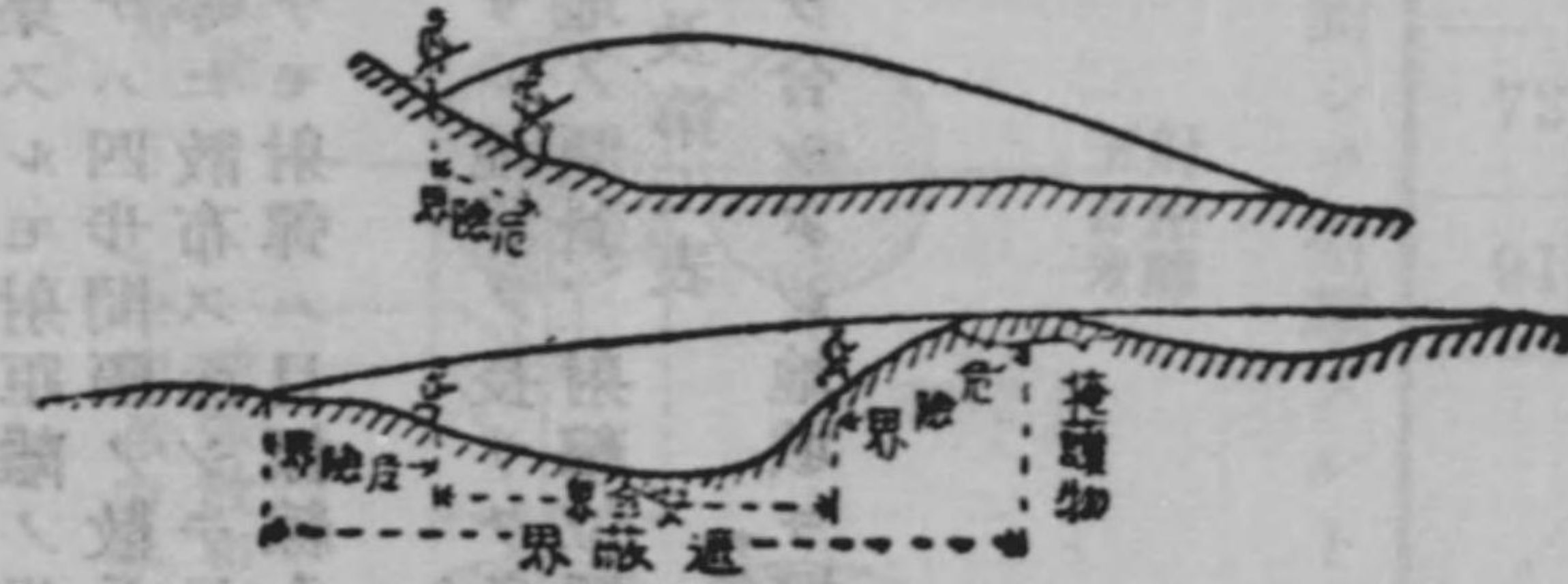
第七表

圖四十第

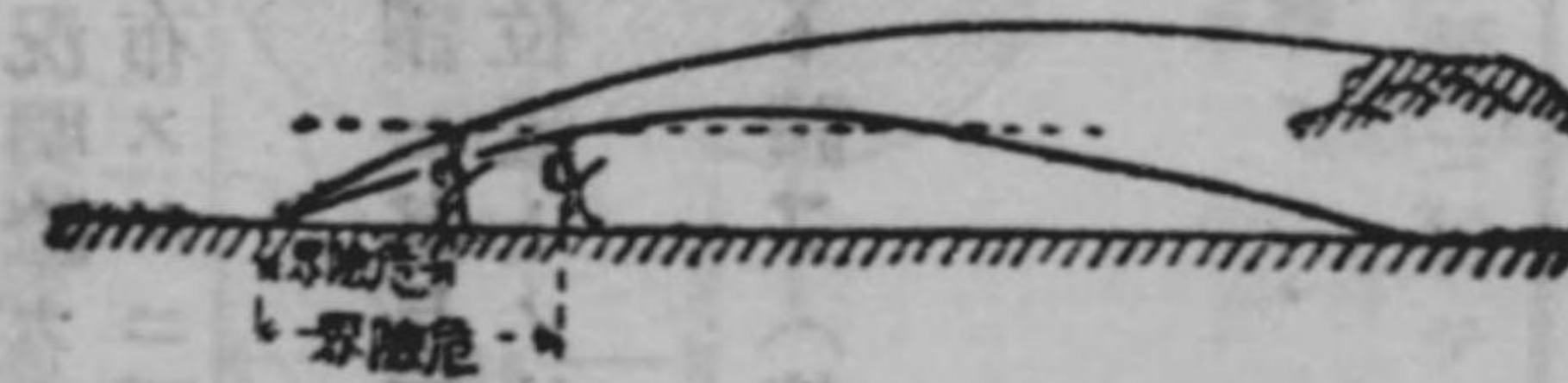
界險危ルス關ニ高標目及離距射(甲)
(ス示例キ就ニ銃兵歩式八三)



係關ノト界險危ト形地(乙)



係關ノト界險危ト置位擊射(丙)



遮蔽界
安全界

第二十七 掩護物ノ基脚ヨリ其頂點ヲ通過スル彈道ノ彈着點ニ至ル距離ヲ遮蔽界、遮蔽界中目標ノ全部危險ヲ免ルルヲ得ヘキ地界ヲ其目標ノ安全界ト謂フ（第四圖）
安全界ノ長サハ掩護物ノ高サ、落角ノ大小及目標ノ高サニ應ジテ變化スルモノニシテ彈道ノ低伸スルニ從ヒ同一掩護物ニ對シテモ其安全界ヲ増スモノナリ故ニ近キ距離ニ於テハ小ナル地物ト雖之ヲ利用セハ大ナル價値アルモノトス

第四章 銃ノ性能
第一節 三八式步兵銃及四四式（三八式）騎銃ノ性能

步兵銃
騎銃
附表指示

第二十八 三八式步兵銃ノ銃口前二十五米ニ於ケル存速ハ七百四十七米ニシテ其最大射距離ハ約四千米ナリ
第二十九 四四式（三八式）騎銃ノ銃口前二十五米ニ於ケル存速ハ六百九十三米ニシテ其最大射距離ハ概ネ三八式步兵銃ニ同シ
第三十 發射角、落角、半數必中界、危險界、方向偏差（橫風）、經過時間、

圖 五 十 第



十一年輕
機
附表指示
發射限度

射擊教育
ノ區分

存速及彈道高ハ三八式步兵銃ニ在リテハ附表第一、第二、四四式（三八式）騎銃ニ在リテハ附表第三、第四、彈丸ノ侵徹量ハ附表第五ノ如シ
第三十一 銃口前二十五米ニ於ケル存速ハ七百二十一米ニシテ其最大射距離ハ概ネ三八式步兵銃ニ同シ
第三十二 發射角、落角、半數必中界、危險界、方向偏差（橫風）、經過時間、存速及彈道高ハ附表第六、第七ノ如シ
第三十三 彈丸ノ侵徹量ハ概ネ三八式步兵銃ニ同シ
第二篇 射擊教育
通則
第三十四 射擊教育ハ主トシテ基本教育及戰闘射擊ニ依リ實施ス
基本教育ハ射擊技能ノ基礎ヲ確立シテ戰闘射擊ヲ準備シ戰闘射擊ハ戰場ニ於テ必要ナル射擊技能ヲ養成スルヲ主眼トス故ニ基本教育ニ在リテハ綿密周到ナル注意ヲ以テテクク射手ノ性質、體格ニ適應スル教育ヲ施シテ正確機敏ナル射擊術ヲ練磨シ戰闘射擊ニ在リテハ勉メテ實戰的ニ訓練シテ射擊教育ヲ完成スルヲ要ス
戰場ハ慘烈喧噪ヲ極メ且敵ヲ目視スルコト困難ナルヲ常態トスルヲ以テ幹部ハ常ニ思テ實戰場裡ノ光景ニ致シ射擊教育ヲシテテクク戰闘ノ要求ニ適應セシ

射擊教育ノ實施

第三十八 射擊教育ハ基本教育及戰闘射擊ニ依リ實施スルノ外有ユル機會ヲ利用シテ之ヲ實施シ其技能ノ向上ヲ期セサルヘカラス

指揮官以下疲勞困憊セル場合ノ教練ハ實戰的射擊教育ノ好機ナルヲ以テ幹部ハ此際特ニ其監督ヲ嚴密ニシ嚴正ナル指揮ノ下ニ射擊ノ諸法則ヲ勵行セシムルコト肝要ナリ

第三十九 輕機關銃射擊教育ノ爲ニハ特ニ定ムルモノノ外小銃ニ就キ示セル事項ヲ準用スルモノトス

第四十 步兵隊ニ在リテハ中隊(機關銃隊ヲ含マス)長ハ初年兵射擊教育ノ大部ヲ終リタルトキ小銃手中射擊技能優秀ナル者十名ヲ選抜シテ特別射手ト爲シ狙撃ノ技能ヲ附與スル如ク教育ヲ行フモノトス

第四十一 歩兵隊ノ在營年限短縮ノ適用ヲ受ケサル者ニ對シテハ本教範ニ定ムル射擊ヲ行ハシムルノ外聯隊長適宜規定シ其技能ヲ益、向上發達セシムルモノトス

第四十二 獨立守備隊ノ射擊教育ハ狀況ノ許ス限り本教範ヲ準用スヘキモノトス

第一章 基本教育

第四十三 基本教育ヲ分チテ小銃ニ在リテハ射擊豫行演習、狹窄射擊及基本射擊、輕機關銃ニ在リテハ射擊豫行演習及基本射擊トス

基本射擊ハ基本教育ノ主體ヲ成シ射擊豫行演習及狹窄射擊ハ之カ準備ノ爲ニ

一彈一敵

第三十五 射擊ハ銃器ニ信賴シ一彈一敵ヲ斃ス必中ノ信念ヲ以テ最モ正確機敏ニ實施シ得サルヘカラス故ニ先ツ正確ニ射擊シ得ルノ伎倆ヲ附與シ漸次至短時間内ニ眼心指ノ一致ヲ求メ以テ一發ノ發射時間ヲ短少ナラシムル如ク演練スルヲ要ス

第三十六 射擊教育ニ於テハ縱ヒ戰闘長時間ニ互ルモ常ニ正確ナル射擊ヲ實施シ得ルノ持久能力ヲ養成スルト共ニ戰況ニ應ジ數發ノ迅速的確ナル射擊ヲ實施シ得ルノ技能ヲ養成スルコト肝要ナリ而シテ實戰場裡ニ在リテハ動モスレハ速度過急トナリ亂射ニ陥ル虞アルカ故ニ特ニ此點ニ留意シテ教育ニ從事スルコト緊要ナリ

第三十七 射擊教育就中射擊術ノ教育ニ方リテハ幹部ハ特ニ熱誠ニシテ懇切事ニ從フヲ要ス教育ノ進度ヲ急クト之カ練磨ヲ中絶スルトハ共ニ教育ノ良果ヲ收メ難キモノトス

射擊術ヲ教育スルニ方リテハ徒ラニ外形ノ齊一ヲ望ムコトナク優秀者ノ伎倆ヲ益々助成セシムルト共ニ未熟者ノ過失ヲ速ニ發見シテ之ヲ矯正シ全員興味ヲ以テ全幅ノ努力ヲ之カ練磨ニ傾注セシムルハ實ニ射擊術教育ノ要諦ナリ

射手ヲシテ恐怖ノ念ヲ起サシムルトキハ射擊教育ノ進歩ヲ阻害スルコト大ナリ故ニ命中不良ノ射手ニ對シテハ懇切ニ之ヲ指導シ苟モ激情ヲ以テ之ニ對スルコトアルヘカラス蓋シ命中不良ハ射手ノ怠慢放逸ニ依ルコト稀ニシテ射手ノ自覺セサル過失ニ依ルコト多クレハナリ

射擊教練ノ進度

射擊ト體操

要領

教育順序

行フ本旨ト然レトモ基本射擊ハ實施上ニ於ケル諸種ノ制限ノ爲十分其目的ヲ達シ得サル點アルヲ以テ射擊豫行演習及狹窄射擊ノ適切ナル實施ニ依リ其不備ヲ補ヒ以テ本教育ノ目的ヲ達成セサルヘカラス

第四十四 射擊教育ハ教練ノ進度ニ伴ハシムルコト緊要ナリ而シテ基本射擊ハ教練ノ進度ト相伴ハサルコトアルニ鑑ミ射擊豫行演習等ヲ以テ之ヲ補足スルノ著意ヲ肝要トス初年兵第一期射擊教育ニ於テ特ニ然リ

第四十五 射擊教育ニ伴ヒ屢々體操ヲ實施シ射擊ニ必要ナル關節ノ柔軟ト筋力ノ強健トヲ得シメ以テ如何ナル場合ニ於テモ迅速堅確ナル据銃ヲ爲シ得シムルト共ニ持久能力ヲ養成スルヲ要ス

第一節 小銃

射擊豫行演習

第四十六 射擊豫行演習ニ在リテハ射手ヲシテ据銃、照準及擊發ノ要領ヲ修得セシメ以テ射擊術ノ基礎ヲ作り且諸種ノ目標ニ對シ各種ノ狀態ニ於ケル射擊ヲ練習セシメ益々其伎倆ヲ進歩上達セシムルコト緊要ナリ而シテ射擊豫行演習ハ教育ノ各期ヲ通シ絶エズ之ヲ行フノミナラス教練間機會アル毎ニ之ヲ實施スルヲ要ス

第四十七 射擊豫行演習ハ立射、膝射、伏射ヲ以テ基礎ノ教育ヲ行ヒ次ニ胸墻及各種ノ地形、地物ヲ利用スル射擊動作ヲ教育シ射手ノ習熟スルニ從ヒ漸次距離ヲ大ニシ終ニハ實距離ニ設置セル諸種ノ目標殊ニ視エ難キ目標ニ對シ

各種ノ姿勢ヲ以テ之ヲ行フヲ要ス又屢々實兵ヲ配置シ之ニ對シ照準、擊發ノ要領ヲ演練スルコト必要ナリ

瞬間現出スル目標或ハ運動スル目標ニ對スル射擊及劇動後ニ行フ射擊ハ射擊教育ノ進歩ニ伴ヒ射擊豫行演習ニ於テ十分之力練磨ヲ圖ルコト肝要ナリ

照準

照尺ノ裝法

第四十八 照準ハ如何ナル場合ニ於テモ正確ナラサルヘカラス

照準ヲ行フニハ距離ニ適當スル照尺ヲ採リ銃ヲ左右ニ傾クルコトナク照準線ヲ正シク照準點ニ向クルモノトス

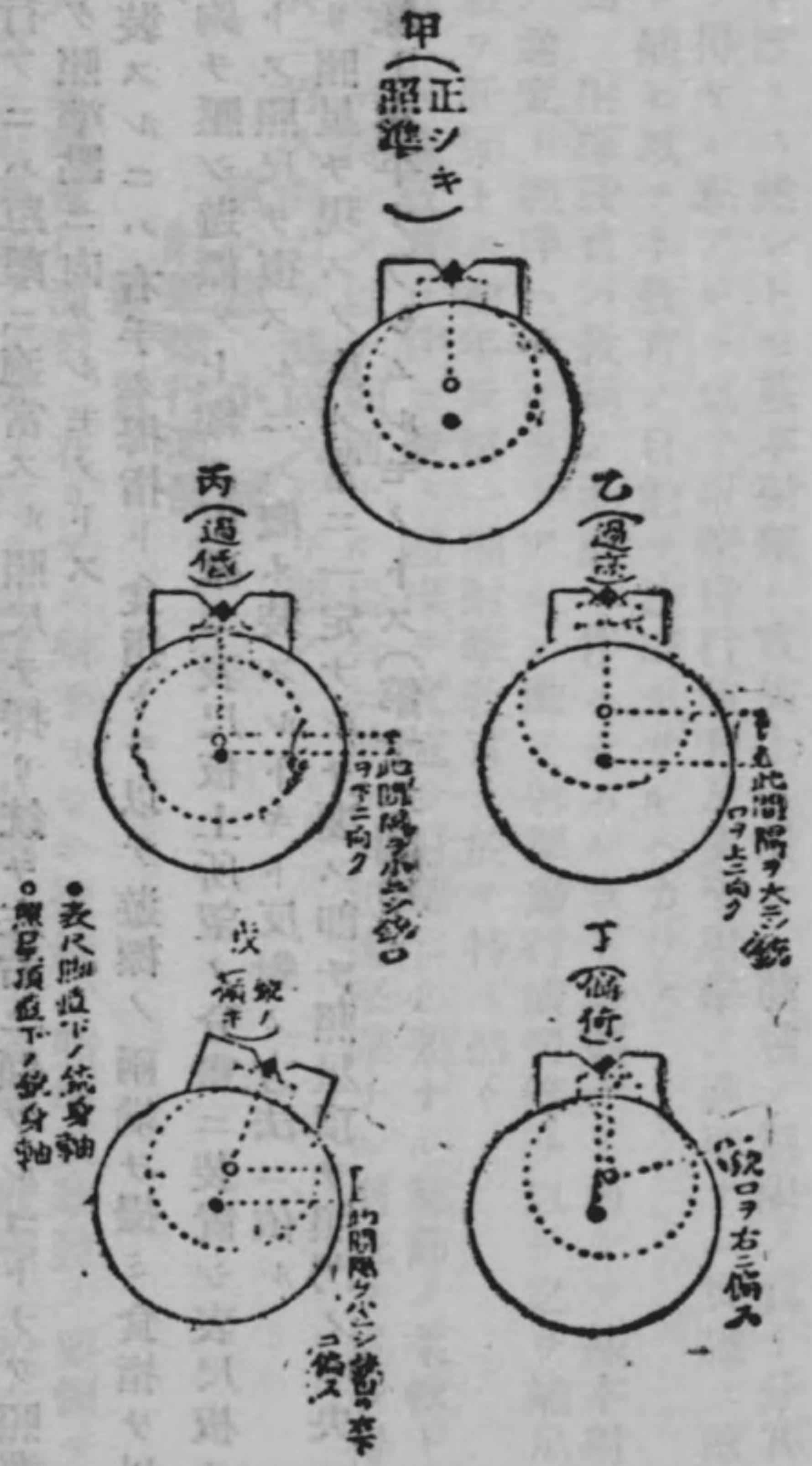
照尺ヲ裝スルニハ右手ノ拇指ト食指トヲ以テ遊標ノ兩端ヲ撮ミ食指ヲ以テ遊標駐鉤ヲ壓シ遊標ノ上縁ヲ正確ニ表尺板上所望ノ分畫ニ裝置シ表尺板ヲ起スモノトス照尺ヲ復スルニハ概ネ裝スルトキト反對ノ方法ニ依ル

照門ヨリ照星ヲ現スノ度ハ常ニ一定ナルヲ要ス即チ照星頂ヲ照門ノ中央ニシテ其兩縁ト水平ナラシムルモノトス(第十六圖甲)

照準要領
ノ教育

第四十九 兵卒ナシテ照準ノ要領ヲ會得セシムルニハ銃ヲ適當ノ臺上ニ置キ約十米ノ距離ニ在ル中徑二種ノ黑點ノ下際ニ正シク照準シタル景況ヲ知得セシム之カ爲要スレハ適宜身體ヲ支持セシメ以テ銃ニ觸ルコトナク左眼ヲ閉チ右眼ヲ以テ床尾踵ノ後方ヨリ先ツ照門ノ兩線水平ナリヤ否ヲ檢シ然ル後中央ヨリ照星頂ヲ通視セシム

圖 六 十 第



臺上照準
練習

照準點檢

鑑査法

照準誤差

照準ハ左眼ヲ閉チ右眼ノミニテ行フモノトス然レトモ兩眼ヲ開クニアラサレハ照準シ得サル者ハ之ヲ禁スルヲ要セス
第五十 兵卒正シキ照準ノ景況ヲ知得セハ各自ニ臺上ニ在ル銃ニ就キ照準ノ練習ヲ爲サシム
幹部ハ兵卒ノ照準ヲ檢査シ若誤アルトキハ之ヲ教示シ兵卒ヲシテ正シク照準シ得ルニ至ルマテ之ヲ修正セシムヘシ然レトモ過度ニ連續實施セシムルハ眼ヲ疲勞セシメ有害ナルコトニ注意スルヲ要ス
第五十一 照準ノ正否ヲ檢スルニハ照準鑑査法ヲ行フ其方法ハ銃ヲ臺上ニ置キ白紙ヲ貼リタル標的ヲ約十米ノ距離ニ設置シ之ニ對シ兵卒ヲシテ先ツ照準線ヲ指向セシメ次ニ助手ノ現ス鑑査的(中心ニ細孔ヲ穿チタル中徑二種ノ黑圓板ニ細竿ヲ附シタルモノ)ノ下際ニ照準線ノ達スル點ニ導カシム之ヲ終レハ助手ハ鉛筆ヲ以テ鑑査的ノ中心ヲ記シ然ル後少シク之ヲ移動ス
兵卒ハ銃ニ觸ルコトナク以前ノ照準線ヲ取り助手ヲシテ鑑査的ヲ動カサシメ前項ト同法ニ依リ再ヒ其中心ヲ記サシム
此ノ如クセハ多少隔リタル二點ヲ得ヘシ其離隔ノ大小ハ照準常ニ一樣ナリヤ否ヲ判別シ得ルモノニシテ此二點ノ中央ニ鑑査的ノ中心ヲ一致セシメ兵卒ノ照準シタル銃ヲ動カスコトナク其照準線ハ正シク鑑査的ノ下際ニ導カレア
リト否ヲ判別シ得ルモノニシテ此二點ノ中央ニ鑑査的ノ中心ヲ一致セシメ兵卒ノ照準シタル銃ヲ動カスコトナク其照準線ハ正シク鑑査的ノ下際ニ導カレア
第五十二 照準ノ際生シ易キ諸種ノ照準誤差ハ左ノ如キ結果ヲ來ス

据銃
照準
步操六三
遠距離照
尺
步操六三

照準固癖
要領
依托立射
据銃要領
步操六三

圖七十第

一基 銃据ルケ於ニ射立
面正



概ナ肩
ノ高ヤ
ニ依リ
ノ角度
大トナリ
照準ナラシム

据銃シタルトキ銃ハ概ナ目標ニ指向セラレアラハラス
(據射、伏射ニ在リテモ亦同シ)

第五十七 据銃
スルニハ兩手ヲ
以テ銃口ヲ上ク
ルコトナク體ニ
近ク迅速ニ銃ヲ
上ク床尾板ヲ肩
ノ凹ミ即チ襟ト
肩頭トノ間ニ壓
著ス
照準スルニハ据
銃スルト共ニ左
眼ヲ閉チ直ニ銃
ヲ照準セントス
ル點ニ向ケ精密
ニ照準ス
第五十八 遠キ
距離ノ照尺ヲ採
リテ照準スルト
キハ照尺度ノ増
加ニ從ヒ漸次床

照星ノ現出過高(第十六圖乙)ナルトキハ彈著チ高カラシメ之ニ反シ過低(第
十六圖丙)ナルトキハ彈著チ低カラシム
照星ノ現出照門ノ一側ニ偏倚(第十六圖丁)スルトキハ其偏倚シタル方ニ彈著
チ偏セシム
銃ヲ右或ハ左ニ傾ケテ(第十六圖戊)照準スルトキハ銃ノ傾キタル方ニ彈著チ
偏シ且低カラシム
第五十三 照準時間ノ永キコト及不正ナル照準ハ固癖トナリ易キヲ以テ教育
ノ當初ヨリ特ニ嚴密ニ矯正スルコト緊要ナリ
照準ノ教育ニ用フル材料ノ一例ヲ示セハ附圖第一ノ如シ
射撃ノ方法
第五十四 射撃ノ姿勢ハ身體ヲ凝ルコトナク堅確ニ保チ自然ノ狀態ニ在ルチ
要ス否サレハ銃ノ安靜ヲ得サルノミナラス照準頗ル困難ナリ而シテ被服及裝
具ノ身體ニ適合セサルコトモ亦射手ノ動作ヲ妨害スルモノトス
第五十五 最初兵卒ニ射撃術ノ要領ヲ教フルニハ依托セル立射ノ姿勢ヲ用フ
ルチ便トス
第五十六 据銃ノ要ハ照準、擊發間銃ヲ動搖セシメサル如ク之ヲ臂上ニ安定
セルムルニ在リ
各姿勢ニ於ケル据銃ノ要領及其要點ヲ圖示スレハ第十七乃至第二十二圖ノ如
シ而シテ各姿勢ニ於ケル据銃法ヲ教育スルニ方リテハ各人ノ體格ニ應シ懇切
ニ教示シ其要點ヲ深刻ニ體得セシムルヲ要ス